

山形県立博物館研究報告

第 8 号

BULLETIN

OF

THE YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

NO. 8

山 形 県 立 博 物 館

YAMAGATA PREFECTURAL MUSEUM

Kajo Machi, Yamagata City, Japan

March, 1987

序

当博物館の研究報告第8号を発行いたします。当館は、地学・植物・動物・考古・歴史・民俗・教育（分館）の7部門をもつ総合博物館で、山形県を中心に、自然・人文の両面にわたり、広く関係資料を収集、保存し、これをもとに調査研究・展示・教育普及の諸活動を行っております。

調査研究は、博物館の生命で、諸活動の中でもとくに重要な分野であります。その研究は、基礎的で地味なものが多いので、あまり人目につかないかと思えます。しかしこれらの集積の上にこそ、確実な学問体系が築かれ、よりよい展示と教育普及ができて参ります。当博物館は、多くの方がたの協力をいただきながら、こうした研究をさらに積み重ね、やがて「山形学」ともいふべき郷土の学を建設して参りたいものと念願しております。

本号には、まず今年度を実施した、「第四紀常設展示の一部展示替え」（第一展示室）の経過と、特別展「絵馬にみるなりわいと祭り」（特別展示室）の成果について記録しておきました。

他に研究報告として、「山形県の蛾類分布資料」の続編、「高櫓城の興亡について—戦国争乱期を中心として—」、「古代出羽国に関する二・三の問題」の三論考を収録しました。いずれも地域の問題に取り組んだ基礎的論考と思えます。

これらの諸論考が、山形県の自然や文化の理解のために、いささかでも役立つところがあれば幸いです。大方のご活用を念願する次第です。

昭和62年3月

山形県立博物館長 高橋賢一

目 次

| | |
|---------------------------------------|-----|
| 長澤 一雄：第四紀常設展示の一部展示替えについて…………… | 1 |
| 木俣 繁：山形県の蛾類分布資料(II)…………… | 9 |
| 野口 一雄：絵馬にみるなりわいと祭り…………… | 48 |
| 萩野 和夫：高搦城の興亡について 一戦国争乱期を中心として…………… | 右 1 |
| 加藤 稔：古代出羽国に関する二・三の問題…………… | 右30 |

第四紀常設展示の一部展示替えについて

研究員 長 澤 一 雄

1. はじめに

昭和61年度に、地学部門の第四紀常設展示のなかのテーマ展示「くりかえす氷期」について展示替えを行った。基本的な主旨は、既存の展示資料の精選と再編成を行うとともに、新しい資料と解説を加えてテーマのより具体化と構造化を図ることだった。以下にその経過・記録を報告するとともに、展示に関わる種々の問題と今後の課題についても若干の考察を試みた。

展示替えにあたっては、本館ナウマンゾウ化石の臼歯と大腿骨についての同定をして下さった亀井節夫氏(京都大学)、同定のためお手数をかけた宮本邵吉氏(西尾製作所)にお礼申し上げる。球果資料等を寄贈され、同定指導して下さいました山野井徹氏(山形大学)、鈴木雅宏氏(教育庁)に、そして展示替えについての助言と指導をして下さった高橋静夫氏(教育センター)にお礼を申し上げます。また過去に本館へナウマンゾウ化石を寄贈して下さいました工藤悦夫氏(村山市)、結城富士男氏(村山市)、藤田力氏(村山市)に改めてお礼申し上げます。

2. 展示の頽廃

博物館の活動は、「もの」をめぐる展開され、究極的には、「もの」と「ひと」との新たな価値関係への止揚を目指して行われるべきものであろう。その大きな部分は展示を通して行われている。従って我々は展示についてより深く考察していく必要がある。

博物館の活動は何も「展示」のみではない。多様な機能と、それらの相互作用と相乗効果によって博物館活動の目的が達せられる。こうした一般

論に異論はない。しかし、「展示」という行為をもたない博物館は存在しないことを考えると、やはり展示活動は博物館のかなり重要な位置を占めていると考えざるをえない。このことは同時に、展示の頽廃という危険性をも常に内包させていることでもある。展示努力の放棄は、すぐさま墮落した安直論と結びつく。外見上博物館は、何かを「展示」さえしていれば、何もしなくても何とか体裁を保てるという不可思議な一面をもち、それによってあたかも「存在」しているかのように錯覚されるからである。それは、とりあえず何かを展示しておく場当たり主義や、旧態依然の展示と方法にしがみ続ける消極論、また予算がなければ何もできないとする責任転嫁論、自分の専門以外は関係ないとする研究逃避主義等々を次々と生む。ついに博物館自体が自らの明確な意思と理念を見失って、「展示」は限りなく頽廃していく。

我々はこれを排するために、展示努力を絶えず継続させていく必要がある。この根底には何が支えとして在るべきなのか。その一つは「ひと」をより認識していこうとする哲学だろう。「もの」の価値化(資料化)は科学だが、「もの」と「ひと」との結合は哲学である。価値化の成功は、必ずしも展示の成功にはならない。観覧者のいない展示はあり得ないからであり、「ひと」の認識なくして「もの」の価値との結合を目指す展示もあり得ないからである。同様に博物館を取りまく社会がない限り博物館は存在し得ず、対象とする社会を認識していない博物館は存在意味を失う。このことは、博物館が自身を含めた社会の深い認識を要求

されていることであり、根本に社会との有機的結合を常に志向していく必要があることを意味する。博物館は社会に規定される社会的存在であり、展示作業は、「もの」の価値を社会化していく作業でもある。我々博物館人は、根底にこうした意識を常にもっておく必要があると考える。

哲学の貧困は、博物館を社会から遊離させ、そして「展示」はひとを疎外し、限りなく頻廃する。

3. 展示の検討と展示替えの方針

地学常設展示は、大まかに次のような足跡をたどってきた。昭和46年に開館したときは「部門別展示」としてスタートして、内容は分類展示の割合が大きかった。これが、昭和52年度に館全体の全面改装計画によって、「テーマ展示」を主とする展示に大きく変更された。資料の分類体系を重視する展示から、郷土山形を軸とするテーマを設定し、テーマを理解するために資料を配置する方法になった。その後昭和53年にヤマガタダイカイギュウが発掘され、同化石は昭和54年より常設展示に加わり、昭和60年に骨格レプリカが完成し、展示室の一部改装後に常設展示化された。こうしたなかでも、基本的には全面改装時のテーマ展示を主とする構想が現在まで引き継がれてきた。

テーマ展示は、情報の質の区分やパネルの構成の配慮、資料の精選化などその基本構想は優れたものと考えられ、一定の評価を得てきた。しかし新しい研究成果は、展示の解説や概念に、書き換えを要求してきている部分を生じさせたり、またテーマと展示資料の構成がうまく噛み合っていないところも部分的にあるなどの反省が出されていた。

第四紀展示については、現在と直接つながる重要な時代という認識から、展示スペースも比較的大きく使われて資料が配置されてきた。しかしながら、これらがテーマに対する十分な構造的な

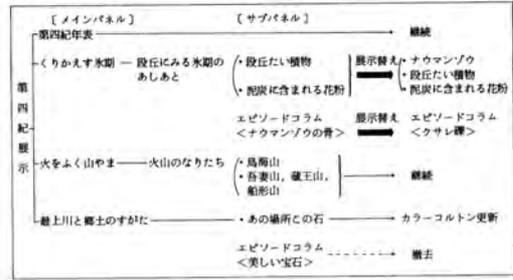


図1 第四紀展示の構成と展示替え

っているとは言えず、部分的に難解であったり、第四紀についての情報の淘汰があまり良くなかったりして、観覧者の関心をそれほど喚起させず、素通りされる展示との指摘もあった。

今回は予算の制約もあったが、こうした反省点も踏まえて、第四紀展示のなかの特に、テーマ「くりかえす氷期」についての部分展示替えを実施することになった。このため、第四紀全体のテーマ構成について基本的には変更せず、「くりかえす氷期」の内容のより具体化を目指す展示替えとなった。その方針の概略は次のようなものである（図1）。

(1) ナウマンゾウを第四紀を象徴する動物として、視覚的にも訴えるように大きく扱い、これまでのエピソードコラムから、サブパネル解説扱いとすること。

(2) 氷期の寒冷気候を示す資料として、新たに段丘堆積物中の針葉樹の球果等を封入標本として展示すること。

(3) 段丘堆積物資料を精選し、一部の資料を撤去すること。

(4) 段丘堆積物資料の「クサレ礫」を、エピソードコラムとして取り上げ解説すること。

(5) ナウマンゾウ、クサレ礫、球果封入標本、については、それぞれの扱いに応じた新たな解説文を作成すること。

(6) エピソードコラム「美しい宝石」は、第四紀展示との不整合性と展示スペースの制約から撤去すること。

(7) その他、「あの場所この石」のカラーコルトンを褪色劣化のため更新すること。

これらの方針は、最初から明確に確定されていたわけではなく、繰り返しての検討や見直し作業による最終的な姿である。

なお、今回の改装工事請負業者は、「くりかえす氷期」については西尾製作所、カラーコルトン更新については野村工芸社であり、要した経費を最後に示した(図12)。

4. 展示替えの記録と考察

展示替えは、計画から実施まで順調に進行したわけではなく、いろいろな問題にぶつかりながら行われてきた。あるものは解決されたが、あるものは問題性を内在したまま再び展示せざるをえなかった。これらについての経過・記録をはっきりさせ問題点について考察を加えておくことは、今後のよりよい展示を志向していくための大きな糧となっていくと信じる。

以下に各項目ごとに報告する。

☆ ナウマンゾウについて

本館のナウマンゾウ化石、左上顎第三大白歯及び右大腿骨化石は、いずれも村山市基点の最上川河床から川砂利採取中に発見された。大腿骨化石は昭和45年に、白歯化石は昭和50年に、それぞれ異なる時異なる人によって発見された。現在は行われていないが、この当時は一帯の川砂利採取が盛んで、河岸から沖へかけて川底は機械によって数mの深さまで掘られていた。2つの化石は、いずれも機械によって川砂利とともに掘り出されたため正確な記録はないが、産出場所はあまり離れ

| 項 目 | 内 容 |
|----------------------|------------------------|
| VTR日本列島のおいたち(地学) | VTRで人類の登場とナウマンゾウ渡来の紹介 |
| 第四紀年代表 (地学) | ナウマンゾウ出現の時期 |
| 第四紀展示のバックパネル(地学) | 氷期の人類とナウマンゾウ、火山活動のイラスト |
| 「人のすみはじめ」のバックパネル(考古) | 旧石器のナウマンゾウ狩りのイラスト |

図2 ナウマンゾウに関する展示

| 展示資料 | 位置づけ | 展示方法 | 展示替え | 位置づけ | 展示方法 |
|--------------|---------------|-------------------|------|------|-------------------|
| 右大腿骨 関節部 | エピソード ドコラム | エピソード用 展示台と解説文 | | → | サブパネル解説 の扱いとする |
| 左上顎第 三大白歯 | 単品展示 | ネームプレート のみ | | | |

図3 ナウマンゾウの展示替え

ていない。そこは、最上川にかかる基点橋から、300~400m上流、最上川左岸の河辺から数m~10m程度沖合、川底から深さ3mあたりの礫層中に埋もれていたものと思われる。

これらの化石は、昭和52年の改装時に、右大腿骨がテーマ内容に関連のある興味深い資料をスポット的に紹介する「エピソードコラム」として扱われ、その後に寄贈された白歯化石はネームプレートのみで、隣り合わせに展示されてきた。とはいえ、いずれの化石もこれまで十分に検討されてきたとはいえない。しかしながらナウマンゾウ自体は、地学のほか考古展示でもナウマンゾウ狩りのイラストパネルとして展示されるなど、第四紀の氷期を考えたり、人類との関わりを考える資料として再三提示されてきていた(図2)。

今回、こうした他の展示とのつながりや、第四紀地史におけるナウマンゾウの重要性などからも、ナウマンゾウを第四紀展示の一つの象徴的な資料として扱う必要があると考えた。このために以下のような展示の変更が行われた(図3)。ナウマンゾウの姿を視覚的によりわかりやすくし、それぞれの化石がどの部位なのかを明確にするため、ナウマンゾウの体型に切り抜いたアクリル板に資料を固定したこと(図4)、及び資料の位置づけ



図4 ナウマンゾウ展示

をエピソードコラムからサブパネル解説扱いにして、新たにパネルを製作したことである。

ナウマンゾウモデルの展示は、次のような経過をたどった。モデルは展示制約もあり、頭部と後肢部について製作した。基本モデルは、犬塚則久（東大）・高橋啓一（日本歯科大）原図（図5）の骨格モデルを参考とした。厚さ8mmのスモ

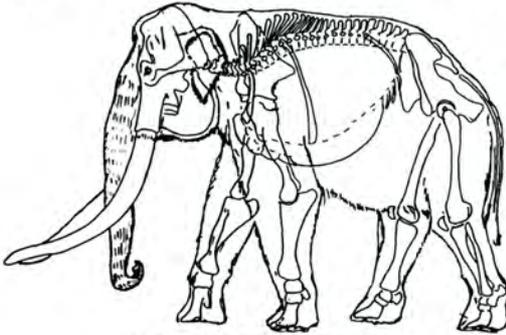


図5 ナウマンゾウ骨格図

ークブラウンの亚克力板を体型に切り抜き、表面に骨格の輪郭を掘って白に着色してその姿を表現した。そして、化石のレプリカをボルトで固定し、それぞれの部位がわかるようにした。最初の計画では、実物資料を直接亚克力板に埋め込む方法を考えたが、支持力の問題があることや、研究用や展示用のためにも実物は固定しない方がいいとの考えから、レプリカを製作することとした。結果としてはこの方法がよかったと思われる。モデルは天井からワイヤーで吊られ床で固定され、実物資料もすぐ下に配置して、観覧のしやすさにも配慮した。また臼歯化石の風化がすすんでおり、咬板が一部剝離してきていたことから、レプリカ製作時に京都の工場（西尾製作所）においてパラロイド注入補強を行った。同様の補強は大腿骨についても行った。

こうした過程の途中で一つの問題が生じた。これまで<右上顎第三大白歯>として同定され展示されてきた臼歯化石（図6）が、レプリカ製作の際にどうも左上顎のものらしいとの疑いが出てきたことである。臼歯咬合面の近心側から遠心側へ

かけての湾曲の様子は、左上顎の特徴を表しているようだった。急ぎよこのことを確かめるために、宮本郁吉氏（西尾製作所）を通じて亀井節夫氏（京大）に臼歯の再同定をお願いした。この結果、臼歯は<左上顎第三大白歯>であるとの回答を得た。また同時にお願いした右大腿骨については、<右大腿骨下部遠位端関節部>との回答であった。

臼歯が左上顎のものと同定されたことによって疑問は解決したものの、これによって展示計画の変更の必要が生じた。計画では、向って右に頭部左に後肢部を配置して、観覧者に対して象が右側面を見せる姿に展示することだったが、このままでは右上顎に左上顎第三大白歯が固定されることになり不都合を生じる。検討した結果、歯の位置を優先させることとして、象の左側面を見せるように向きを変えた。それでも結果として、臼歯の位置についてはいいが、後肢部は左後肢モデルに右大腿骨レプリカが固定されることになり、展示上の矛盾を残した。

こうした矛盾は、今回のナウマンゾウ展示がかかえていた一つの根本問題を浮き彫りにさせたように思える。それは基本的な収集記録の不備、同定記録の不完全さをはじめ、資料についての十分な検討が加えられてきたとは言えない状況で、展示の見ばえを優先するナウマンゾウの「形」ばかりの取り扱いに果して意味があるのかどうかとい



図6 左上顎第三大白歯

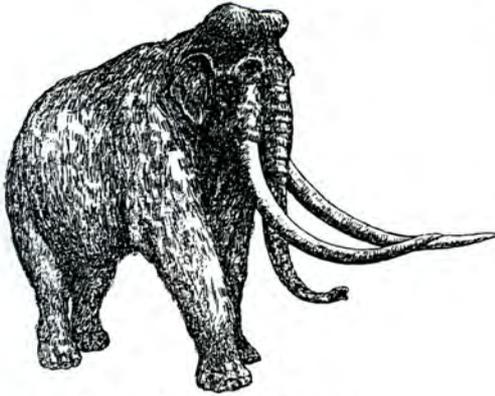


図7 ナウマンゾウイラスト

うことである。2つの資料が同一個体の化石である保障もないまま、展示形式からそう扱わざるえない無理も生じてくる。十分な研究成果に裏打ちされない展示は、本質をもたないぬけ殻の集積にすぎないことに論を待たない。それは館全体の在り方にも関わる問題をも含んでいるといえる。確かに視覚的展示効果のみに限れば、非常にわかりやすい展示方法といえるのだが。

その他、ナウマンゾウ解説パネル製作の際に、わかりやすさを考え、解説文とともにイラストも加えた。ナウマンゾウイラストは、体毛の状態や頭部のコブや背の形状などについて検討され、何度か修正された後に決められた(図7山本作図・西尾製作所)。しかし、他のバックパネルのイラストと今回のイラストに若干くい違いが生じ、観覧者の混乱を招くことも考えられ、今後の一つの課題となった。

☆ 球果封入標本について

氷期の寒冷な気候を示す資料として、新たに針葉樹の球果等の封入標本を加えて内容の充実を図っ

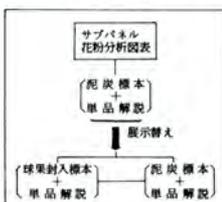


図8 球果封入標本の展示替え



図9 球果封入標本

た。封入標本は、花粉分析図表を主とするサブパネル解説を受ける形で配置され、これによってテーマが従来より具体化されたのではないかと考える(図8)。

球果等は、尾花沢I面相当の段丘堆積物中の泥炭などから採集されたもので、内容はハシバミ、ツノハシバミ、コメツガ、イラモミ、ヒメバラモミ、である。これらを封入標本とした後、観覧者の視線を考慮して製作した展示台の上に貼り付け固定した(図9)。これに展示の関連性を考えて新たに解説文を加えた。

今回、封入標本の製作は、従来のアクリル樹脂封入とはせず、新しい試みとしてシリコン樹脂封入の方法をとった。西尾製作所によると、今回のシリコン封入標本は博物館展示のものとしては他館に先がけた最初のものとのこと。製作は次のような概略で行われた。液浸標本(資料+アルコール+水分)の資料を取り出してアセトンに入れ、何回かアセトンを交換する。資料のアルコール分がアセトンに置換される。アルコールに混じる水分が資料を変質させるため、これを除去する目的で行われる。その後資料をシリコンオイルに入れて、アセトンをとばす。最後に透明なシリコン樹脂(KE108)に封入されて完成する。

シリコン封入の特徴は、透明感が高く美しいことと、封入時に発熱反応を伴わないので、資料をいためないことである。(アクリル封入は発熱反

応を伴う。)また樹脂が軟かいので、簡単に切り出して資料を再び研究用にすることも可能である。(アクリル封入はこれが困難。)欠点は、逆に軟質なため取り扱いに注意が必要なことであり、表面のほこりなどはスコッチテープの粘着面で除去するなどの注意を要することと、製作コストがやや高いことなどである。シリコン封入については、他の展示にもかなり応用範囲が広そうであり、資料の質に応じた封入方法の使い分けという観点からも今後の展示方法の参考となった。

☆ 段丘堆積物資料の精選について

サブパネルの河岸段丘の解説と、段丘模式断面図を受けて、種々の資料が配置されてきたが、やや雑然として内容がはっきりしないとの指摘や反省から資料の精選を行った。この結果、構成資料は赤色土、黒ボク、肘折パミス、泥炭、となった(図10)。そしてクサレ礫は、エピソードコラムとして取り上げることにした。

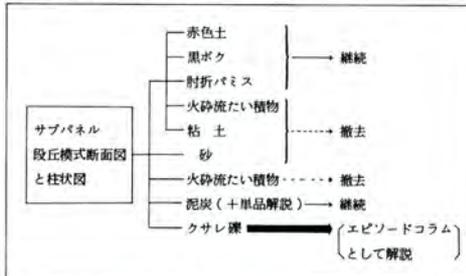


図10 段丘堆積物の展示替え

全体としてはすっきりとしたものの、反面やや資料不足の感もあり、構成をどうすればよりよい展示となるのかは今後の一つの課題となった。また、変更せずに用いたサブパネル解説には、段丘そのものが気候変動による海面変化と構造運動に直接かわる第四紀の新しい地形であるという視点が欠けていたと思われる。段丘成因の視点と、第四紀の火山活動のテフラ等を関連させながら段丘を解説していくことによって、段丘の個々の資料が有機的に結びついて生きてくるものと考えら

れる。このためにサブパネル内容を部分的に変更する方法もあるだろうが、もう一度第四紀展示全体を編成し直す必要があるのかもしれない。いずれにせよ平野や盆地、段丘といった第四系の上に人間社会が存在しているわりには第四紀という時代が認識されにくい状況で、現在につながる第四紀という時代と、ひととの関係を展示によって示していくことは博物館の一つの使命であると思われる。

☆ クサレ礫について

図10のように、クサレ礫を「間氷期に風化した礫」としてエピソードコラムで取り上げ解説した。展示台はこれまでの大腿骨展示で使用したものに、クサレ礫の解説を貼りつけて転用した(図11)。

従来の展示では、寒冷気候を指標する泥炭資料と高温多湿下のクサレ礫とが、よく解説されないまま併置されていてややわかりにくい内容であった。これがいくらかは解消されたのではないかと考えられる。



図11 クサレ礫展示

☆ 解説文について

展示替えに伴い、ナウマンゾウ、封入標本、クサレ礫、について、それぞれの位置づけに応じた解説文を作成した。解説文作成にあたって基本的に留意した事は次の点だった。

- (1) 字数を150字程度に抑え、かつ語るべきポイントをはっきりさせること。
- (2) 噛みくだいた表現を目指し、不必要な専門

用語は避けるが、必要な概念についての内容はまとまっていること。

(3) 全体のテーマ構成に対して整合的な内容であること。

(4) 引用した数値や用語、図表等の典拠を明らかにしておくこと。

案文は何度となく書き変えられては、その都度学芸員会議で修正されることを繰り返した。最終的に解説文が出来上がったものの、検討するとなおいくつかの反省点があり、課題を今後に残した。

字数について、150字を目指したものの、結果として200字を超えた。情報の精選と文章の簡潔化の余地はまだありそうだった。また、情報の区分と専門用語の使用範囲について不適切な部分があったり、内容の重複という部分があった。球果封入標本についての上下の関係で(図8)、下位の球果解説については、尾花沢I面、猿羽根I面といった段丘区分の専門用語を避けた。日常一般で慣れが薄いと考えられたからだが、上位のサブパネルではこれらの用語を使用し、しかも内容がより専門的で結果として情報区分の上下関係がやや逆転した。同じく左右の関係で、単品解説どうしの球果と泥炭の、一部内容が重複した部分があり、解説のくどさがあった。また、ナウマンゾウについては、内容がやや一般論的となり、山形との関連についての情報の希薄さがあったと思われる。さらには、前述したように、段丘堆積物のサブパネル解説にも今後の課題となる点がある。

解説文は言うまでもなく文字情報である。メディアとしては消極的であり、観覧者に十分読まれにくい欠点を必然的にもつ。しかしそれをもって解説文を安易に扱う事は「もの」を「ひと」に結びつける最終的な努力を放棄することだろう。良く精練されていなかったり、テーマ構成に対応しない解説文は、展示内容の不整合を生じさせ、展示目的を見失なわせる。解説文相互の縦と横の糸

がうまく噛み合ってこそ展示物が生きてきて、展示を通した博物館の語りかけが具現されてくるものだろう。解説文のもつ重要性は、展示方法の多様化によっても根本は変わることがない。

解説文では、いかに概念を凝縮させて簡潔な文体で表現できるかが追求され、いかにことばを蒸留させるかが求められ、同時に快いリズムをも要求される。対象とする人々を絶えず想定して、読む側と書く側の間を何度も行き来すること。こうした作業の繰り返しはぜひとも必要であり、この過程で解説文が精練され、同時に展示が学芸員のなかでも内面化されていくものとする。

時と共に地層が風化するように、解説文も風化する。最初良いと思われたものも、時間を経て見直してみると案外あちこちにあらが目立つ。これらを一一つ改善していく努力によってよりよい展示へ発展していくのだろう。気を付けなければならないのは学芸員自身の意識の風化であり、その進行は展示の風化を見分ける眼を失わせていく。

5. おわりに

博物館の展示は、それが全部なのではなく、蓄えられ積み重ねられてきた博物館活動の集積から必然的に濾下されてくる、「ひと」への問いかけの一部分だろう。観覧者にとっても、見る行為で全てが終了するのではなく、そこから何かが始まる入口である筈だ。そうでなければ、展示という行為は一回限りの見せ物小屋と同義に転落する。

展示替えは、博物館の理念により近づこうとする行為の一つであり、豊富な資料と研究成果に支えられた創造的な楽しい作業である筈だ。しかしながら、今回の展示替えで考えていたことは、展示の裏側に見え隠れする虚ろさについてであり、作業は苦痛でもあった。

今日ほど多種多様の博物館が建設されている時代はない。同時に今日ほどその在り方が問われ、活

発に議論されている時代はないようにも思える。本館も含めもう一度その在り方や方向性について問い直す必要があるのではないかと。

展示替えは、本館職員をはじめ様々な人々の協力によって一応終わったが、無論全ての終了を意味しない。今後も多くの人々の御批評をいただきながら、よりよい方向性を模索していきたいと考えている。

| 項 目 | 金 額 |
|--------------------|-----------|
| ○ ナウマンゾウ | |
| 臼歯レプリカ・アクリル板モデル製作 | 100,000 |
| 大腿骨レプリカ・アクリル板モデル製作 | 85,000 |
| 解説パネル | 55,000 |
| 現場取付調整費 | 320,000 |
| ○ 球果封入標本 | |
| 封入加工 | 270,000 |
| ラベル製作 | 10,000 |
| 展示台・解説パネル | 35,000 |
| 資料収集・調査費 | 125,000 |
| ○ カラーコルトン更新 | 152,000 |
| | 1,152,000 |

図12 展示替え経費概要

展示替えの参考文献

新潟県立自然科学館・野尻湖友の会(1986)野尻湖文化と氷河時代の自然 特別展解説書 2-7

平塚市博物館(1984)神奈川の化石・よみがえったナウマン象 特別展解説書 1-19

野尻湖発掘調査団 象狩りをした人たち 特別展解説書 大阪市立自然史博物館 8-17 30-33

亀井節夫・犬塚則久(1973)日本のナウマン象化石 日本化石集28 築地書館

亀井節夫(1967)日本に象がいたころ 岩波新書

亀井節夫(1978)象のきた道 中公新書

井尻正二監修(1975)野尻湖の発掘 1962~1973 124-153 共立出版

井尻正二(1968)化石 岩波新書

浜田隆士編(1981)続日本列島のおいたち 71-79, 153-157 東海大学出版会

加藤達也(1973)温海町の自然 温海町史別冊 81-85

沼野達明(1985)最上地方に産出する化石について 山形県地質誌 133

山野井徹(1981)道路の切り取り面と化石 山形応用地質第1号 20-24

山野井徹・山形理(1982)最上川中流の段丘と古環境 山形県学術調査会・最上川 46-53

山野井徹・阿子島功・鈴木雅宏(1986)山形・尾花沢盆地の第四系 日本地質学会第93年学術大会見学旅行案内書 57-84

鈴木雅宏(1985)新庄・尾花沢盆地の第四系について 山形県地質誌 118

加藤芳郎・近堂祐張・永塚鎮男(1977)古土壌 日本の第四紀研究 192-194 東京大学出版会

長谷川善和(1977)脊椎動物の変遷と分布 日本の第四紀研究 227-239 東京大学出版会

湊正雄(1974)日本の第四系 106-139 築地書館

千葉県文化財センター(1984)先土器時代 42-52 千葉県文化財センター

山形県立博物館(1984)展示改装整備事業報告 山形県立博物館研究報告第5号 3-23

山形県立博物館ニュース第69号(1982)

山形県立博物館ニュース第71号(1983)

地学団体研究会編(1970)地学事典 平凡社

原色樹木大図鑑(1985)北隆館

林弥栄(1969)有用樹木図説・材木編 誠文堂新光社

山形県の蛾類分布資料(II)

囑託 木 俣 繁

シャクガ科 GEOMETRIDAE

1. はじめに

前回に引き続き県内の蛾の分布資料として、今回はシャクガ科について記載することとする。

この研究を纏めるにあたり、一部の種の同定あるいはいろいろとご教示いただいた日本蛾類学会の井上寛博士、また、資料を提供して下さった東京の岸田泰則氏、横浜の柳田慶浩氏、浦和の市川和夫氏、故白畑孝太郎氏夫人禮子氏、山形東高校の菊地賢治氏、白鷹町の加藤和彦氏、山形の横倉明氏に対して心から感謝の意を表する次第である。さらに村山農業高校に保管されている蛾の標本を調べさせていただいたことに関して、関係諸先生方の協力を得たこと、また、仙台の山谷文仁氏には、その所蔵する蛾の標本の調査をまかされ、発表の機会を与えられたことに対して深く感謝する次第である。

2. 調査地域

従来の調査状況あるいは文献等からみて、ある程度調査地域がかたよっていることは否めない。その主な調査地域は次の通りである。

山形市：市街地、盃山、沼の辺、山寺、奥山寺、二口溪谷、面白山、高瀬、高瀬戸沢、瀬ノ原山、上宝沢、不動沢、門伝大平、仁田沢、唐松観音、笹谷峠

上山市：菖蒲、舟引山

蔵王連峰：西蔵王高原、蔵王ライン、蔵王温泉、観松平、蔵王坊平、蔵王御田神、蔵王

パラダイス、馬の背、地藏岳、雁戸山

大江町：古寺鉱泉、古寺

西川町：入間、本道寺、間沢、月山沢、志津、志津荒沢橋、桧原、上島、大井沢中村、大井沢根子、大井沢日暮合小屋

月山：姥沢小屋、湯殿山口、弥陀ヶ原、羽黒山

朝日連峰：天狗角力取場、天狗小屋、頭殿山、小朝日岳、鳥原山

朝日村：上名川、荒沢ダム、八久和林道

南陽市：大谷地

米沢市：市街地、館山、白布高湯、斜平山、愛宕山、笹野山、置陽

吾妻連峰：新高湯、大平、大平温泉、滑川温泉、天元台、ババ谷地、吾妻山

飯豊町：白川ダム

小国町：叶水、長者原

飯豊連峰：ヌクミ平、泡ノ湯

遊佐町：吹浦、三崎山、杉沢

平田町：三千坊谷地

八幡町：北青沢

酒田市：市街地、宮海、生石、松境、大森山、飛島

鶴岡市：市街地、堅苔沢、善宝寺、高館山、金峯山、大山上池、三瀬気比神社

温海町：戸沢、摩耶山、温海岳

鳥海山：鳥の海、ソブ谷地、千畳ヶ原、河原宿、湯ノ台、大台野、御田、笙ヶ岳

尾花沢市：山刀伐峠

大石田町

村山市：市街地，大久保，白鳥，葉山大円院

東根市：神町，大滝，寒風山木葉沢，関山，

間木野

天童市：市街地，舞鶴山，荒谷，原崎，石倉

中山町：岩谷

山辺町：どじょう沼

新庄市：新庄温泉

最上町：花立峠

真室川町：及位，野々村

戸沢村：古口

大蔵村：肘折温泉

3. 目 録

現在まで筆者が見ることの出来た文献等に記録されたものも，疑問のあるものを除き，すべての種を引用するとともに，未発表の資料としては，筆者の採集したもの，山形県立博物館所蔵の標本，故白畑氏の標本の中から未発表のもの，山谷氏の標本，村山農業高等学校の所蔵標本等，筆者の見ることの出来た標本のすべてを記録することとした。しかし，なお多くの未整理の標本があり，今回の報告に記載出来ないで残ったものもあり，それらの標本については，後日報告していきたい。

なお，データーの後ろ右肩に示した数字は，文献引用等を示したもので，本報文の最後に文献名をあげた。また，データーの後ろに()内に名前の書いてあるものは未発表の資料で，採集者の名前を記したものである。

GEOMETRIDAE シャクガ科

大型から小型まで非常にバラエティーに富んだグループで，種類数も多く，なかには冬期に成虫の出てくるフユシャクの仲間もいる。多くは夜行性であるが，昼に活動する仲間もいる。県内には

400種前後の種類があると推定されるが，現在まで判明しているのは次の317種類である。

Oenochrominae ホシシャク亜科

1. *Alsophila japonensis* (Warren) シロオビフユシャク (Fig.1)

西川町志津月山荘 1♂, 27-X-1985¹⁸⁾

2. *Inurois fletcheri* Inoue ウスバフユシャク (Fig.2)

西川町志津姥沢小屋 1♀, V-1983¹⁶⁾

上山市葉山温泉 1♂, 12-XII-1986(木俣)

3. *Inurois asahinai* Inoue フタスジフユシャク (Fig.3)

天童市舞鶴山 1♂, 23-XI-1976(博物館所蔵)

4. *Inurois tenuis* Butler ホソウスバフユシャク

山形市盃山¹¹⁾

Geometrinae アオシャク亜科

5. *Pingasa aigneri* Prout ウスアオアヤシャク (Fig.4)

山形市面白山 1♀, 10-VII-1982⁹⁾

山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984¹⁰⁾

山形市門伝大平 1♂, 8-VII-1985(木俣)

西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985¹⁸⁾

大江町古寺鉾泉 1♂, 20-VII-1985(木俣)

6. *Pachyodes superans* (Butler) オオアヤシャク (Fig.5)

朝日連峰天狗角力取場 1♂, 7-VIII-1961¹³⁾

鳥海山ソブ谷地³⁾

飯豊連峰ヌクミ平 2♀♀, VIII-1968(白畑);

1♂, 23-VIII-1968¹⁴⁾, 1♂, VIII-1969¹⁴⁾

山形市面白山 1♂, 24-VIII-1974(木俣)

東根市関山 2♀♀, 11-VIII-1978(博物館所蔵)

米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980(木俣)

- 蔵王連峰坊平 1♂, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾; 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾
 上山市蔵王ライン 4♂♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 大江町古寺鉱泉 1♂, 20-VII-1985(木俣)
 西川町志津月山荘 2♀♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
 中山町岩谷 2♂♂, 28-VI-1986(木俣)
 西川町志津 1♂, 26-VII-1986¹⁸⁾
7. *Dindica virescens* (Butler) ウスアオシヤク
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 山形市奥山寺 2♂, 30-VI-1973⁹⁾
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
 山形市面白山 1♂, 19-VII-1975⁹⁾; 1♂, 30-V-1982⁹⁾
 蔵王連峰坊平 1♂, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 17-VII-1982(木俣)
 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
 山形市瀬ノ原山 4♂♂1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VIII-1984(木俣)
 上山市蔵王ライン 2♂♂2♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 1♂2♀♀, 8-VII-1985(木俣)
 西川町志津 2♂♂, 26-VII-1986¹⁸⁾
8. *Agathia carissima carissima* Butler チズモンアオシヤク (Fig.6)
 酒田市 1♀, 25-VIII-1953¹⁴⁾
 小国町叶水 1 ex., 14-VI-1975(木俣)
 天童市荒谷 1♂, 19-VII-1982⁹⁾
 山形市高瀬 1♀, 16-IX-1984¹⁵⁾
9. *Aracima muscosa muscosa* Butler アトヘリアオシヤク
 西川町志津 1♀, 5-VII-1973¹³⁾
10. *Tanaorhinus reciprocata confuciaris* (Walker) カギバアオシヤク (Fig.7)
 山形市本町 1♀, 13-X-1961(木俣)
 本種の北限は、今のところ宮城県とされている。
11. *Geometra papilionaria subrigua* (Prout) オオシロオビアオシヤク (Fig.8)
 山形市高瀬戸沢 2♂♂, 4-VIII-1984¹⁵⁾
 東根市寒風山木葉沢 4♂♂, 29-VI-1985(木俣)
12. *Geometra dieckmanni* Graeser カギシロスジアオシヤク
 西川町間沢 1♂, 3-VIII-1973⁴⁾
 小国町叶水 1♂, 14-VI-1975(木俣)
 村山市大久保 1♂, 26-VII-1973⁷⁾
 東根市大滝 1♂1♀, 26-VIII-1977(博物館所蔵)
 東根市関山 2♂♂, 15-VI-1978(博物館所蔵)
 山形市面白山 3♂♂, 19-VI-1982⁹⁾; 1♂, 10-VII-1982⁹⁾
 山形市西藏王高原 3♂♂1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾; 2♂♂, 18-VIII-1984(木俣); 1♂, 15-IX-1984(木俣)
 山形市高瀬戸沢 3♂♂1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾; 1♂, 4-VIII-1984¹⁵⁾
 上山市蔵王ライン 8♂♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 山形市不動沢 2♂♂, 14-VII-1984(木俣)
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 4♂♂, 8-VII-1985(木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985¹⁸⁾
 中山町岩谷 1♀, 28-VI-1986(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
13. *Geometra valida* Felder & Rogenhofer クロスジアオシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾
 山形市緑町 1♂, 14-VI-1961(木俣)

- 酒田市 1♂, 29-VI-1961¹³⁾
 小国町長者原 1♂, 9-VII-1963(白畑)
14. *Geometra glaucaria* Ménétrière コシロオビ
 アオシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 17-VII-1982(木俣)
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984(木俣)
 上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 山形市蔵王高原 4♂♂1♀, 11-VII-1984¹⁰⁾
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984¹⁰⁾
 中山町岩谷 1♀, 28-VI-1986(木俣)
 大蔵村肘折温泉 3♀♀, 19-VII-1986(木俣)
15. *Jodis praerupta* (Butler) マルモンヒメアオシヤク
 山形市奥山寺 1♂, 30-VI-1973
16. *Gelasma ambigua* (Butler) ツバメアオシヤク
 西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
 中山町岩谷 1♀, 3-VIII-1986(木俣)
17. *Gelasma fuscofrons* Inoue ズグロツバメアオシヤク (Fig.9)
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
18. *Hemithea aestivaria* (Hübner) キバラヒメアオシヤク
 山形市奥山寺 1♂, 30-VI-1973⁹⁾
 天童市舞鶴山 1♀, 3-VII-1977(博物館所蔵)
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾
19. *Chlorissa amphitritaria* (Oberthür) ハラア
 カアオシヤク
 山形市高瀬 1♂1♀, 10-IX-1983¹⁵⁾
 山形市蔵王高原 1♀, 30-VI-1984¹⁰⁾
20. *Chlorissa anadema* (Prout) ホソバハラア
 アオシヤク
 酒田市飛島⁸⁾
 天童市荒谷 1♂, 6-VIII-1982⁹⁾
 山形市蔵王高原 1♂, 14-VI-1984¹⁰⁾
- 大蔵村肘折温泉 9♀♀, 3-VII-1986(木俣)
 (4♀♀, 博物館所蔵); 1♀, 19-VII-1986
 (木俣)
 中山町岩谷 1♀, 3-VIII-1986(木俣)
 山形市蔵王温泉 1♂, 30-VIII-1986(木俣)
21. *Diplodesma takahashii* Inoue ヒメアオシヤク (Fig.10)
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾
22. *Culpinia diffusa* (Walker) アカアシアオシヤク
 酒田市飛島⁸⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾
23. *Comibaena procumbaria* (Pryer) ヨツモン
 マエジロアオシヤク
 酒田市飛島⁸⁾; 1♂, VI-1969¹²⁾
 小国町叶水 1♂, 14-VI-1975(木俣)
 山形市高瀬 1♂, 10-IX-1983¹⁵⁾
 本種の北限は、宮城県とされている。
24. *Comibaena amoenaria* (Oberthür) ヘリジロ
 ヨツメアオシヤク (Fig.11)
 山形市奥山寺 2♂♂, 30-VI-1973⁹⁾
 山形市山寺 1♀, 31-VIII-1977(博物館所蔵)
 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
25. *Comibaena delicatior* (Warren) クロモンア
 オシヤク
 米沢市館山 1♂, 7-IX-1970(加藤)
 西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁴⁾
 村山市大久保大原 1♂, 4-VIII-1974⁷⁾
 山形市山寺 2♀♀, 31-VIII-1977(博物館所蔵)
 西川町月山沢 1♀, 15-IX-1979¹²⁾
 天童市荒谷 1♂, 9-IX-1980⁹⁾; 1♂, 6-VIII-1982⁹⁾; 1♂, 3-IX-1982(木俣); 1♀, 9-IX-1982(木俣)
 山形市面白山 2♂♂1♀, 19-VI-1982⁹⁾
 山形市高瀬 1♂1♀, 10-IX-1983¹⁵⁾
 山形市蔵王高原 1♂, 30-VI-1984¹⁰⁾; 1♂,

- 18-VIII-1984¹⁰⁾; 1♀, 15-IX-1984(木俣)
 山形市高瀬戸沢 2♂♂1♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
 中山町岩谷 2♂♂2♀♀, 3-VIII-1986(木俣)
26. *Thetidia albocostaria* (Bremer) ヨツメアオ
 シャク (Fig.12)
 酒田市飛島⁸⁾; 1♂, VI-1969¹²⁾
 山形市面白山 1♀, 27-VII-1974⁹⁾
 村山市北町 1♂, 1-VII-1974⁷⁾
27. *Hemistola veneta* (Butler) コシロスジアオ
 シャク (Fig.13)
 酒田市 1♀, 5-IX-1961¹⁴⁾
 村山市北町 1♀, 25-VII-1974⁷⁾
28. *Hemistola tenuilinea* (Alphéraky) ハガタキ
 スジアオシャク
 酒田市 1♂, 12-VII-1949¹³⁾
29. *Comostola subtiliaria nympha* (Butler) コヨ
 ツメアオシャク (Fig.14)
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
 山形市高瀬 1♀, 10-IX-1983¹⁵⁾
 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
 中山町岩谷 1♀, 15-IX-1986(木俣)
- Sterrhinae ヒメシャク亜科
30. *Pylargosceles steganioides steganioides*
 (Butler) フタナミトビヒメシャク (Fig.15)
 村山市大久保大原 1♀, 25-VII-1974⁷⁾
31. *Timandra griseata prouti* (Inoue) ベニスジ
 ヒメシャク (Fig.16)
 村山市楯岡 1♀, 29-V-1949⁷⁾
 酒田市 1♀, 10-V-1961¹⁴⁾
 天童市荒谷 1♀, 31-VIII-1982(木俣); 1♀,
 9-IX-1982(木俣)
 山形市西藏王高原 1♀, 15-IX-1984(木俣)
32. *Timandra comptaria* Walker コベニスジヒ
 メシャク (Fig.17)
- 村山市楯岡 1♂, 26-V-1949⁷⁾
 酒田市宮海 1♀, 1-VI-1961¹⁴⁾
 西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁴⁾
 天童市荒谷 1♀, 28-VIII-1980(木俣); 1♂,
 6-VIII-1982(木俣); 1♀, 31-VIII-1982
 (木俣); 3♂♂, 9-IX-1982(木俣)
 山形市面白山 1♂, 3-IX-1982(木俣)
33. *Timandra apicirosea* (Prout) フトベニスジ
 ヒメシャク (Fig.18)
 村山市北町 1♂, 20-VII-1974⁷⁾
 村山市大久保大原 1♀, 5-VIII-1974⁷⁾
 西川町上島 1♂, 2-VIII-1979¹²⁾; 1♂, 2-IX
 -1979¹²⁾
 天童市荒谷 2♀♀, 19-VI-1982(木俣)
 山形市西藏王高原 1♀, 15-IX-1984(木俣)
34. *Timandra dichela* (Prout) ウスベニスジヒ
 メシャク (Fig.19)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 西川町月山沢 1♂, 15-IX-1979¹²⁾
 天童市荒谷 1♀, 7-VIII-1982(木俣); 2♀
 ♀, 31-VIII-1982(木俣)
35. *Somatina indicataria morata* Prout ウンモ
 ンオオシロヒメシャク (Fig.20)
 天童市荒谷 1♀, 1-IX-1982⁹⁾; 1♀, 13-
 IX-1982(木俣)
 山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾;
 1♂, 30-VI-1984¹⁰⁾; 2♂♂, 11-VII-1984
¹⁰⁾; 1♂, 18-VIII-1984¹⁰⁾
 山形市高瀬 1♂, 18-IX-1983(木俣); 1♂,
 16-IX-1984¹⁵⁾
 中山町岩谷 1♀, 28-VI-1986(木俣)
36. *Problepsis plagiata* (Butler) ウススジオ
 シロヒメシャク (Fig.21)
 大蔵村肘折温泉 1♂, 3-VII-1986(木俣)
37. *Problepsis superans superans* (Butler) ヒト
 ツメオオシロヒメシャク (Fig.22)

- シロナミシャク (Fig.28)
山形市蔵王高原 1♀, 29-V-1984¹⁰⁾
56. *Esakiopteryx volitans* (Butler) ウスベニスジナミシャク (Fig.29)
山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
57. *Lobophora halterata ijimai* Inoue シロシタヒメナミシャク (Fig.30)
山形市不動沢 1 ex., 4-VI-1984¹⁰⁾
58. *Epilobophora obscuraria* (Leech) アトスジグロナミシャク (Fig.31)
大蔵村肘折温泉 1♂, 3-VII-1986 (木俣)
59. *Otopecta frigida* (Butler) クロフシロナミシャク (Fig.32)
山形市高瀬戸沢 1♂, 25-IV-1983¹⁵⁾
山形市瀬ノ原山 1♀, 1-V-1983¹⁵⁾
60. *Naxidia maculata* (Butler) ゴマダラシロナミシャク (Fig.33)
吾妻連峰新高湯 1♂, 29-VII-1971¹⁴⁾
山形市面白山 1♂, 19-VI-1982⁹⁾
大江町古寺鉱泉 1 ex., 20-VII-1985 (木俣)
61. *Carige cruciplaga cruciplaga* (Walker) ホシスジトガリナミシャク
村山市葉山⁷⁾
山形市奥山寺 1♂, 8-VIII-1982⁹⁾
62. *Carige scutilimbata* Prout ホソバトガリナミシャク (Fig.34)
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
村山市綱取 1♀, 10-VIII-1974⁷⁾
山形市面白山 1♀, 19-VI-1982⁹⁾
本種の北限は、宮城、山形両県とされている。
63. *Trichobaptia exsecuta exsecuta* (Felder & Rogenhofer) シロオビクロナミシャク (Fig.35)
飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 5-VI-1966 (白畑)
山形市二口溪谷 1♂1♀, 22-VIII-1973 (木俣)
山形市奥山寺 1♂, 8-VIII-1982⁹⁾
- 蔵王連峰舟引山 1♀, 16-VII-1984¹⁰⁾
64. *Trichodezia kindermanni leechi* Inoue シラフシロオビナミシャク (Fig.36)
山形市面白山 1♂, 18-V-1975⁹⁾; 1♂1♀, 30-V-1982⁹⁾
村山市白鳥宮沢 1♀, 9-VIII-1974⁷⁾
65. *Baptia tibiale aterrimum* (Butler) シロホソオビクロナミシャク
朝日連峰頭殿山⁸⁾
山形市雁戸山⁸⁾
66. *Heterophleps fusca fusca* (Butler) ウスクモナミシャク (Fig.37)
上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984 (木俣)
大江町古寺鉱泉 1♀, 20-VII-1985 (木俣)
本種の分布は、宮城県以南とされている。
67. *Heterophleps pallescens* (Warren) ミツボシナミシャク
上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
本種の分布は、宮城県以南とされている。
68. *Heterophleps confusa confusa* (Wileman) コウスグモナミシャク (Fig.38)
中山町岩谷 1♀, 3-VIII-1986 (木俣)
69. *Leptostegna tenerata* Christoph アオナミシャク
西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 2♂♂6♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984
東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
70. *Tyloptera bella bella* (Butler) ホソバナミシャク
飯豊連峰ヌクミ平 1 ex., 24-VIII-1968¹²⁾
温海町戸沢 1♂, 8-VI-1974¹³⁾
山形市面白山 1♂1♀, 24-VIII-1974⁹⁾; 1♂1♀, 19-VI-1982⁹⁾
西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 2♂♂, 26-VII-1986¹⁸⁾

- 東根市関山 1♂, 11-VIII-1978 (博物館所蔵)
 西川町上島 1 ex., 2-IX-1979¹²⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾; 2♂♂
 2♀♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾; 1♂
 1♀, 18-VIII-1984¹⁰⁾
 山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984 (木俣)
 東根市寒風山木葉沢 1♂2♀♀, 29-VI-1985
 (木俣)
 山形市門伝大平 2♂♂1♀, 8-VII-1985 (木俣)
 中山町岩谷 1♂1♀, 28-VI-1986 (木俣)
71. *Brabira artemidora artemidora* (Oberthür)
 キリバネホソナミシャク (Fig.39)
 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 1-VII-1970¹⁴⁾
 月山羽黒山 1♀, 13-IX-1972¹³⁾
 山形市面白山 1♀, 30-V-1982⁹⁾
 西川町志津姥沢小屋 2♀♀, V-1983¹⁶⁾
 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
 西川町志津 1♂, 26-VII-1986¹⁸⁾
72. *Macrohastina azela azela* (Butler)
 オモドキナミシャク (Fig.40)
 山形市面白山 1♂, 19-VI-1982⁹⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂, 3-VII-1984¹⁵⁾
73. *Xanthorhoe quadrifasciata ignobilis*
 (Butler) ヨスジナミシャク
 山形市奥山寺 1♀, 3-IX-1973⁹⁾
 山形市西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾
 上市市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
74. *Xanthorhoe dentipostmediana* Inoue アカ
 マダラシマナミシャク
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾
 本種は、北海道の中部山岳と本州の中部山地
 に分布するものとされていた。
75. *Xanthorhoe saturata* (Guenée) フトジマナ
 ミシャク
 村山市北町 1♀, 24-VII-1974⁷⁾
 村山市大久保大原 1♀, 17-VIII-1974⁷⁾
 酒田市北里町 1♀, 20-IX-1978¹⁴⁾
76. *Xanthorhoe biriviata angularia* (Leech)
 ナカシロスジナミシャク
 天童市原崎 1♀, 17-IV-1977 (博物館所蔵)
 山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
77. *Xanthorhoe hortensiararia* (Graeser) フタト
 ビスジナミシャク
 村山市楯岡 1♂, 21-V-1949⁷⁾
 村山市大久保大原 1♀, 2-VI-1974⁷⁾; 1♀,
 12-VII-1974⁷⁾; 1♂, 21-VIII-1974⁷⁾
 山形市松波 1♂, 12-V-1977 (木俣)
 山形市山寺 1♀, 21-V-1977 (博物館所蔵)
78. *Xanthorhoe muscipata* (Christoph) ツマ
 グロナミシャク
 山形市雁戸山⁸⁾
 中山町岩谷 1♂2♀♀, 15-IX-1986 (木俣)
79. *Orthonama obstipata* (Fabricius) トビスジ
 ヒメナミシャク
 村山市大久保大原 1♀, 1-VIII-1974⁷⁾; 1♂,
 4-VIII-1974⁷⁾
80. *Euphyia cineraria* (Butler) ハコベナミシャ
 ク
 山形市不動沢 2♂♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
 山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984 (木俣)
 山形市西藏王高原 1♂, 14-VI-1984¹⁰⁾; 1♂,
 15-IX-1984 (木俣)
81. *Amoebotricha grataria* (Leech) ニッコウナ
 ミシャク
 山形市笹谷峠 1♀, 28-IX-1968¹⁰⁾
82. *Microcalcarifera obscura obscura* (Butler)
 フタモンクロナミシャク (Fig.41)
 天童市舞鶴山 1♀, 27-V-1978 (博物館所蔵)

本種の分布は、宮城県以南とされている。

83. *Electrophaes corylata granitalis* (Butler) キンオビナミシヤク (Fig.42)

山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾

山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾

東根市寒風山木葉沢 4♀♀, 29-VI-1985 (木俣)

84. *Electrophaes recens* Inoue ヒメキンオビナミシヤク (Fig.43)

山形市面白山 1♂, 30-V-1982 (木俣)

山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾

山形市高瀬戸沢 2♂♂, 4-VIII-1984¹⁵⁾

85. *Epirrhoe supergressa supergressa* (Butler) フタシロスジナミシヤク (Fig.44)

米沢市館山 1♀, 31-VIII-1970 (加藤)

村山市大久保大原 1♂, 15-VII-1974⁷⁾

山形市面白山 1♂, 30-V-1982 (木俣)

天童市荒谷 2♂♂, 11-IX-1982⁹⁾

上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾

東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985 (木俣)

86. *Idiotephria evanescens* (Staudinger) ナカモンキナミシヤク

山形市西蔵王高原 1♀, 19-V-1984¹⁰⁾; 1♂
1♀, 29-V-1984¹⁰⁾

山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984

87. *Idiotephria amelia* (Butler) モンキナミシヤク

山形市山寺 1♂2♀♀, 21-V-1977(博物館所蔵)

88. *Hydriomena furcata nexifasciata* (Butler) ヤナギナミシヤク

蔵王連峰御田神 3♂♂, 30-VII-1984¹⁰⁾; 6♂♂6♀♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾

89. *Triphosa sericata sericata* (Butler) マエモンオオナミシヤク (Fig.45)

鳥海山御田 VIII-1966³⁾

米沢市 1♂, 2-V-1973 (山谷)

天童市荒谷 1♀, 1-XI-1982 (木俣)

90. *Rheumaptera latifasciaria* (Leech) オイワケヤエナミシヤク (Fig.46)

山形市高瀬戸沢 1♀, 10-VII-1983¹⁵⁾

91. *Rheumaptera hecate hecate* (Butler) サカハチクロナミシヤク (Fig.47)

朝日町一ツ沢 1♂, 5-VI-1979 (木俣)

蔵王連峰坊平 3♂♂3♀♀, 2-VII-1983¹⁰⁾

山形市門伝大平 1♂1♀, 8-VII-1985 (木俣)

92. *Photoscotosia atrostrigata* (Bremer) ネグロウスベニナミシヤク (Fig.48)

米沢市白布高湯 1♂, 26-IX-1970 (白畑)

村山市甌岳 2♂♂1♀, 13-IX-1975⁷⁾

山形市面白山 1♀, 17-IX-1977 (木俣)

西川町上島 1♂, 2-IX-1979¹²⁾

中山町岩谷 1♀, 28-VI-1986 (木俣)

93. *Photoscotosia lucicolens* (Butler) オオネグロウスベニナミシヤク (Fig.49)

山形市笹谷峠 1♀, 28-IX-1968 (木俣)

朝日村荒沢ダム 1♀, 23-X-1982 (木俣)

蔵王パラダイス 1♂1♀, 21-V-1983¹⁰⁾;
1♂1♀, 19-IX-1983¹⁰⁾

上山市蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾

本種は先に *Photoscotosia atrostrigata* (Bremer) ネグロウスベニナミシヤクとされていたが、新潟の佐藤力夫氏により、*Ph. atrostrigata* (Bremer) ネグロウスベニナミシヤクと *Ph. lucicolens* (Butler) オオネグロウスベニナミシヤクの2種に区別されることになった(1986)¹⁹⁾。そのため、従来の古い記録ではこの2種類のどれに入るかわからないので、今回は標本を見ることが出来たものについてのみ記録することとした。

94. *Callabraxas maculata* (Swinhoe) オオナミシヤク

- 鳥海山 1♂, 8-VI-1961¹⁴⁾
 松山町柏谷沢 1 ex., 6-VI-1965¹²⁾
95. *Calteulepe whitelyi leechi* Inoue ツマキ
 シロナミシャク (Fig.50)
 山形市奥山寺 1♀, 30-VI-1973⁹⁾
 山形市面白山 1 ex., 15-VII-1975⁹⁾; 1♂
 3♀♀, 19-VI-1982⁹⁾
 山形市高瀬戸沢 3♀♀, 3-VII-1984 (木俣)
 上山市蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 山形市西藏王高原 1♂1♀, 11-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 20-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985 (木俣)
96. *Eucosmabraxas placida propinqua* (Butler)
 キベリシロナミシャク (Fig.51)
 蔵王連峰御田神 1♂, 30-VII-1984(木俣)
97. *Eucosmabraxas evanescens evanescens*
 (Butler) マルモンシロナミシャク (Fig.52)
 山形市雁戸山⁸⁾
 最上町花立峠 1♀, 16-VII-1961¹⁴⁾
 山形市上宝沢 1♂, 10-VII-1971
 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986 (木俣)
98. *Callygris compositata compositata* (Guenée)
 ナミガタシロナミシャク
 酒田市 1♂, 10-VII-1956¹²⁾
99. *Eulithis ledereri inurbana* (Prout) ウスト
 ビモンナミシャク (Fig.53)
 吾妻連峰新高湯 2♂♂, 1-IX-1971¹²⁾¹³⁾
 山形市面白山 1♂, 19-VII-1975⁹⁾
 山形市不動沢 2♂♂3♀♀, 14-VII-1984¹⁰⁾
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 西川町志津月山荘 1♂, 3-VIII-1985¹⁷⁾
 中山町岩谷 1♀, 28-VI-1986 (木俣)
100. *Eulithis convergenata* (Bremer) ヨコジ
 マナミシャク (Fig.54)
 山形市雁戸山⁸⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
- 山形市面白山 1♀, 15-VII-1975⁹⁾
 吾妻連峰西吾妻山ババ谷地 1♂, 2-VIII-1980
 (木俣)
 米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
 大蔵村肘折温泉 1♂, 19-VII-1986 (木俣)
 中山町岩谷 1♂, 3-VIII-1986 (木俣)
101. *Gandaritis fixseni* (Bremer) キマダラオ
 オナミシャク (Fig.55)
 酒田市生石 1♂, 23-VII-1961¹⁴⁾
 吾妻連峰新高湯 1♀, 29-IX-1971¹³⁾
 鶴岡市堅苔沢 1♂, 13-X-1974
 村山市葉山(岩野) 1♂, 8-IX-1973⁷⁾
 山形市不動沢 1♂, 14-VII-1984¹⁰⁾
 蔵王連峰舟引山 1♂1♀, 16-VII-1984¹⁰⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 15-IX-1984¹⁰⁾
102. *Gandaritis agnes agnes* (Butler) キガシ
 ラオオナミシャク (Fig.56)
 山形市面白山 1♀, 19-VII-1975⁹⁾
 山形市不動沢 4♀♀, 14-VII-1984¹⁰⁾
 蔵王連峰舟引山 1♀, 16-VII-1984¹⁰⁾
103. *Lampropteryx minna* (Butler) アトクロナ
 ミシャク
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 西川町志津 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
104. *Evecliptopera decurrens illitata*
 (Wileman) セスジナミシャク
 酒田市飛鳥⁸⁾
 米沢市白布高湯 1 ex., 27-IX-1970¹²⁾
 村山市大久保大原 1♀, 11-VIII-1974⁷⁾
 山形市山寺 1♀, 27-V-1978(博物館所蔵)
 天童市荒谷 1♀, 19-VII-1982⁹⁾
 山形市西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾; 1
 ♀, 15-IX-1984 (木俣)

- 山形市高瀬 1♀, 16-IX-1984¹⁵⁾
 中山町岩谷 1♂2♀♀, 15-IX-1986 (木俣)
105. *Ecliptopera umbrosaria umbrosaria* (Motschulsky) オオハガタナミシャク
 酒田市飛鳥⁸⁾; 1♀, 6-VI-1970¹²⁾
 村山市大久保大原 1♂, 21-V-1974⁷⁾
 小国町叶水 3♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
 蔵王連峰坊平 1♀, 28-VII-1979¹⁰⁾
 山形市面白山 3exs., 30-V-1982⁹⁾
 天童市荒谷 1♂1♀, 1-IX-1982⁹⁾
 山形市西蔵王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾;
 2♂♂, 18-VIII-1984¹⁰⁾; 1♂, 15-IX-1984
 (木俣)
 山形市瀬ノ原山 3♂♂, 7-VI-1984¹⁵⁾
 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾; 5♂♂
 1♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
106. *Ecliptopera pryri* (Butler) ソトキナミシャク
 鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
 吾妻連峰新高湯 1♂, 29-IX-1971¹²⁾; 1ex.,
 29-IX-1972¹³⁾
107. *Eustroma reticulatum obsoletum* Djakonov
 アミメナミシャク
 山形市面白山 1♂, 16-VIII-1975 (木俣)
 蔵王連峰御田神 1♂, 30-VII-1984¹⁰⁾
108. *Eustroma aerosum* (Butler) ミヤマアミメ
 ナミシャク (Fig.57)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 東根市関山 1♀, 15-VI-1978 (博物館所蔵)
 上市市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
109. *Eustroma japonicum* Inoue キアミメナミ
 シャク (Fig.58)
 小国町叶水 2♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 1♂, 26-
 VII-1986¹⁸⁾; 1♂, 24-VIII-1986¹⁸⁾
- 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985 (木俣)
110. *Eustroma melancholicum melancholicum* (Butler) ハガタナミシャク
 西川町志津 1♂, 8-VIII-1961¹⁴⁾; 1♂3♀♀,
 24-VIII-1986¹⁸⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 山形市奥山寺 1♂, 30-VI-1973⁹⁾
 蔵王連峰坊平 2♂♂2♀♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
 上市市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984¹⁵⁾
 山形市西蔵王高原 1♂, 15-IX-1984 (木俣)
 西川町志津月山荘 1♂, 3-VIII-1985¹⁷⁾
111. *Lobogonodes erectaria* (Leech) キホソス
 ジナミシャク
 吾妻連峰天元台 1♀, 3-VIII-1980 (木俣)
 西川町志津 1♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
112. *Sibatania mactata* (Felder & Rogenhofer)
 ビロードナミシャク (Fig.59)
 米沢市白布高湯 1♂, 27-IX-1970¹²⁾
 月山湯殿山口 1♂, 23-IX-1972¹³⁾
 大江町古寺鉱泉 1♂1♀, 20-VII-1985 (木俣)
113. *Plemyria rubiginata japonica* Inoue トビ
 モンシロナミシャク (Fig.60)
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984 (木俣)
 山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984¹⁵⁾
114. *Dysstroma cinereata japonica* Heydemann
 フタテンナカジロナミシャク (Fig.61)
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂, 19-IX-1983¹⁰⁾
 上市市蔵王ライン 2♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 吾妻連峰新高湯 4♂♂2♀♀, 1-IX-1971¹²⁾
 (白畑)
115. *Dysstroma infuscata* (Tengström) ウスキ
 ナカジロナミシャク
 西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
 本種は従来北海道と本州中部山地に分布する

- ものとされていた。なお、亜種の関係については文献¹⁶⁾ではふれられていない。
116. *Dysstroma citrata nyiwonis* (Matsumura) ツマキナカジロナミシャク
 村山市楯岡 1♂, 4-VI-1949⁷⁾
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♀, 21-V-1983¹⁰⁾
 上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 吾妻連峰新高湯 1♂, 1-IX-1971¹²⁾
 山形市西藏王高原 1♀, 23-X-1984(木俣)
 西川町志津 1♂, 10-X-1986¹⁸⁾
117. *Praethera praefecta* (Prout) オオクロオビナミシャク
 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
118. *Heterothera postabida* (Wileman) シロシタトビイロナミシャク
 上山市蔵王ライン 2♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 米沢市白布高湯 2♂♂, 22-VI-1965(白畑)
 山形市山寺 1♀, 5-VII-1977(博物館所蔵)
119. *Xenortholitha propinguata nipponica* (Butler) フタクロテンナミシャク
 山形市奥山寺 1♀, 21-VIII-1977⁹⁾
 山形市瀬ノ原山 2♀♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
 中山町岩谷 1♀, 15-IX-1986(木俣)
120. *Operophtera brumata* (Linnaeus) ナミスジフユナミシャク (Fig.62)
 酒田市 1♂, 18-XI-1958¹³⁾
 山形市山寺 1♂, 19-XI-1977(博物館所蔵)
 天童市舞鶴山 1♂, 26-XI-1976(博物館所蔵);
 1♂, 21-XI-1977(博物館所蔵)
 東根市大滝 5♂♂, 24-XI-1986(木俣)
121. *Operophtera rectipostmediana* Inoue イチモジフユナミシャク (Fig.63)
 天童市石倉 1♂, 21-XI-1977(博物館所蔵)
122. *Epirrita viridipurpurens* (Prout) ミドリアキナミシャク
 天童市小路 1♂, 18-XI-1976(博物館所蔵)
123. *Nothoporia mediolineata* (Prout) ナカオビアキナミシャク
 遊佐町吹浦 1♂, 24-X-1978¹²⁾
124. *Solitanea defricata* (Püngeler) シロオビマルバナミシャク
 上山市蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 東根市寒風山木葉沢 3♀♀, 29-VI-1985(木俣)
 大江町古寺鉱泉 1♂1♀, 20-VII-1985(木俣)
 西川町志津 2♂♂3♀♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
125. *Venusia cambrica* Curtis ミヤマナミシャク (Fig.64)
 鳥海山御田 VIII-1966³⁾
 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾
 鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
 蔵王連峰坊平 1♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 蔵王連峰御田神 2♂♂3♀♀, 30-VII-1984¹⁰⁾;
 1♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾
126. *Venusia laria ilara* (Prout) クロスジカバイロナミシャク
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
127. *Venusia semistrigata expressa* Inoue マエモンハイイロナミシャク (Fig.65)
 天童市原崎 1♂, 17-IV-1977(博物館所蔵)
 山形市高瀬戸沢 1♂, 25-IV-1983¹⁵⁾
 山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
128. *Venusia phasma* (Butler) ナナスジナミシャク
 酒田市飛島⁸⁾
 飯豊連峰スクミ平⁸⁾
 西川町志津 1♂22♀♀, 10-X-1986(木俣)
129. *Hydrelia flammeolaria* (Hufnagel) キヒメナミシャク (Fig.66)
 西川町志津 4♂♂, 22-VI-1986¹⁸⁾

- 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986 (木俣)
130. *Euchoeca nebulata* (Scopoli) ハンノナミ
シャク
西川町志津月山荘 1♂, 3-VIII-1985¹⁷⁾
131. *Asthena nymphaeata* (Staudinger) ムス
ジシロナミシャク
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
132. *Asthena hamadryas* Inoue マンサクシロ
ナミシャク
蔵王連峰坊平 1♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾
西川町志津月山荘 1♂1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
133. *Pseudostegania defectata* (Christoph)
キイロナミシャク (Fig.67)
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾
134. *Laciniodes unistirpis* (Butler) セグロナ
ミシャク
山形市面白山 1♀, 19-VI-1982⁹⁾
山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾; 1
♂, 14-VI-1984¹⁰⁾; 2♀♀, 30-VI-1984¹⁰⁾;
1♀, 11-VII-1984¹⁰⁾
135. *Laciniodes denigratus ussuriensis* Prout
セジロナミシャク
村山市白鳥宮沢 1ex., 16-VI-1974⁷⁾
東根市関山 1♂1♀, 15-VI-1978 (博物館所蔵)
136. *Perizoma saxeum* (Wileman) ヒメカバスジ
ナミシャク
鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾
鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
鳥海山千畳ヶ原⁸⁾
蔵王連峰御田神 4♂♂1♀, 30-VII-1984¹⁰⁾;
3♂♂2♀♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾
137. *Perizoma fulvida* (Butler) コカバスジナ
ミシャク
西川町志津姥沢小屋 3♀♀, V-1983¹⁶⁾
- 西川町志津 2♀♀, 10-X-1986 (木俣)
138. *Eupithecia gigantea* Staudinger フトオ
ビヒメナミシャク (Fig.68)
大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986 (木俣)
西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
西川町志津月山荘 1♂1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
西川町志津 1♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
139. *Eupithecia clavifera* Inoue モンウスカ
バナミシャク
山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
140. *Eupithecia scribai* Prout ウラモンウス
トビナミシャク
西川町上島 1♀, 2-IX-1979¹²⁾
141. *Eupithecia perpaupera* Inoue アルプスカ
バナミシャク
鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾ 飯豊連峰鳥帽子岳²⁶⁾
142. *Eupithecia tricornuta* Inoue セアカカバ
ナミシャク
西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
山形市西藏王高原 1♂2♀♀, 29-V-1984¹⁰⁾
143. *Eupithecia jinboi* Inoue ジンボカバナミ
シャク (Fig.69)
蔵王連峰馬の背 1♀, 19-VII-1983 (木俣)
144. *Eupithecia tripunctaria* Herrich-Schäffer
シロテンカバナミシャク (Fig.70)
西川町志津 1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
145. *Eupithecia lariciata* (Freyer) ホソカバス
ジナミシャク
上市市蔵王ライン 2♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
146. *Eupithecia emanata* Dietze クロテンカバ
ナミシャク
蔵王連峰蔵王パラダイス 1♀, 21-V-1983¹⁰⁾
147. *Chloroclystis vata lucinda* (Butler) クロ
スジアオナミシャク
山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984 (木俣)
大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986 (木俣)

148. *Chloroclystis subcinctata* Prout ウラモン
アオナミシャク (Fig.71)
西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
西川町志津 1♂1♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
149. *Chloroclystis excisa* (Butler) ソトシロオ
ピナミシャク
山形市西蔵王高原 1♂, 26-VIII-1983(木俣)
蔵王連峰御田神 5♂2♀, 30-VII-1984¹⁰⁾
西川町志津 2♂♂, 10-X-1986(木俣)
150. *Echthrocollix minuta* (Butler) アオスジ
ナミシャク
蔵王連峰御田神 1♀, 30-VII-1984(木俣)
本種の分布は関東以西とされている。
151. *Herbulotia agitata* (Christoph) マエフタテ
ンナミシャク
蔵王連峰御田神 1♂, 30-VII-1984¹⁰⁾
152. *Horisme tersata tetricata* (Guenée) アトシ
ロナミシャク
米沢市白布高湯 1♀, 29-VII-1964(白畑)
153. *Melanthia procellata inquinata* (Butler)
ナカジロナミシャク
小国町叶水 1♂2♀♀, 14-VI-1975(木俣)
村山市北町 1♂, 19-VII-1974⁷⁾
天童市石倉 1♀, 26-VI-1977(博物館所蔵)
山形市西蔵王高原 1♂1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾
山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾
蔵王連峰御田神 1♂1♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾
東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)

Ennominae エダシャク亜科

154. *Abraxas grossulariata conspurata* Butler
スグリシロエダシャク (Fig.72)
蔵王山 1♀, 24-VII-1949⁷⁾
遊佐町三崎山⁸⁾; 1♂, 25-VII-1971¹²⁾
鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾
鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
- 吾妻連峰新高湯 1♂1♀, 18-IX-1969(白畑)
村山市葉山大円院 1♂, 26-VI-1972(白畑);
1♀, 27-VI-1972(白畑)
山辺町どじょう沼 1♀, 26-VI-1973(白畑)
村山市宮ノ下 1♀, 15-VII-1973⁷⁾
小国町叶水 1♂1♀, 29-VI-1974(木俣)
山形市雁戸山 1♂1♀, 10-VII-1977(木俣)
吾妻連峰ババ谷地 1♀, 2-VIII-1980(木俣)
蔵王連峰御田神 2♀♀, 30-VII-1984¹⁰⁾
東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985(木俣)
155. *Abraxas flavisinuata* Warren スギタニシ
ロエダシャク (Fig.73,74)
温海町摩耶山⁸⁾; 1♂, 23-VIII-1959¹⁴⁾
山形市二口溪谷 1♂, 22-VIII-1973⁹⁾
村山市大久保大原 1♀, 20-VIII-1974⁷⁾
米沢市白布高湯 1♂, 1-IX-1975(白畑)
西川町本道寺 1♂, 17-VIII-1979¹²⁾
156. *Abraxas sylvata microtate* Wehrli キタマ
ダラエダシャク (Fig.75)
山形市山寺 1♀, 15-VI-1977(博物館所蔵)
157. *Abraxas nipponibia* Wehrli ヒメマダラエ
ダシャク (Fig.76,77)
朝日連峰頭殿山⁸⁾
上山市菖蒲 1♂, 30-VIII-1956¹⁴⁾
酒田市 1♂, 3-VI-1960(白畑)
上山市宮脇宮川原 1♀, 15-V-1967(白畑)
村山市大久保 1♀, 9-VIII-1973⁷⁾
山形市面白山 1♀, 19-VIII-1973(木俣); 1
♂, 3-IX-1973(木俣); 1♀, 27-VII-1974
(木俣)
小国町叶水 3♀♀, 14-VI-1975(木俣)
山形市山寺 1♀, 11-V-1977(博物館所蔵);
1♂, 3-VI-1977(博物館所蔵)
山形市三本木沼 1♀, 30-VI-1981(横倉)
飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 17-VII-1982(木俣)
山形市沼ノ辺 1♂, 19-V-1983(横倉)

- 山形市西藏王高原 2♀♀, 14-VI-1984¹⁰⁾; 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾; 1♀, 18-VIII-1984¹⁰⁾
- 上山市蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984(木俣)
- 蔵王連峰御田神 1♀, 14-VIII-1984(木俣)
- 東根市寒風山木葉沢 5♂♂7♀♀, 29-VI-1985(木俣)
- 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985(木俣)
- 大蔵村肘折温泉 1♂5♀♀, 3-VII-1986(木俣)
- 中山町岩谷 1♀, 3-VIII-1986(木俣)
158. *Abraxas fulvobasalis* Staudinger クロマダラエダシヤク (Fig.78)
- 蔵王連峰坊平 1♀, 30-VIII-1956¹⁴⁾
- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
- 山形市面白山 1♀, 27-VII-1974(木俣)
- 西川町絵原 1♂, 18-VII-1979¹²⁾
- 上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984(木俣)
- 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985(木俣)
- 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
159. *Abraxas satoi* Inoue ヘリグロマダラエダシヤク (Fig.79)
- 朝日村荒沢ダム 1♀, 18-VIII-1982(木俣)
- 山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983(木俣)
160. *Abraxas latifasciata* Warren ヒトスジマダラエダシヤク (Fig.80)
- 西川町大井沢日暮合小屋 1♂3♀♀, 12-VII-1954(白畑)
- 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 24-VIII-1968(白畑)
- 村山市宮ノ下 1♀, 3-VI-1973⁷⁾
- 小国町叶水 2♀♀, 14-VI-1975(木俣)
- 山形市山寺 1♀, 3-VI-1977(博物館所蔵)
- 蔵王連峰坊平 1♂, 17-VIII-1980(木俣)
- 山形市奥山寺 1♂, 8-VIII-1982(木俣)
- 山形市瀧山 1♂, 20-V-1983(横倉)
- 山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984(木俣)
- 大蔵村肘折温泉 3♀♀, 3-VII-1986(木俣)
- 西川町志津 1♂1♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
161. *Abraxas miranda miranda* Butler ユウマダラエダシヤク (Fig.81)
- 酒田市飛鳥⁸⁾
- 酒田市 1♀, 4-VI-1959¹²⁾
- 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 12-V-1969¹⁴⁾
- 酒田市北里町 1♀, 26-V-1973(白畑); 1♀, 20-IX-1973(白畑)
- 山形市奥山寺 1♀, 7-VII-1974(木俣)
- 山形市盃山 1♂, 9-V-1983(横倉)
- 西川町志津 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
162. *Lomaspilis marginata opis* Butler シロオビヒメエダシヤク
- 飯豊連峰泡ノ湯 1ex., 30-VI-1970¹³⁾
- 小国町叶水 2♀♀, 14-VI-1975(木俣)
- 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985(木俣)
- 西川町志津 2♂♂1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
163. *Ligdia japonaria* Leech シロスジヒメエダシヤク (Fig.82)
- 山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
- 西川町志津 1♂, 22-VI-1986¹⁸⁾
164. *Peratophyga hyalinata grata* (Butler) クロフヒメエダシヤク
- 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾
165. *Lomographa simplicior simplicior* (Butler) クロズウスキエダシヤク
- 蔵王連峰坊平 3♀♀, 7-IX-1980¹⁰⁾
- 山形市上宝沢 1♂, 15-IX-1980(木俣)
166. *Lomographa bimaculata subnotata* (Warren) フタホシシロエダシヤク
- 山形市面白山 1♀, 18-V-1975⁹⁾; 3♀♀, 30-V-1982⁹⁾
- 山形市西藏王高原 1♀, 14-VI-1984¹⁰⁾
167. *Lomographa temerata* (Denis & Schiffermüller) バラシロエダシヤク
- 鳥海山千疊ヶ原⁸⁾; 1ex., 26-VII-1971¹²⁾
- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾

- 飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 12-V-1967¹⁴⁾
 山形市松波 1ex., 8-V-1977(木俣)
 米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980(木俣)
 山形市面白山 3♂♂4♀♀, 30-V-1982⁹⁾
 山形市西藏王高原 2♀♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾;
 1♀, 29-V-1984¹⁰⁾; 1♀, 14-VI-1984¹⁰⁾;
 2♂♂, 11-VII-1984¹⁰⁾; 2♀♀, 18-VIII-
 1984¹⁰⁾
 山形市瀬ノ原山 8♂♂8♀♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
 上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 2♂♂3♀♀, 29-VI-1985
 (木俣)
 西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
 大蔵村肘折温泉 1♂2♀♀, 3-VII-1986(木俣);
 1♀, 19-VII-1986(木俣)
 西川町志津 5♂♂1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
168. *Lomographa nivea* (Djakonov) ウスオビ
 シロエダシャク
 温海町温海岳 1♀, 27-IV-1968¹⁴⁾
 山形市不動沢 1ex., 4-VI-1984¹⁰⁾
169. *Ninodes splendens* (Butler) ウチムラサキ
 ヒメエダシャク
 山形市奥山寺 3♂♂, 30-VI-1973⁹⁾
170. *Myrteta angelica* Butler クロミスジシロ
 エダシャク (Fig.83)
 東根市神町 1♂, IX-1947¹³⁾
 鶴岡市高館山 1♀¹⁴⁾, 1♀, 20-IX-1961(白
 畑)
 山形市面白山 1♂, 24-VIII-1974⁹⁾; 2♂♂,
 17-IX-1977⁹⁾
 中山町岩谷 2♀♀, 15-IX-1986(木俣)
171. *Myrteta sericea sericea* (Butler) キスジシ
 ロエダシャク
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 3-VI-1966(博物館所
 蔵)
- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 米沢市館山 1♂, 23-VIII-1970(加藤)
 小国町叶水 1♂, 30-V-1976(木俣)
 西川町上島 1ex., 2-IX-1979¹²⁾
 西川町志津姥沢小屋 2♂♂, 29-V-1983¹⁶⁾
172. *Myrteta punctata* (Warren) ホシスジシロ
 エダシャク (Fig.84)
 飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 24-VIII-1968¹⁴⁾
 西川町間沢 2♂♂, 3-VIII-1973⁴⁾
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
173. *Myrteta unio* (Oberthür) ミスジシロエダ
 シャク
 吾妻連峰滑川温泉⁸⁾; 1♂, 19-VIII-1965(白
 畑)
 酒田市 1♀, 15-VII-1959¹²⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 24-VIII-1968¹⁴⁾
 西川町志津 1♀, 6-VII-1973¹³⁾
 東根市関山 1♂, 4-VI-1974(博物館所蔵)
 小国町叶水 2♀♀, 14-VI-1975(木俣)
 山形市面白山 1♀, 30-VI-1975⁹⁾; 1♂1♀,
 19-VII-1975⁹⁾
 山形市山寺 1♀, 31-VIII-1977(博物館所蔵)
 米沢市白布高湯 3♀♀, 2-VIII-1980(木俣)
 朝日村荒沢ダム 1♀, 18-VIII-1982(木俣)
 蔵王連峰坊平 1♀, 2-VII-1983¹⁰⁾
 山形市西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾
 上山市蔵王ライン 3♂♂2♀♀, 7-VII-1984
¹⁰⁾
 蔵王連峰御田神 1♂, 30-VII-1984(木俣)
 東根市寒風山木葉沢 2♂♂3♀♀, 29-VI-1985
 (木俣)
174. *Cabera purus* (Butler) コスジシロエダシ
 ャク
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾
 上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
175. *Cabera griseolimbata griseolimbata*

(Oberthür) アトグロアミメエダシヤク

村山市榎岡 1♀, 28-VI-1949⁷⁾

西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾

上山市蔵王ライン 3♂♂2♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾

東根町寒風山木葉沢 3♂♂, 29-VI-1985 (木俣)

山形市門伝大平 1♂, 8-VII-1985 (木俣)

西川町志津荒沢橋 1♂, 15-VII-1985¹⁸⁾

西川町志津月山荘 3♀♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾

大蔵村肘折温泉 1♂, 3-VII-1986 (木俣)

176. *Parabapta aetheriata* (Graeser) フタスジ
ウスキエダシヤク

山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾

西川町志津 1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾

177. *Parabapta clarissa* (Butler) ウスアオエ
ダシヤク

米沢市白布 2♀♀, 29-V-1982 (山谷)

山形市面白山 2♀♀, 30-V-1982⁹⁾

山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾

山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾

山形市西藏王高原 1♀, 30-VI-1984¹⁰⁾

178. *Plesiomorpha flaviceps* (Butler) マエキオ
エダシヤク

酒田市 1♀, 29-VII-1956¹⁴⁾

酒田市北千日町 1♀, IX-1968¹⁴⁾

村山市大久保大原 1♀, 17-VII-1974⁷⁾

米沢市白布高湯 1♀, 2-VIII-1980 (木俣)

本種の分布は、宮城県以南とされている。

179. *Plesiomorpha punctilinearis* (Leech) モ
ンオビオエダシヤク

村山市大久保大原 1♀, 10-VI-1974⁷⁾

山形市山寺 1♀, 21-V-1977 (博物館所蔵)

180. *Pseudepione magnaria* (Wileman) ニッコ
ウキエダシヤク (Fig.85)

朝日村荒沢ダム 1♀, 23-X-1982 (木俣)

西川町志津 1♀, 10-X-1986¹⁸⁾

本種の分布は、宮城県以南とされている。

181. *Euchristophia cumulata cumulata* (Chri-
stoph) ウスオビヒメエダシヤク

鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾

飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 24-VIII-1968¹⁴⁾

山形市盃山 1♀, 5-VII-1971¹³⁾

村山市白鳥宮沢 1♂, 16-VI-1974⁷⁾

村山市深沢 1♀, 8-VIII-1974⁷⁾

小国町叶水 2♀♀, 14-VI-1975 (木俣)

西川町間沢 1♂, 25-VII-1975⁵⁾

山形市山寺 1♂1♀, 31-VIII-1977 (博物館所
蔵)

鶴岡市金峯山 2♀♀, 18-VIII-1982 (木俣)

山形市面白山 1♂1♀, 19-VIII-1982⁹⁾

上山市蔵王ライン 5♂♂, 7-VII-1984¹⁰⁾

山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984 (木俣)

西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾

大江町古寺鉱泉 1♀, 20-VII-1985 (木俣)

西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾

西川町志津 4♀♀, 26-VII-1986¹⁸⁾; 3♀♀,
24-VIII-1986¹⁸⁾

182. *Synegia hadassa hadassa* (Butler) ハゲル
マエダシヤク

米沢市白布高湯 2♀♀, 2-VIII-1980 (木俣)

山形市西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾; 2
♀♀, 30-VI-1984¹⁰⁾; 1♀, 11-VII-1984¹⁰⁾

上山市蔵王ライン 1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾

西川町志津月山荘 1♂, 3-VIII-1985¹⁷⁾

蔵王連峰御田神 5♂♂2♀♀, 14-VIII-1985¹⁰⁾

183. *Synegia limitatoides* Inoue スジハゲルマ
エダシヤク

山形市雁戸山⁸⁾

米沢市滑川 1♀, 15-IX-1980 (山谷)

184. *Synegia ichinosawana* (Matsumura) マル
ハゲルマエダシヤク

山形市雁戸山⁸⁾

- 酒田市飛島⁸⁾
185. *Petelia rivulosa* (Butler) コトビスジエダ
 シャク
 西川町間沢 1♂, 28-VII-1975⁵⁾
 東根市関山 1♂, 21-VII-1978(博物館所蔵);
 1♀, 11-VIII-1978(博物館所蔵)
 中山町岩谷 3-VIII-1986(木俣)
186. *Apopetelia chlororhynodes* Wehrli オオヨ
 スジアカエダシヤク
 平田町三千坊谷地 1♀, 29-V-1958¹²⁾
 東根市関山 1♀, 21-VII-1978(博物館所蔵)
 山形市西藏王高原 1♂, 18-VIII-1984¹⁰⁾
187. *Crypsicometa incertaria* (Leech) ツマキ
 エダシヤク
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾; 1♂2♀♀, 26-VII-1969¹²⁾
 (1♀, 博物館所蔵)
 朝日連峰天狗小屋 1♀, 14-VIII-1954¹⁴⁾
 米沢市白布高湯 1♀, 29-VII-1964(博物館所
 蔵)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
 米沢市館山 1♂, 7-IX-1970(加藤)
 米沢市 1♀, 2-V-1973(山谷)
 小国町叶水 1♀, 29-VI-1974(木俣)
 山形市山寺 1♀, 31-VIII-1977(博物館所蔵)
 東根市関山 1♂, 16-VI-1978(博物館所蔵)
 西川町月山沢 2♀♀, 15-IX-1979¹²⁾
 蔵王連峰坊平 1♂1♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾;
 3♀♀, 7-IX-1980¹⁰⁾; 1♀, 2-VII-1983¹⁰⁾
 西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
 山形市西藏王高原 2♂♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾
 山形市瀬ノ原山 4♂♂, 7-VI-1984¹⁵⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 1♂, 18-V-1986(木俣)
 西川町志津 1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾; 2♀♀, 24
 -VIII-1986¹⁸⁾
188. *Semiothisa defixaria* (Walker) フタテン
 オエダシヤク
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
189. *Semiothisa hebesata* (Walker) ウスオエ
 ダシヤク
 山形市西藏王高原 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾
190. *Semiothisa shanghaiaria shanghaiaria*
 (Walker) シャンハイオエダシヤク
 真室川町及位 1♂, 22-VI-1961¹⁴⁾
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 西川町志津 1♂, 5-VII-1973¹³⁾; 1♂, 22-
 VI-1986¹⁸⁾
 村山市北町 1♂, 21-VIII-1974⁷⁾
 天童市荒谷 1♂, 6-VIII-1982⁹⁾; 1♂2♀♀,
 31-VIII-1982⁹⁾; 1♂, 1-IX-1982(木俣);
 1♂1♀, 2-IX-1982(木俣); 1♂, 9-IX-
 1982(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
191. *Semiothisa liturata pressaria* (Christoph)
 チャオビオエダシヤク
 米沢市 1♀, 26-V-1978(山谷)
 山形市西藏王高原 1♀, 15-IX-1984¹⁰⁾
192. *Semiothisa normata proximaria* (Leech)
 ウスキオエダシヤク
 小国町叶水 1♀, 29-VI-1974(木俣)
 山形市奥山寺 1♀, 7-VII-1974⁹⁾
 村山市北町 1♀, 26-VII-1974⁷⁾
 東根市関山 1♂, 11-VIII-1978(博物館所蔵)
193. *Tephрина vapulata* (Butler) ウスネズミ
 エダシヤク
 酒田市 1♀, 11-VII-1961¹⁴⁾
194. *Bupalus vestalis vestalis* Staudinger
 ヘリグロエダシヤク (Fig.86)
 上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
195. *Cystidia stratonice stratonice* (Stoll)

- トンボエダシヤク
 山形市上宝沢⁸⁾
 山形市雁戸山⁸⁾
 酒田市飛島⁸⁾
 村山市大久保 1♂, 30-VI-1973⁷⁾
 村山市大久保大原 1♀, 7-VII-1974⁷⁾
 西川町間沢 1♀, 28-VII-1975⁵⁾
 山形市山寺 1♀, 3-VI-1977(博物館所蔵);
 1♂, 26-VI-1978(博物館所蔵)
196. *Cystidia truncangulata* Wehrli ヒロオビ
 トンボエダシヤク
 酒田市松境 1♂, 23-VI-1967¹²⁾
 山形市面白山 1♀, 15-VII-1973(木俣)
 山形市山寺 1♂, 7-VII-1974(木俣)
197. *Cystidia couaggaria couaggaria* (Guenee)
 ウメエダシヤク
 最上町花立峠 1♂, 16-VII-1961¹³⁾
 鶴岡市善宝寺 1♂, 12-VII-1968(博物館所蔵)
 村山市大久保 2♂♂, 8-VII-1973⁷⁾
 鶴岡市 1♂, 7-VII-1979(山谷)
198. *Euryobeidia languidata languidata* (Walker)
 シロジマエダシヤク
 米沢市 1♀, 2-V-1973(山谷)
199. *Cucula panterinaria sychnospilas* Prout
 キオビゴマダラエダシヤク
 山形市 1♂, 5-VII-1960(木俣); 1♂, 13-VII-1960(木俣)
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁵⁾
 山形市山寺 1♂, 22-VI-1977(博物館所蔵)
 西川町志津荒沢橋 5♂♂1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 中山町岩谷 3♂♂, 28-VI-1986(木俣)
200. *Metabraxas clerica clerica* Butler オオ
 シロエダシヤク
 吾妻連峰滑川温泉⁸⁾; 1♂, 17-VIII-1965(博物館所蔵)
- 西川町大井沢日暮合小屋 1♀, 12-VIII-1954
 (白畑)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, VIII-1968(博物館所蔵)
 吾妻連峰新高湯 1♂, 25-VII-1971(山谷)
 小国町 1♀, 2-IX-1971(山谷)
 西川町志津 1♂, 6-VII-1973¹³⁾; 1♂, 26-VII-1986¹⁸⁾; 2♂♂2♀♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
 山形市面白山 2♂♂, 24-VIII-1974⁹⁾; 1♂, 16-VIII-1975⁹⁾
 山形市山寺 1♀, 14-VIII-1976(博物館所蔵)
 米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980(木俣)
 朝日村荒沢ダム 1♀, 18-VIII-1982(木俣)
 山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾
 西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
201. *Arichanna tetrica* (Butler) キジマエダシヤク (Fig.87)
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂, 21-V-1983¹⁰⁾
 西川町志津姥沢小屋 4♂♂, V-1983¹⁶⁾
 山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
 西川町志津 3♂♂1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
202. *Arichanna pryeraria* Leech プライヤエダシヤク (Fig.88)
 西川町志津 3♂♂1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
203. *Arichanna albomaculata* Leech シロホシエダシヤク (Fig.89)
 山形市面白山 1♀, 30-V-1982⁹⁾
 西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
 山形市不動沢 1♂1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
 西川町志津 8♂♂, 22-VI-1986¹⁸⁾
204. *Arichanna melanaria fraterna* (Butler) キシタエダシヤク
 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾; 1♂, 26-VII-1969¹²⁾
 鳥海山御田 VIII-1966³⁾
 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾

- 鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
 月山弥陀ヶ原 1♀, 8-VIII-1967¹²⁾
 米沢市笹野山 1♀, 30-VI-1971(山谷)
 山形市奥山寺 1♂, 30-VI-1973⁹⁾
 米沢市 1♀, 1-VII-1974(山谷); 1♂, 2-VII-1975(山谷)
 山形市面白山 1♀, 19-VII-1975(木俣)
 西川町志津 1♀, 25-VII-1975⁶⁾
 吾妻連峰ババ谷地 1♀, 2-VIII-1980(木俣)
 飯豊連峰ヌクミ平 2♂♂1♀, 17-VII-1982(木俣)
 蔵王連峰坊平 1♀, 19-VII-1983¹⁰⁾
 上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 蔵王御田神 6♀♀, 30-VII-1984¹⁰⁾; 1♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985(木俣)
 西川町志津荒沢橋 3♀♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 大江町古寺鉾泉 1♂4♀♀, 20-VII-1985(木俣)
 西川町志津 3♂♂5♀♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
205. *Arichanna jaguararia gaschkevitchii* (Motschulsky) ヒョウモンエダシャク
 朝日連峰小朝日岳⁸⁾; 1♀, 18-VIII-1959(博物館所蔵); 1♂, 18-VIII-1959¹⁴⁾
 朝日連峰鳥原山⁸⁾; 1♂1♀, 19-VIII-1960(博物館所蔵)
 朝日連峰天狗小屋⁸⁾; 2♂♂1♀, 14-VIII-1954¹⁴⁾
 吾妻連峰大平⁸⁾; 1♀, 30-VII-1964(博物館所蔵)
 鳥海山千疊ヶ原⁸⁾
 飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾; 1♀, 17-VIII-1966(博物館所蔵); 1♂, 24-VIII-1968(博物館所蔵)
 西川町大井沢根子 1♂, 17-VIII-1959(博物館所蔵)
- 朝日連峰天狗角力取場 1♂, 7-VIII-1961(博物館所蔵)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 月山弥陀ヶ原 3♂♂, 8-VIII-1967(博物館所蔵)
 西川町志津 1♀, 19-VIII-1970(白畑); 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 1♂, 26-VII-1986¹⁸⁾; 3♂♂, 24-VIII-1986¹⁸⁾; 1♂, 10-X-1986¹⁸⁾
 米沢市 1♀, 28-VII-1971(山谷)
 山形市面白山 1♀, 15-VII-1973⁹⁾
 村山市宮ノ下 1♀, 15-VII-1973⁷⁾
 村山市大久保大原 1♀, 15-VII-1974⁷⁾
 吾妻山 1♂, 7-VIII-1977(山谷)
 蔵王連峰坊平 3♀♀, 28-VII-1979¹⁰⁾; 2♀♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 大石田町 1♀, 4-VII-1980(山谷)
 米沢市白布高湯 1♂2♀♀, 2-VIII-1980(木俣)
 米沢市滑川 1♀, 5-IX-1982(山谷)
 蔵王連峰御田神 3♂♂, 30-VII-1984¹⁰⁾; 2♂♂2♀♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾
 山形市門伝大平 4♂♂, 8-VII-1985(木俣)
 西川町志津荒沢橋 1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 大江町古寺鉾泉 1♂, 20-VII-1985(木俣)
 中山町岩谷 2♂♂, 28-VI-1986(木俣)
 大蔵村肘折温泉 1♂1♀, 19-VII-1986(木俣)
206. *Jankowskia pseudathleta* Sato キタウンモンエダシャク (Fig.90)
 山形市面白山 2♂♂, 19-VII-1975(木俣)
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾
 このデータは、先に *Jankowskia fuscaria* *fuscaria* (Leech) チャノウンモンエダシャクとして記録(1977)されたものであるが、その後同種の中に2種がいることがわかり、本記録の標本はキタウンモンエダシャクとなることが

判明したので訂正して記録する。

1 ♀, 26-VII-1986¹⁸⁾

山形市高瀬戸沢 1 ♂, 3-VII-1984 (木俣)

207. *Cleora insolita* (Butler) ルリモンエダシ
ャク

山形市面白山 2 ♀ ♀, 30-V-1982⁹⁾

山形市不動沢 1 ♂ 2 ♀ ♀, 4-VI-1984¹⁰⁾

山形市瀬ノ原山 6 ♀ ♀, 7-VI-1984¹⁵⁾

西川町志津 11 ♂ ♂ 5 ♀ ♀, 22-VI-1986¹⁸⁾

208. *Cleora leucophaea* (Butler) シロテンエダ
シヤク

飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾

小国町叶水 3 ♂ ♂, V-1975 (木俣)

西川町志津姥沢小屋 2 ♂ ♂ 1 ♀, V-1986¹⁶⁾

209. *Alcis angulifera* (Butler) ナカウスエダシ
ャク

東根市関山 1 ♀, 11-VIII-1978 (博物館所蔵)

本種の分布は、宮城県以南とされている。

210. *Alcis mediabifera* Inoue ヒメナカウスエ
ダシヤク

蔵王山 2 ♀ ♀, 13-VIII-1972 (木俣)

211. *Alcis picata* (Butler) シロシタオビエダシ
ャク

朝日連峰天狗小屋 1 ♂ 1 ♀, 14-VIII-1954¹⁴⁾

朝日連峰天狗角力取場 1 ♂, 7-VIII-1961¹⁴⁾

鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾

鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾

吾妻連峰天元台 1 ♂, 3-VIII-1980 (木俣)

蔵王連峰御田神 7 ♂ ♂ 4 ♀ ♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾

西川町志津 6 ♀ ♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾

212. *Alcis extinctaria moesta* (Butler) イツス
ジエダシヤク (Fig.91)

鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾

鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾

蔵王連峰御田神 2 ♂ ♂, 30-VII-1984¹⁰⁾

213. *Rikiosatoa grisea grisea* (Butler) フタヤ
マエダシヤク

山形市上宝沢 1 ♀, 12-IX-1971 (木俣)

山形市面白山 1 ♂, 19-VII-1975⁹⁾; 1 ♀,
19-VI-1982⁹⁾

西川町間沢 1 ♀, 25-VII-1975⁵⁾

天童市荒谷 1 ♂, 17-VI-1980⁹⁾

米沢市白布高湯 1 ♀, 2-VIII-1980 (木俣)

上山市蔵王ライン 1 ♂ 1 ♀, 7-VII-1984¹⁰⁾

山形市高瀬 1 ♂, 18-IX-1983 (木俣); 1 ♀,
16-IX-1984¹⁵⁾

214. *Gigantalcis flavolinearia* (Leech) フタキ
スジエダシヤク

山形市高瀬 1 ♂, 6-XI-1983¹⁵⁾; 1 ♀, 13-
XI-1983¹⁵⁾

山形市西蔵王高原 1 ♀, 23-X-1984 (木俣)

215. *Ramobia basifuscaria* (Leech) ネグロエダ
シヤク

米沢市大平 1 ♂, 21-IX-1969 (山谷)

米沢市白布高湯 1 ♂, 27-IX-1971 (白畑)

小国町叶水 3 ♀ ♀, 12-X-1975 (木俣); 1 ♂,
9-X-1976 (木俣)

216. *Ramobia mediodivisa* Inoue ナカジロネグ
ロエダシヤク (Fig.92)

吾妻連峰新高湯 1 ♂, 29-IX-1971¹³⁾

山形市西蔵王高原 1 ♀, 23-X-1984 (木俣)

西川町志津 8 ♂ ♂ 3 ♀ ♀, 10-X-1986¹⁸⁾

217. *Deileptenia ribeata* (Clerck) マツオオエ
ダシヤク

西川町月山沢 4 ♀ ♀, 15-IX-1979¹²⁾

米沢市白布高湯 1 ♀, 2-VIII-1980 (木俣)

上山市蔵王ライン 1 ♂ 1 ♀, 7-VII-1984¹⁰⁾

蔵王連峰御田神 2 ♂ ♂, 30-VII-1984¹⁰⁾

西川町志津 3 ♂ ♂ 9 ♀ ♀, 26-VII-1986¹⁸⁾

218. *Pseuderannis lomozemia* (Prout) ウスバ
キエダシヤク (Fig.93)

- 山形市山寺 1♀, 27-V-1978(博物館所蔵)
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂, 21-V-1983¹⁰⁾
 西川町志津姥沢小屋 6♂♂1♀, V-1983¹⁶⁾
 山形市西蔵王高原 3♀♀, 19-V-1984¹⁰⁾; 2♂♂3♀♀, 29-V-1984¹⁰⁾
 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
 山形市盃山 2♂♂, 8-IV-1986(木俣)
 西川町志津月山荘 1♂1♀, 11-V-1986¹⁸⁾
219. *Pseuderannis amplipennis* (Inoue) ウスバシロエダシヤク (Fig.94)
 西川町志津姥沢小屋 6♂♂, V-1983¹⁶⁾
 山形市西蔵王高原 1♀, 29-V-1984¹⁰⁾
 山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
220. *Hypomecis roboraria displicens* (Butler) ハミスジエダシヤク
 山形市奥山寺 5♂♂, 30-VI-1973⁹⁾
 小国町叶水 1♂1♀, 14-VI-1975(木俣)
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾
 蔵王連峰坊平 1♂, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 西川町志津荒沢橋 2♂♂, 15-VII-1975¹⁸⁾
221. *Hypomecis lunifera* (Butler) オオバナミガタエダシヤク
 西川町志津 1♂, 24-VIII-1986¹⁸⁾
222. *Hypomecis akiba* (Inoue) アキバエダシヤク (Fig.95)
 村山市北町 1♂, 26-VII-1974⁷⁾; 1♂, 2-VIII-1974⁷⁾
 村山市甌岳 1♀, 1-VIII-1975⁷⁾
 山形市西蔵王高原 1♀, 14-VI-1984¹⁰⁾
 中山町岩谷 1♀, 3-VIII-1986(木俣)
223. *Hypomecis crassestrigata crassestrigata* (Christoph) フトオビエダシヤク
 村山市北町 1♀, 9-VIII-1974⁷⁾
224. *Hypomecis punctinalis conferenda* (Butler) ウ斯巴ミスジエダシヤク
 米沢市白布高湯 1♂, 22-VII-1964(博物館所蔵); 1♂, 22-VI-1965(博物館所蔵)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 23-VIII-1969(白畑)
 西川町志津 1♂, 25-VIII-1975⁶⁾; 1♂1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
 天童市石倉 1♂, 26-VI-1977(博物館所蔵)
 上山市蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
225. *Microcalicha sordida* (Butler) シタクモエダシヤク
 米沢市白布高湯 1♀, 29-VII-1964(博物館所蔵)
 飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 24-VIII-1968¹²⁾; 1♀, 17-VII-1982(木俣)
 山形市奥山寺 1♂, 30-VI-1973⁹⁾
 西川町志津 2♀♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
226. *Calicha ornataria ornataria* (Leech) ソトシロオビエダシヤク
 西川町大井沢日暮合小屋 1♀, 12-VIII-1954(白畑)
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 23-VIII-1968¹²⁾
 小国町 1♀, 2-IX-1971(山谷)
 西川町志津 1♀, 5-VII-1973¹³⁾
 西川町本道寺 1♀, 16-VIII-1979¹²⁾
227. *Phthonosema tendinosaria* (Bremer) リンゴツノエダシヤク
 朝日連峰天狗小屋 1♂, 14-VIII-1954¹⁴⁾
 酒田市 1♂, VIII-1956¹⁴⁾; 1♂, 24-V-1959¹²⁾
 新庄市新庄温泉 1♂, 16-VI-1961(木俣)
 鳥海山河原宿 VIII-1966³⁾
 西川町志津 1♂, 6-VII-1973¹³⁾
 山形市面白山 1♂, 24-VIII-1974⁹⁾; 1♂, 30-VI-1975⁹⁾; 1♂, 10-VII-1982⁹⁾
 村山市大久保大原 1♀, 13-VI-1974⁷⁾
 村山市北町 1♂, 16-VII-1974⁷⁾; 1♂, 25-

- VII-1974⁷⁾
 小国町叶水 1♂, 14-VI-1975 (木俣)
 山形市山寺 1♂, 11-VIII-1976 (博物館所蔵);
 1♀, 14-VIII-1976 (博物館所蔵); 2♂♂
 ♂, 3-VI-1977 (博物館所蔵); 1♂, 28-VI-
 -1977 (博物館所蔵)
 蔵王連峰坊平 1♂, 28-VII-1979¹⁰⁾
 米沢市白布高湯 2♂♂, 2-VIII-1980 (木俣)
 朝日村荒沢ダム 1♂, 18-VIII-1982 (木俣)
 山形市西藏王高原 1♂, 14-VI-1984¹⁰⁾; 1♂,
 11-VII-1984¹⁰⁾
 上山市蔵王ライン 3♂♂, 7-VII-1984
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 5♂♂1♀, 29-VI-1985
 (木俣)
 西川町志津荒沢橋 4♂♂3♀♀, 15-VII-1985
 18)
 飯豊町白川ダム 3♂♂, 23-VII-1985 (横倉)
 中山町岩谷 5♂♂, 28-VI-1986 (木俣); 1♂
 1♀, 3-VIII-1986 (木俣)
 大蔵村折温泉 1♂, 3-VII-1986 (木俣); 1
 ♂1♀, 19-VII-1986 (木俣)
 西川町志津 2♂♂1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
228. *Phthonosema invenustaria* (Leech) トビ
 ネオオエダシヤク
 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, VIII-1968¹⁴⁾; 1♂,
 17-VIII-1982 (木俣)
 西川町志津 1♂, 6-VII-1973¹³⁾; 1♂, 24-
 VIII-1986¹⁸⁾
 西川町間沢 3♀♀, 4-VIII-1973⁴⁾
 山形市面白山 1♂, 27-VII-1974⁹⁾
 米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980 (木俣)
229. *Ophthalmitis irrorataria* (Bremer &
 Grey) コヨツメエダシヤク (Fig.96)
 鳥海山大台野⁸⁾
 鳥海山湯ノ台 1♂, 12-VII-1969¹²⁾
 小国町 2♂♂, 20-V-1972 (山谷)
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975 (木俣)
230. *Ophthalmitis albosignaria albosignaria*
 (Bremer & Grey) ヨツメエダシヤク (Fig.97)
 小国町叶水 4♂♂1♀, 14-VI-1975 (木俣)
 西川町本道寺 1♂, 17-VIII-1979¹²⁾
231. *Ascotis selenaria cretacea* (Butler) ヨモ
 ギエダシヤク
 酒田市 1♂, 24-V-1959¹²⁾
 蔵王山 1♂, 13-VIII-1972 (木俣)
 小国町叶水 1♀, 29-VI-1974 (木俣); 5♂♂
 3♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
 村山市大久保大原 1♂, 14-VI-1974⁷⁾; 1♂,
 5-VIII-1974⁷⁾; 1♂, 19-VIII-1974⁷⁾
 山形市面白山 1♂, 24-VIII-1974 (木俣); 1
 ♂, 3-IX-1982 (木俣)
 山形市山寺 1♂, 3-VI-1977 (博物館所蔵);
 1♀, 29-VIII-1977 (博物館所蔵)
 西川町月山沢 1♂, 15-IX-1979¹²⁾
 山形市上宝沢 1♂, 15-IX-1980 (木俣)
 天童市荒谷 1♂, 29-VII-1980⁹⁾; 1♂, 9-
 VIII-1980⁹⁾; 1♀, 30-VII-1981⁹⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾
232. *Paradarisa consonaria* (Hübner) シナト
 ビスジエダシヤク (Fig.98)
 山形市面白山 1♂, 30-V-1982 (木俣)
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂, 21-V-1983¹⁰⁾
 西川町志津姥沢小屋 1♂2♀♀, V-1983¹⁶⁾
 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
 西川町志津 1♂, 22-VI-1986¹⁸⁾
233. *Cusiala stipitaria kariuzawensis* (Bryk)
 セプトエダシヤク
 山形市面白山 1♀, 30-VI-1975⁹⁾; 1♂,
 19-VI-1982⁹⁾; 1♂, 10-VII-1982⁹⁾
 山形市山寺 1♂, 11-V-1977 (博物館所蔵)

- 山形市西藏王高原 2♂♂, 14-VI-1984¹⁰⁾
234. *Ectropis bistortata* (Goeze) フトフタオ
ビエダシヤク
山形市上宝沢⁸⁾
村山市大久保大原 1♀, 17-VII-1974⁷⁾
飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾; 1♂1♀, 17-VII-1982
(木俣)
山形市奥山寺 2♂♂, 30-VI-1973(木俣)
蔵王連峰御田神 1♀, 30-VII-1984¹⁰⁾
山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984(木俣)
西川町志津月山荘 2♂♂4♀♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
西川町志津 1♂1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
235. *Ectropis obliqua* (Prout) ウスジロエダ
シヤク (Fig.99)
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
236. *Ectropis excellens* (Butler) オオトビス
ジエダシヤク
小国町叶水 3♂♂, 14-VI-1975(木俣)
山形市面白山 2♂♂1♀, 19-VI-1982⁹⁾
山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
237. *Parectropis extersaria japonica* Sato
シロモンキエダシヤク
蔵王連峰坊平 1ex., 2-VII-1983¹⁰⁾
東根市寒風山木葉沢 2♀♀, 29-VI-1985(木
俣)
西川町志津 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
238. *Abaciscus albipunctata* (Inoue) シロテン
トビスジエダシヤク (Fig.100)
飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 1-VII-1970(白畑)
西川町志津 5♂♂, 22-VI-1986¹⁸⁾; 4♀♀,
26-VII-1986¹⁸⁾
239. *Phanerothyris sinearia noctivolans*
(Butler) ウスグロナミエダシヤク
小国町叶水 1♂, 30-V-1976(木俣)
- 西川町本道寺 1ex., 17-VIII-1979¹²⁾
山形市面白山 1♂, 30-V-1982(木俣)
山形市高瀬戸沢 1♀, 3-VII-1984¹⁵⁾; 2♂♂
1♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
240. *Racotis petrosa* (Butler) ナミスジエダシ
ヤク
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
241. *Aethalura ignobilis* (Butler) ハンノトビ
スジエダシヤク
山形市面白山 1♀, 30-V-1982(木俣); 1♀,
19-VI-1982(木俣)
西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
西川町志津 1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
242. *Aethalura nanaria* (Staudinger) チビト
ビスジエダシヤク (Fig.101)
山形市瀬ノ原山 2♀♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
西川町志津 1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾
243. *Diplurodes parvularia parvularia* (Lee-
ch) ハラゲチビエダシヤク (Fig.102)
山形市西藏王高原 1♂, 29-V-1984¹⁰⁾
山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
本種の分布は、宮城県以南とされている。
244. *Hirasa paupera* (Butler) クロスジハイイ
ロエダシヤク
米沢市館山 1♂1♀, 27-VIII-1970(加藤);
1♂1♀, 31-VIII-1970(加藤)
村山市大久保大原 1♀, 18-VIII-1974⁷⁾; 1
♀, 22-VIII-1974⁷⁾
山形市山寺 1ex., 27-V-1978(博物館所蔵)
245. *Elphos insueta* Butler チャマダラエダシ
ヤク (Fig.103)
米沢市滑川温泉⁸⁾; 1♂, 17-VIII-1965(白畑);
1♀, 2-IX-1972(山谷); 1♂, 20-VIII-
1978(山谷); 1♂, 5-IX-1982(山谷)
東根市神町 1♀, X-1946¹⁴⁾
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾

- 小国町 1♀, 2-IX-1971 (山谷)
- 山形市奥山寺 1♂, 3-IX-1973⁹⁾; 1♀, 21-VIII-1977⁹⁾
- 米沢市 1♂, 25-VIII-1975 (山谷)
- 吾妻山 1♀, 7-IX-1975 (山谷)
- 村山市甕岳 1♀, 13-IX-1975⁷⁾
- 東根市関山 1♀, 28-X-1978 (博物館所蔵)
- 西川町志津 4♂♂, 24-VIII-1986 (木俣)
246. *Xandrames dholaria* Moore ヒロオビオオエダシヤク
- 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, VIII-1968 (博物館所蔵); 1♂, VIII-1968¹⁴⁾
- 東根市神町 1♀, VIII-1970 (博物館所蔵)
- 米沢市 1♂, 2-V-1973 (山谷)
- 西川町志津荒沢橋 2♂♂, 15-VII-1985¹⁸⁾
- 西川町志津 1♂, 24-VIII-1986¹⁸⁾
247. *Xandrames latiferaria latiferaria* (Walker) シロスジオオエダシヤク (Fig.104)
- 米沢市白布高湯⁸⁾; 1♀, 29-VII-1964 (博物館所蔵)
- 西川町志津 1♂, 5-VII-1973¹³⁾; 3♂♂, 26-VII-1986¹⁸⁾
248. *Duliophyle agitata agitata* (Butler) ヒロオビエダシヤク (Fig.105)
- 山形市面白山 1♀, 16-VIII-1975⁹⁾
- 天童市荒谷 1♀, 2-IX-1982⁹⁾
249. *Duliophyle majuscularia* (Leech) オオトビエダシヤク (Fig.106)
- 山形市奥山寺 1♂, 3-IX-1973⁹⁾
- 東根市関山 1♂, 28-X-1978 (博物館所蔵)
250. *Scionomia parasinuosa* Inoue コツマキウスグロエダシヤク
- 米沢市白布高湯 1♂, 2-VIII-1980 (木俣)
- 蔵王連峰御田神 2♂♂1♀, 30-VII-1984 (木俣)
251. *Thinopteryx crocoptera striolata* Butler
- キマダラツバメエダシヤク (Fig. 107)
- 米沢市置賜 1♂, 18-V-1969 (山谷)
- 東根市関山 1♀, 11-VIII-1978 (博物館所蔵)
- 鳥海山 1♂, 21-VI-1981 (山谷)
252. *Larerannis orthogrammaria* (Wehrli) ウスオビフユエダシヤク (Fig.108)
- 天童市舞鶴山 1♂, 21-XI-1977 (博物館所蔵)
- 村山市大滝 2♂♂, 24-XI-1986 (木俣)
253. *Pachyerannis obliquaria* (Motschulsky) クロスジフユエダシヤク (Fig.109)
- 遊佐町白井新田 3♂♂, 21-XI-1978 (博物館所蔵)
- 真室川町野々村 1♂, 15-XI-1971 (博物館所蔵); 1♂, 25-XI-1971 (博物館所蔵)
- 尾花沢市山刀伐峠 2♂♂, 10-XI-1976 (博物館所蔵)
- 天童市舞鶴山 1♂, 23-XI-1976 (博物館所蔵)
- 山形市高瀬 1♂, 13-XI-1983¹⁵⁾
- 山形市霞城公園 1♂, 14-XI-1985 (木俣)
254. *Erannis golda* Djakonov チャバネフユエダシヤク
- 酒田市 1♂, 16-IX-1958¹³⁾
- 山形市高瀬 1♂, 13-XI-1983¹⁵⁾
- 山形市小白川町 1♂, 17-XI-1985 (野村)
255. *Apochima juglansiararia* (Graeser) オカモトトゲエダシヤク (Fig.110)
- 山形市山寺 1♂, 11-IV-1977 (博物館所蔵)
256. *Megabiston plumosaria* (Leech) チャエダシヤク
- 小国町叶水 5♂♂, 3-XI-1977 (木俣)
257. *Biston betularia parvus* Leech オオシモフリエダシヤク
- 蔵王ロープウェイ中駅 (観松平) 1♂, 26-VII-1971 (木俣)
- 米沢市 1♂, 25-VII-1972 (山谷)
- 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 4♂♂, 24

- Ⅷ-1986
 米沢市白布高湯 1♂, 2-Ⅷ-1980(木俣)
 蔵王連峰観松平 1♂, 23-Ⅶ-1986(木俣)
258. *Biston robustus robustus* (Butler) トビモン
 オオエダシヤク
 酒田市 1♂, 28-Ⅲ-1959¹²⁾
 米沢市 1♂, 26-Ⅳ-1969(山谷)
 西川町志津 1♂, 23-Ⅵ-1974¹³⁾
 山形市山寺 3♂♂, 11-Ⅳ-1977(博物館所蔵)
 山形市高瀬 4♂♂, 22-Ⅳ-1984¹⁵⁾
 西川町大井沢中村 3♂♂, 10-V-1986(木俣)
259. *Biston regalis comitata* (Warren) ハイイ
 ロオオエダシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平 1♂, Ⅶ-1968¹²⁾; 1♂,
 Ⅷ-1969(博物館所蔵)
 山形市面白山 1♂, 24-Ⅷ-1974⁹⁾
 西川町志津荒沢橋 1♂, 15-Ⅶ-1985¹⁸⁾
260. *Amraica superans superans* (Butler) ウス
 イロオオエダシヤク
 酒田市 1♂, 1-Ⅵ-1961¹⁴⁾
 新庄市新庄温泉 1♂, 16-Ⅵ-1961(木俣)
 西川町志津 1♂, 6-Ⅶ-1974¹³⁾
 小国町叶水 1♂, 14-Ⅵ-1975(木俣)
 山形市面白山 2♀♀, 30-Ⅵ-1975⁹⁾; 2♂♂
 1♀, 19-Ⅶ-1975⁹⁾
 山形市山寺 1♂, 3-Ⅵ-1977(博物館所蔵);
 1♂, 22-Ⅵ-1977(博物館所蔵)
 山形市西藏王高原 1♀, 14-Ⅵ-1984¹⁰⁾; 1
 ♂, 11-Ⅶ-1984¹⁰⁾
 上山市蔵王ライン 1♂, 7-Ⅶ-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 2♂♂, 29-Ⅵ-1985(木
 俣)
 中山町岩谷 1♂, 28-Ⅵ-1986(木俣)
261. *Erebomorpha fulguraria consors* Butler
 アミメオオエダシヤク
 米沢市館山 1♀, 19-Ⅷ-1970(加藤)
- 山形市面白山 1♂, 16-Ⅷ-1975⁹⁾
 東根市関山 1♂, 11-Ⅷ-1978(博物館所蔵)
 蔵王連峰坊平 1♂, 17-Ⅷ-1980¹⁰⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂, 3-Ⅶ-1984¹⁵⁾
 中山町岩谷 2♂♂, 28-Ⅵ-1986(木俣)
262. *Medasina nikkonis* (Butler) ニッコウエダ
 シヤク (Fig.111)
 飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾; 2♂♂, 28-V-1968(博
 物館所蔵)
 小国町叶水 1♂, V-1975(木俣)
 西川町志津姥沢小屋 5♂♂, V-1983¹⁶⁾
 西川町志津 1♂, 22-Ⅵ-1986¹⁸⁾
263. *Wilemania nitobei* (Nitobe) ニトベエダシ
 ヤク
 鳥海山湯ノ台 1♂, 29-X-1974¹³⁾
 小国町叶水 6♂♂, 3-XI-1977(木俣)
 朝日村上名川 1♂, 23-X-1982(木俣)
 山形市高瀬 2♂♂1♀, 6-XI-1983¹⁵⁾; 1♂,
 13-XI-1983¹⁵⁾
264. *Pachyligia dolosa* Butler アトジロエダシ
 ヤク
 山形市山寺 1♂, 11-V-1977(博物館所蔵);
 1♂, 12-V-1977(博物館所蔵)
 山形市西藏王高原 1♂1♀, 24-Ⅵ-1983¹⁰⁾
 山形市不動沢 2♀♀, 4-Ⅵ-1984¹⁰⁾
 西川町大井沢中村 1♂, 10-V-1986(木俣)
265. *Descoreba simplex simplex* Butler ハスオ
 ビエダシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 12-V-1967¹⁴⁾
 山形市奥山寺 1♀, 11-V-1975⁹⁾
 小国町 1♀, 11-V-1980(山谷)
 山形市不動沢 1♀, 4-Ⅵ-1984¹⁰⁾
266. *Colotois pennaria ussuriensis* Bang-Haas
 カバエダシヤク (Fig.112)
 山形市山寺 3♂♂, 30-X-1977(博物館所蔵)
 山形市高瀬 7♂♂, 13-XI-1983¹⁵⁾

267. *Planociampa modesta* (Butler) ホソバト
ガリエダシャク
山形市本町 1♂, 9-IV-1962(木俣); 1♂, 10-IV-1962(木俣)
268. *Planociampa antipala* (Prout) ヒロバトガ
リエダシャク
山形市山寺 1♂, 11-IV-1977(博物館所蔵)
本種の分布は、宮城県以南とされている。
269. *Angerona nigrisparsa* Butler ゴマフキエダ
シャク
山形市上宝沢⁸⁾
酒田市北里町 1♀, 10-VI-1968¹²⁾
飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 24-VIII-1968¹⁴⁾
米沢市愛宕山 1♂, 10-VI-1969(山谷)
鶴岡市金峯山 1♂, 7-VI-1970¹⁴⁾
山形市奥山寺 1♂, 7-VII-1974⁹⁾
小国町叶水 1♂1♀, 14-VI-1975(木俣)
山形市山寺 1♂2♀♀, 19-XI-1977(博物館所
蔵)
西川町上島 1♀, 2-IX-1979¹²⁾
山形市面白山 1♂, 10-VII-1982⁹⁾
山形市西蔵王高原 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾
東根市寒風山木葉沢 3♂♂2♀♀, 29-VI-1985
(木俣)
山形市門伝大平 2♂♂, 8-VII-1985(木俣)
中山町岩谷 2♂♂, 28-VI-1986(木俣)
大蔵村肘折温泉 1♀, 3-VII-1986(木俣)
西川町志津 2♂♂1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
270. *Bizia aexaria* Walker ツマトビキエダシ
ャク
酒田市 1♂, VIII-1956¹⁴⁾
山形市 1♂, 30-VI-1960(木俣); 1♀, 4-
VII-1960(木俣)
西川町志津 1♂, 8-VIII-1961¹⁴⁾
米沢市 1♂, 19-VII-1972(山谷)
村山市大久保大原 1♀, 20-VI-1974⁷⁾
米沢市関町 1♂, 21-VI-1975(山谷)
山形市山寺 1♂, 6-VII-1976(博物館所蔵)
天童市荒谷 1♂, 9-IX-1980⁹⁾
271. *Exangerona prattiararia* (Leech) オイワケ
キエダシャク (Fig.113)
西川町志津 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
272. *Menophra harutai* (Inoue) ハルタウスク
モエダシャク (Fig.114)
山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
273. *Menophra atrilineata* (Butler) クワエダシ
ャク
米沢市館山 1♂, 31-VIII-1970(加藤)
村山市楯岡 1♂, 27-VI-1948⁷⁾
村山市大久保 1♀, 4-VII-1973⁷⁾
山形市面白山 1♂, 19-VII-1975⁹⁾; 1♂,
17-IX-1977⁹⁾
本種の幼虫はクワの害虫として昔から知られ
ている。
274. *Menophra senilis* (Butler) ウスクモエダシ
ャク
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
山形市山寺 1♂, 12-V-1977(博物館所蔵);
1♀, 31-VIII-1977(博物館所蔵)
東根市関山 1♀, 11-VIII-1978(博物館所蔵)
西川町上島 1♂, 2-IX-1979¹²⁾
蔵王連峰坊平 1♂, 17-VIII-1980¹⁰⁾
山形市面白山 1♂, 30-V-1982⁹⁾
天童市荒谷 1♀, 1-IX-1982⁹⁾
山形市不動沢 3♂♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
山形市瀬ノ原山 3♂♂1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
山形市高瀬戸沢 3♀♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
中山町岩谷 1♂, 3-VIII-1986(木俣)
275. *Cryptochorina amphidasyaria* (Oberthür)
ヒゲマダラエダシャク
羽黒山 1♂, 6-V-1971¹²⁾

- 小国町叶水 3♂♂, V-1975(木俣)
 東根市間木野 1♀, 24-IV-1977(博物館所蔵)
 西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
276. *Psyrta boarmiata subcuneata* Inoue ミス
 ジキリバエダシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平 1ex., 23-VIII-1968¹²⁾
277. *Epholca arenosa* (Butler) サラサエダシヤク
 米沢市白布高湯⁸⁾; 1♂, 29-VII-1964(博物館所蔵)
 月山 1♂, 4-VIII-1956¹³⁾
 小国町叶水 1♀, 29-VI-1974(木俣)
 西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 6♂♂4♀
 ♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
 山形市面白山 1♂, 10-VII-1982⁹⁾
 上山市蔵王ライン 2♂♂2♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 3♂♂2♀♀, 29-VI-1985
 (木俣)
 山形市門伝大平 1♂, 8-VII-1985(木俣)
 西川町志津荒沢橋 3♂♂1♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 大江町古寺鉾泉 1♂1♀, 20-VII-1985(木俣)
 西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
278. *Proteostrenia ieda* (Butler) シロモンクロ
 エダシヤク
 山形市雁戸山⁸⁾
 鶴岡市善宝寺 1♂, 29-VII-1969¹⁴⁾
 西川町志津 1♀, 19-VIII-1970(白畑); 1♀,
 25-VII-1975⁶⁾; 1♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
 蔵王ロープウェイ中駅(観松平) 1♀, 26-VII-
 1971(木俣)
 山形市面白山 2♀♀, 8-VII-1973(木俣); 1
 ♀, 15-VII-1973(木俣)
 鶴岡市大山上池 1♂, 3-VII-1975(博物館所
 蔵)
 吾妻連峰ババ谷地 1♀, 2-VIII-1980(木俣)
- 米沢市白布高湯 1♂, 21-VII-1983(山谷)
 山形市不動沢 1♀, 14-VII-1984(木俣)
 大江町古寺鉾泉 1♀, 20-VII-1985(木俣)
 西川町志津月山荘 7♀♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
279. *Nothomiza formosa* (Butler) マエキトビエ
 ダシヤク
 酒田市 1♂, IX-1959¹²⁾
 小国町 3♂♂, 20-V-1972(山谷)
 小国町叶水 1♀, 14-VI-1975(木俣)
 山形市西藏王高原 1♀, 15-IX-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 1♂, 29-VI-1985(木俣)
 山形市門伝大平 1♀, 8-VII-1985(木俣)
280. *Ennomos autumnaria nephrotrapa* Prout
 キリバエダシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平⁸⁾; 1♀, 21-X-1967¹⁴⁾
 吾妻連峰新高湯 1♂, 29-IX-1971¹³⁾
 山形市面白山 1♀, 24-VIII-1974⁹⁾
 小国町叶水 2♂♂, 9-X-1976(木俣)
 蔵王連峰坊平 2♂♂, 17-VIII-1980¹⁰⁾; 1♂
 1♀, 7-IX-1980¹⁰⁾
 朝日村荒沢ダム 1♂, 18-VIII-1982(木俣)
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♀, 19-IX-1983¹⁰⁾
 山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1985¹⁵⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 18-X-1984(木俣)
 西川町志津 2♂♂1♀, 10-X-1986¹⁸⁾
281. *Acrodontis fumosa* (Prout) オオノコメエ
 ダシヤク
 山形市 1♂, 1-X-1960(木俣); 1♂, 10-X-
 1960(木俣)
 酒田市 1♂, 10-X-1961¹⁴⁾
 南陽市大谷地 1♀, 11-X-1972¹³⁾
282. *Acrodontis kotshubeji* Sheljuzhko キブシ
 ノコメエダシヤク
 吾妻連峰新高湯 1♂, 29-IX-1971¹³⁾
283. *Odontopera arida arida* (Butler) エグリ
 ツマエダシヤク

- 山形市 1♀, 19-X-1960(木俣); 1♀, 21-X-1960(木俣); 1♀, 14-XI-1960(木俣)
- 吾妻連峰新高湯 1♀, 29-IX-1972¹³⁾
- 蔵王連峰蔵王パラダイス 3♂♂2♀♀, 21-V-1983¹⁰⁾
- 山形市西藏王高原 1♀, 18-X-1984(木俣)
- 本種の分布は、宮城県以南とされている。
284. *Odontopera aurata* (Prout) キイロエグリ
ツマエダシヤク
- 鳥海山千畳ヶ原⁸⁾; 1♂, 26-VII-1970
- 朝日連峰天狗角力取場 1♀, 7-VIII-1961¹⁴⁾
- 米沢市白布高湯 2♂♂1♀, 22-VI-1965(博物館所蔵); 1♀, 22-VI-1966(博物館所蔵); 1♂, 29-VII-1966(博物館所蔵); 1♂, 29-V-1982(山谷)
- 鳥海山鳥ノ海 VIII-1966³⁾
- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
- 蔵王ロープウェイ中駅(観松平) 1♀, 26-VII-1971(木俣)
- 吾妻連峰新高湯 1♂, 27-IX-1972¹³⁾
- 朝日連峰古寺 1♀, 10-IX-1973¹²⁾
- 村山市大久保大原 1♀, 9-IX-1973⁷⁾
- 山形市山寺 1♀, 31-VIII-1977(博物館所蔵)
- 山形市面白山 2♂♂, 17-IX-1977⁹⁾
- 西川町月山沢 1♀, 30-VI-1979¹²⁾; 1♀, 15-IX-1979¹²⁾
- 西川町上島 2♀♀, 2-IX-1979¹²⁾
- 蔵王連峰坊平 2♂♂2♀♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾
- 天童市荒谷 1♀, 28-VIII-1980⁹⁾
- 山形市上宝沢 1♂, 15-IX-1980(木俣)
- 蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂1♀, 21-V-1983¹⁰⁾
- 山形市瀬ノ原山 1♂, 7-VI-1984¹⁵⁾
- 蔵王連峰御田神 2♂♂1♀, 30-VII-1984¹⁰⁾; 1♀, 14-VIII-1984¹⁰⁾
- 山形市高瀬 1♀, 14-X-1984¹⁵⁾
- 西川町志津 1♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
285. *Cotta incongruaria* (Walker) ヨスジキエダシヤク
- 酒田市飛島⁸⁾; 1ex., VI-1969¹²⁾
- 本種の分布は、関東以西とされている。
286. *Zethenia albonotaria nesiotis* Wehrli
モンシロツマキリエダシヤク
- 山形市上宝沢⁸⁾
- 山形市雁戸山⁸⁾
- 米沢市白布高湯 1♀, 29-VII-1966(博物館所蔵)
- 小国町叶水 3♂♂1♀, 30-V-1976(木俣)
- 山形市面白山 4♀♀, 30-V-1982⁹⁾; 1♂, 19-VI-1982⁹⁾
- 西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
- 西川町志津 2♂♂1♀, 22-VI-1986¹⁸⁾; 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
- 大蔵村肘折温泉 1♂, 3-VII-1986(木俣)
287. *Zethenia rufescentaria rufescentaria* Motschulsky ミスジツマキリエダシヤク
- 山形市雁戸山⁸⁾
- 遊佐町杉沢⁸⁾; 1♂, 1-VI-1971¹²⁾
- 新庄市新庄温泉 1♀, 16-VI-1961(木俣)
- 鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
- 小国町 1♂, 3-V-1972(山谷)
- 山形市仁田沢 1♀, 8-V-1972¹³⁾
- 山形市山寺 1♀, 3-VI-1977(博物館所蔵)
- 戸沢村古口 1♀, 15-V-1981(山谷)
- 山形市不動沢 3♂♂2♀♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
- 中山町岩谷 1♀, 21-V-1986(木俣); 2♀♀, 3-VIII-1986(木俣)
288. *Zanclidia testacea* (Butler) キマダラツマキリエダシヤク
- 山形市雁戸山⁸⁾
- 山形市面白山 1♀, 27-VII-1974⁹⁾
289. *Auaxa cesadaria sulphurea* (Butler) キ

- エダシャク (Fig.115)
村山市大久保大原 1♀, 10-VII-1974⁷⁾
290. *Pareclipsis gracilis* (Butler) ツマキリウス
スキエダシャク (Fig.116)
中山町岩谷 1♀, 28-VI-1986 (木俣)
291. *Selenia adustaria* Leech ウスムラサキエ
ダシャク (Fig.117)
吾妻連峰新高湯 1♀, 25-VII-1971 (山谷)
小国町叶水 1♂, 30-V-1976 (木俣)
292. *Selenia tetralunaria* (Hufnagel) ムラサキ
エダシャク
飯豊連峰スクミ平 1♂, 23-VIII-1968¹²⁾; 1
♂, 24-VIII-1968¹⁴⁾
山形市山寺 1♀, 14-V-1977 (博物館所蔵)
米沢市白布高湯 1♀, 2-VIII-1980 (木俣)
山形市瀬ノ原山 1♂, 7-VI-1984¹⁵⁾
山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
西川町志津 2♂♂, 22-VI-1986¹⁸⁾
293. *Agaraeus parvus distans* (Warren) コガ
タイチモジエダシャク
米沢市斜平山⁸⁾
294. *Garaeus specularis mactans* (Butler) キ
バラエダシャク
飯豊連峰スクミ平 1♂, 23-VIII-1968¹²⁾; 1
♂, 17-VII-1982 (木俣)
山形市笹谷峠 1♂, 28-IX-1968 (木俣)
吾妻連峰新高湯 1 ex., 29-IX-1971¹³⁾
西川町月山沢 1♂, 11-X-1979¹²⁾
西川町志津 1♀, 10-X-1986¹⁸⁾
鳥海山 1♀, 20-IX-1981 (山谷)
朝日村荒沢ダム 1♀, 23-X-1982 (木俣)
蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂, 19-IX-1983¹⁰⁾
295. *Xyloscia subpersata* (Felder & Roggen-
hofer) トガリエダシャク
西川町間沢 1♂, 4-VIII-1973⁴⁾
296. *Endropiodes indictinaria* (Bremer) モミ
ジツマキリエダシャク
米沢市白布高湯 1♀, 22-VI-1965 (博物館所
蔵)
飯豊連峰スクミ平 1♂, 24-VIII-1968¹²⁾; 1
♀, 1-VII-1970 (白畑)
遊佐町三崎山 1♀, 25-VII-1971¹²⁾
村山市大久保大原 1♂, 31-VII-1974⁷⁾
小国町叶水 7♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
山形市面白山 1♂, 16-VIII-1975 (木俣); 2
♂♂, 30-V-1982 (木俣)
山形市山寺 1♀, 3-VI-1977 (博物館所蔵)
西川町月山沢 1♀, 17-VIII-1979¹²⁾
西川町入間 1♀, 18-VIII-1979¹²⁾
山形市不動沢 1♂1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾; 1♀,
14-VII-1984 (木俣)
東根市寒風山木葉沢 6♀♀, 29-VI-1985 (木
俣)
大江町古寺鉱泉 1♀, 20-VII-1985 (木俣)
西川町志津 1♂1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
297. *Endropiodes abjectus abjectus* (Butler)
ツマキリエダシャク
遊佐町三崎山⁸⁾
飯豊連峰スクミ平 1♂, 3-VI-1966 (博物館所
蔵)
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
西川町志津姥沢小屋 1♂, V-1983¹⁶⁾
298. *Endropiodes circumflexus* Inoue ツツジ
ツマキリエダシャク (Fig.118)
小国町 1♂, 23-V-1979 (山谷)
東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
299. *Plagodis dolabraria* (Linnaeus) ナカキエ
ダシャク
小国町長者原 1♂, 29-V-1968¹⁴⁾
西川町志津 1♂, 19-VIII-1970 (白畑)
小国町叶水 1♂, 30-V-1976 (木俣)

- 東根市関山 1♀, 11-VIII-1978 (博物館所蔵)
- 蔵王連峰坊平 1♂, 17-VIII-1980¹⁰⁾; 1♂,
7-IX-1980¹⁰⁾
- 西川町志津姥沢小屋 1♀, V-1983¹⁶⁾
- 山形市西藏王高原 1♀, 29-V-1984¹⁰⁾; 1♂,
18-VIII-1984¹⁰⁾
- 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
- 山形市高瀬戸沢 1♂, 4-VIII-1984¹⁵⁾
- 東根市寒風山木葉沢 1♀, 29-VI-1985 (木俣)
300. *Plagodis pulveraria japonica* (Butler)
コナフキエダシャク
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
飯豊連峰ヌクミ平 1♀, 23-VIII-1970¹⁴⁾
米沢市白布高湯 1♂, 23-VII-1972 (山谷)
西川町志津 1♂, 6-VII-1973¹³⁾; 1♂, 24-
VIII-1986¹⁸⁾
蔵王連峰蔵王パラダイス 1♂, 21-V-1983¹⁰⁾
山形市西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾
山形市瀬ノ原山 2♀♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
西川町志津月山荘 3♀♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
301. *Sabaria paupera* (Butler) フタマエホシエ
ダシャク (Fig.119)
西川町志津 1♂, 26-VII-1986¹⁸⁾
302. *Heterolocha stulta* (Butler) ベニスジエダ
シャク
上山市蔵王ライン 4♀♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
山形市門伝大平 2♀♀, 8-VII-1985 (木俣)
303. *Parepione grata* (Butler) ウラモンアカエ
ダシャク (Fig.120)
酒田市松境 1♂, 6-V-1967¹³⁾
温海町摩耶山 1♂, 10-V-1969¹⁴⁾
山形市不動沢 1♀, 4-VI-1984¹⁰⁾
304. *Cepphis advenaria* (Hübner) アトボシエ
ダシャク
飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 24-VIII-1968¹⁴⁾
鶴岡市三瀬気比神社 1♀, 25-V-1973 (博物
館所蔵)
- 上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984 (木俣)
東根市寒風山木葉沢 2♀♀, 29-VI-1985 (木
俣)
大蔵村肘折温泉 1♂, 3-VII-1986 (木俣)
西川町志津 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
305. *Petrophora chlorosata* (Scopoli) シダエダ
シャク (Fig.121)
八幡町北青沢 1♀, 23-IV-1961¹⁴⁾
西川町志津姥沢小屋 1♂3♀♀, V-1983¹⁶⁾
山形市不動沢 2♂♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
山形市瀬ノ原山 1♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
朝日村上田沢 3♂♂, 5-V-1985 (木俣)
306. *Spilopera debilis* (Butler) ツマトビシロ
エダシャク
山形市上宝沢⁸⁾
山形市雁戸山⁸⁾
西川町大井沢根子 1♀, 17-VIII-1959¹⁴⁾
酒田市 1ex., 1-VI-1960¹³⁾
鳥海山ソブ谷地 VIII-1966³⁾
飯豊連峰ヌクミ平 1♂, 17-VIII-1966 (博物
館所蔵)
山形市面白山 1♀, 18-V-1975⁹⁾; 1♂1♀,
30-VI-1975⁹⁾; 1♂, 19-VII-1975⁹⁾; 1♂,
19-VI-1982⁹⁾
小国町叶水 2♀♀, 14-VI-1975 (木俣)
西川町志津 1♂, 25-VII-1975⁶⁾; 1♀, 26-
VII-1986¹⁸⁾; 4♀♀, 24-VIII-1986¹⁸⁾
山形市山寺 1♂, 29-VIII-1977 (博物館所蔵);
1♂, 31-VIII-1977 (博物館所蔵)
東根市関山 1♀, 11-VIII-1978 (博物館所蔵)
山形市西藏王高原 1♀, 26-VIII-1983¹⁰⁾
山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
山形市瀬ノ原山 3♀♀, 7-VI-1984¹⁵⁾
上山市蔵王ライン 1♂1♀, 7-VII-1984¹⁰⁾
蔵王連峰御田神 1♂, 30-VII-1984¹⁰⁾

- 山形市高瀬戸沢 1♀, 4-VIII-1984¹⁵⁾
 東根市寒風山木葉沢 3♀♀, 29-VI-1985(木俣)
 大江町古寺鉾泉 1♀, 20-VII-1985(木俣)
 西川町志津月山荘 1♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
307. *Ourapteryx persica* Ménériès フトスジツバメエダシヤク (Fig.122)
 蔵王連峰坊平 1♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 11-VII-1984¹⁰⁾
308. *Ourapteryx nivea* Butler ウスキツバメエダシヤク (Fig.123)
 酒田市飛鳥⁸⁾; 1♂, 26-VI-1969¹²⁾
 酒田市 1♂, 22-IX-1949(博物館所蔵); 1♂, 15-IX-1959¹²⁾; 1♀, X-1959¹²⁾; 1♂, 23-IX-1961¹⁴⁾
 村山市大久保 1♂, 9-IX-1972⁷⁾
 村山市大久保大原 1♀, 21-IX-1973⁷⁾
 酒田市大森山 1♀, 25-IX-1976(博物館所蔵)
 山形市高瀬 2♂♂, 10-IX-1983¹⁵⁾
309. *Ourapteryx nomurai* Inoue ノムラツバメエダシヤク
 酒田市 1♀, 29-IX-1949(博物館所蔵); 1♂, 21-IX-1961(博物館所蔵)
 蔵王連峰蔵王パラダイス 1ex., 12-VIII-1961¹⁴⁾
 山形市高瀬 1♂, 16-IX-1984¹⁵⁾
 本種の分布は、宮城県以南とされている。
310. *Ourapteryx obtusicauda* (Warren) コガタツバメエダシヤク
 鳥海山大台野⁸⁾
 西川町月山沢 1♂, 4-VIII-1956¹⁴⁾
 鶴岡市高館山 1♂, 24-VI-1972¹³⁾
 山形市奥山寺 1♂, 30-VI-1973⁹⁾
 山形市面白山 2♀♀, 10-VII-1982⁹⁾
 山形市不動沢 2♀♀, 14-VI-1984(木俣)
 山形市高瀬戸沢 1♂5♀♀, 3-VII-1984¹⁵⁾
 上山市蔵王ライン 1♂, 7-VII-1984¹⁰⁾
 東根市寒風山木葉沢 4♀♀, 29-VI-1985(木俣)
 中山町岩谷 6♂♂3♀♀, 28-VI-1986(木俣)
311. *Ourapteryx subpunctaria* Leech ヒメツバメエダシヤク
 飯豊連峰ヌクミ平 2♂♂1♀, 17-VII-1982(木俣)
 西川町志津荒沢橋 2♀♀, 15-VII-1985¹⁸⁾
 西川町志津月山荘 6♀♀, 3-VIII-1985¹⁷⁾
 西川町志津 1♀, 26-VII-1986¹⁸⁾
312. *Ourapteryx maculicaudaria* (Motschulsky) シロツバメエダシヤク
 村山市楯岡 1♀, 21-VIII-1949⁷⁾
 西川町大井沢日暮合小屋 1♂, 12-VIII-1954(白畑)
 鳥海山笹ヶ岳⁸⁾; 1♂, 25-VIII-1970¹²⁾
 山形市唐松観音⁸⁾
 平田町三千坊谷地 1♂, 23-VII-1961(博物館所蔵)
 酒田市生石 1♀, 23-VII-1961(博物館所蔵)
 羽黒山 1♂, 17-VIII-1969¹⁴⁾
 米沢市館山 1♂, 11-VIII-1970(加藤); 2♂♂, 23-VIII-1970(加藤)
 山形市高瀬 1♂1♀, 19-VIII-1971(木俣)
 村山市大久保 1♂, 31-VII-1972⁷⁾
 山形市面白山 1♂2♀♀, 19-VIII-1973⁹⁾
 村山市名取 1♂, 13-VIII-1975⁷⁾
 東根市関山 1♂1♀, 15-IX-1976(博物館所蔵)
 山形市山寺 1♂, 26-VIII-1977(博物館所蔵); 1♂, 29-VIII-1977(博物館所蔵)
 西川町本道寺 1♂, 17-VIII-1979¹²⁾
 蔵王連峰坊平 1♀, 17-VIII-1980¹⁰⁾; 1♂, 7-IX-1980¹⁰⁾
 山形市西藏王高原 1♂, 26-VIII-1983¹⁰⁾
 西川町志津 1♂, 24-VIII-1986¹⁸⁾
- 追 補
 Larentiinae ナミシヤク亜科
313. *Telenomeuta punctimarginaria punctimarginaria* (Leech) テンヅマナミシヤク
 山形市不動沢 1♂, 4-VI-1984¹⁰⁾
314. *Viidaleppia taigana ishizukai* (Inoue) ソウクロオビナミシヤク

飯豊連峰烏帽子岳²⁶⁾ 飯豊連峰門内岳²⁶⁾

Ennominae エダシャク亜科

315. *Microcalicha fumosaria fumosaria* (Leech)

クロオオモンエダシャク

山形市面白山⁹⁾

316. *Ectropis aigner* (Prout) ウストビスジエ

ダシャク

村山市大久保大原 1♂, 16-VII-1974⁷⁾

317. *Agriopsis leucophaearia dira* (Butler) シ

ロフフユエダシャク

山形市高瀬¹⁵⁾

蛾, 山形昆虫同好会会誌 12:23-25

12) 木俣 繁 (1984) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本 (I), 誘蛾燈 96:87-94, 誘蛾会

13) ——— (1985) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本 (II), 誘蛾燈 99:31-34, 誘蛾会

14) ——— (1986) 故白畑孝太郎氏所蔵蛾類標本 (III), 誘蛾燈 103:17-25, 誘蛾会

15) ——— (1985) 高瀬川上流域の昆虫類, 高瀬川上流環境保全計画調査報告書

16) 市川和夫 (1985) 5月下旬, 月山々麓姥沢小屋付近の蛾, 寄せ蛾記 45:624-626, 埼玉昆虫談話会

17) ——— (1987) 月山々麓, 8月上旬の蛾類, 寄せ蛾記 49:767-770, 埼玉昆虫談話会

18) 木俣 繁 (1987) 昆虫類 2.蛾類, 山形県立自然博物館自然環境基礎調査報告書, 日本自然保護協会 pp.83-93

19) 井上 寛 (1957) シャクガ科, 原色日本蛾類図鑑, 保育社

20) ——— (1959) シャクガ科, 原色昆虫図鑑 I (蝶蛾篇), 北隆館

21) ——— (1961) 日本昆虫分類図説 第1集 第4部 シャクガ科 (上), 北隆館

22) ——— (1982) シャクガ科, 日本産蛾類大図鑑 I・II, 講談社

23) Sato, R. (1980) A Revision of the Genus *Jankowskia* Oberthür (Lepidoptera, Geometridae) Tyo to Ga, 30(3,4):127-139, Lepidopterological Society of Japan

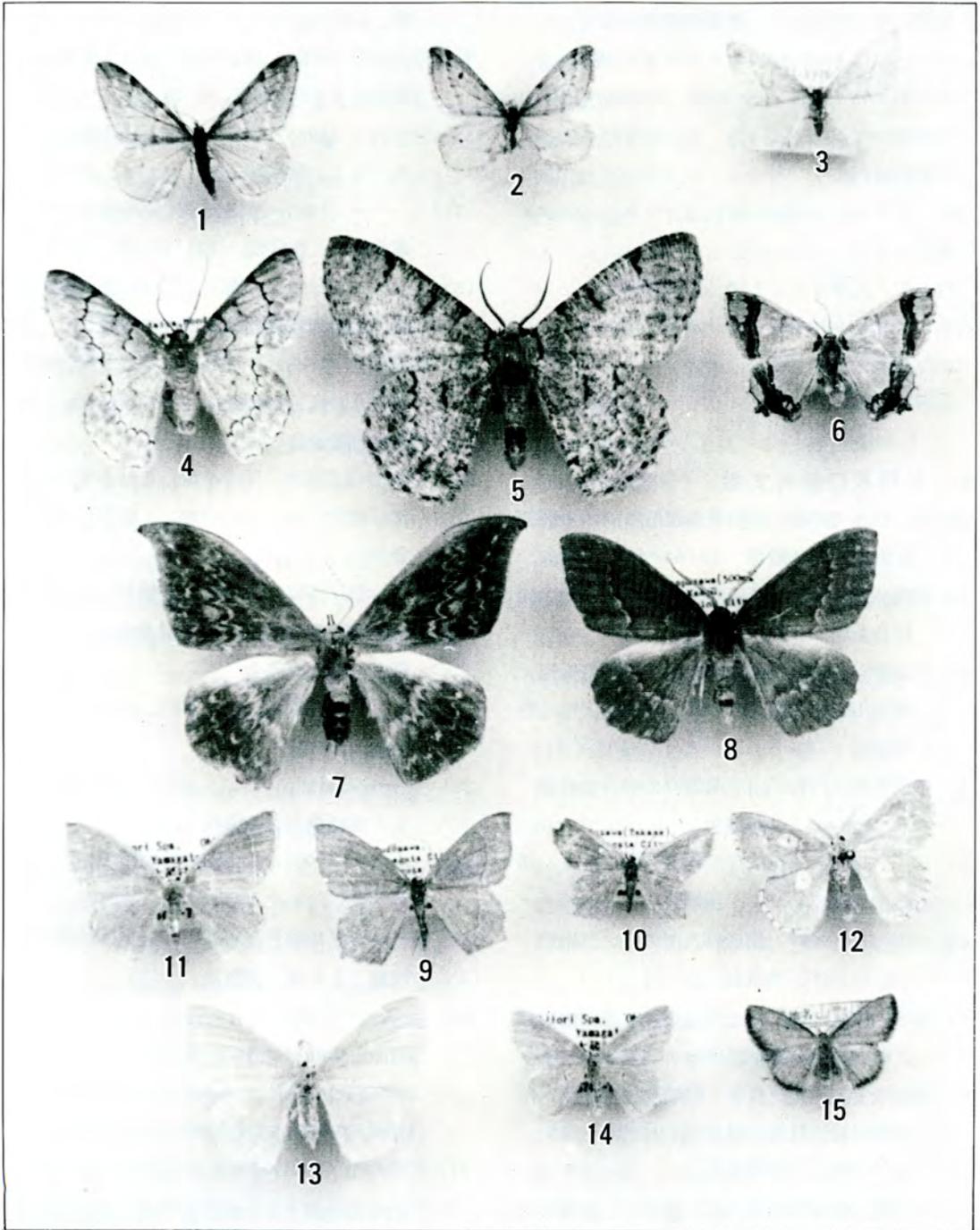
24) 佐藤力夫 (1984) 日本産 *Hypomecis* 属とその近縁属に関する分類学的研究, 越佐昆虫同好会特別報告 第1号

25) ——— (1986) 日本と台湾のネグロウスベニナミシャクとその近縁種, 蛾類通信 135:147-154, 日本蛾類学会

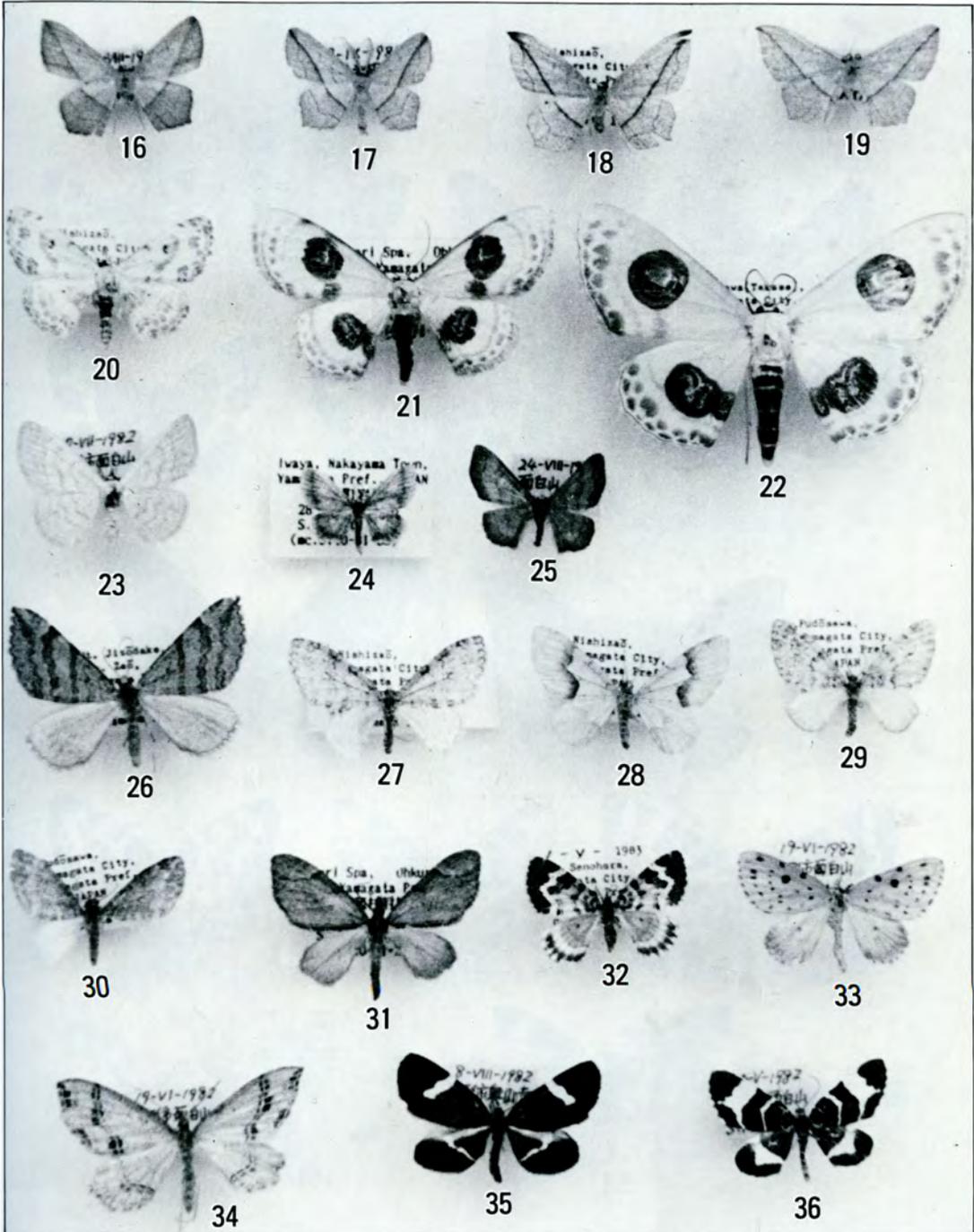
26) 神保一義・柳田慶浩 (1970) 飯豊連峰の高山蛾, 蛾類通信 62:26-27, 日本蛾類学会

4. 引用及び参考文献

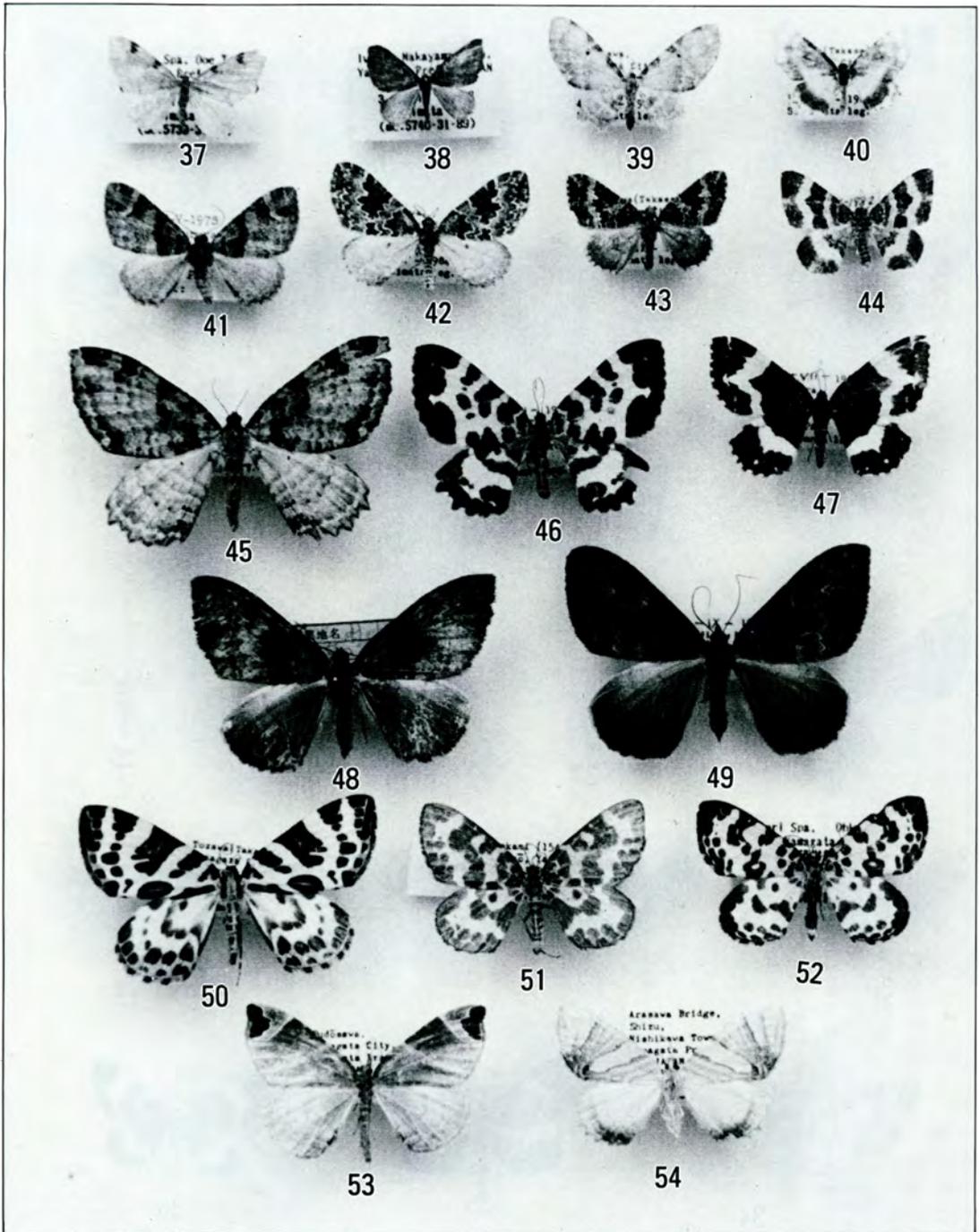
- 1) 村木弘昌 (1962) 山形県東根市に於ける蛾類採集記録, 誘蛾燈 13:44-47, 誘蛾会
- 2) 木俣 繁 (1964) 新庄温泉の蛾, 山形昆虫同好会会誌 2(1):3-4
- 3) 柳田慶浩 (1967) 烏海山の動植物調査報告, 早稲田生物 16:35-44, 早稲田大学生物同好会
- 4) 岸田泰則 (1974) 山形県間沢の蛾, 誘蛾燈 58:108-112, 誘蛾会
- 5) ——— (1975) 山形県間沢の蛾 (II), 誘蛾燈 62:35-44, 誘蛾会
- 6) ——— (1977) 山形県志津の蛾, 誘蛾燈 67:16-20, 誘蛾会
- 7) 高谷 太 (1975) 郷土昆虫標本目録, 山形県立村山農業高等学校生物クラブ
- 8) 白畑孝太郎・黒沢良彦・菊地賢治 (1982) 山形県産昆虫目録, 最上川 pp.463-553, 山形県総合学術調査会
- 9) 木俣繁・菊地賢治 (1982) 立谷川上流域の昆虫類, 立谷川上流環境保全調査報告書 pp.279-301, 山形市
- 10) ———・——— (1985) 蔵王連峰の昆虫類, 蔵王連峰 pp.294-333, 山形県総合学術調査会
- 11) 武田隆・横倉明 (1983) 糖蜜採集で得られた



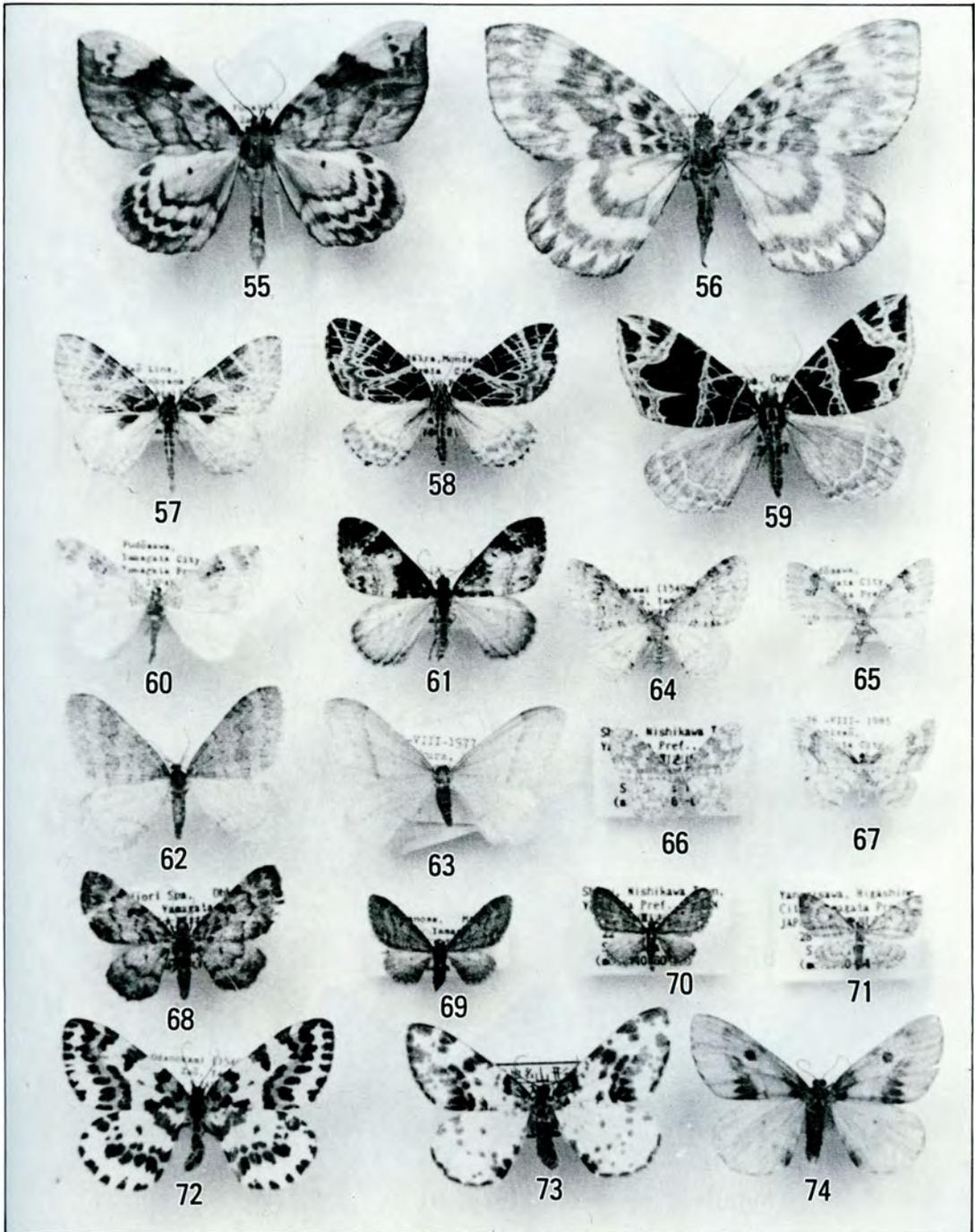
Figs. 1~15. 1. *Alsophila japonensis* (Warren) シロオビフユシャク 2. *Inurois fletcheri* Inoue ウスバフユシャク 3. *Inurois asahinai* Inoue フタスジフユシャク 4. *Pingasa aigneri* Prout ウスアオアヤシャク 5. *Pachyodes superans* (Butler) オオアヤシャク 6. *Agathia carissima carrissima* Butler チズモンアオシャク 7. *Tanaorhinus reciprocata confuciaris* (Walker) カギバアオシャク 8. *Geometra papilionaria subrigua* (Prout) オオシロオビアオシャク 9. *Gelasma fuscifrons* Inoue スグロツバメアオシャク 10. *Diplodesma takahashii* Inoue ヒメアオシャク 11. *Comibaena amoenaria* (Oberthür) ヘリジロツバメアオシャク 12. *Thetidia albocostaria* (Bremer) ヨツメアオシャク 13. *Hemistola veneta* (Butler) コシロスジアオシャク 14. *Comostola subtiliaris nympa* (Butler) コヨツメアオシャク 15. *Pylargosceles steganioides steganioides* (Butler) フタナミトビヒメシャク



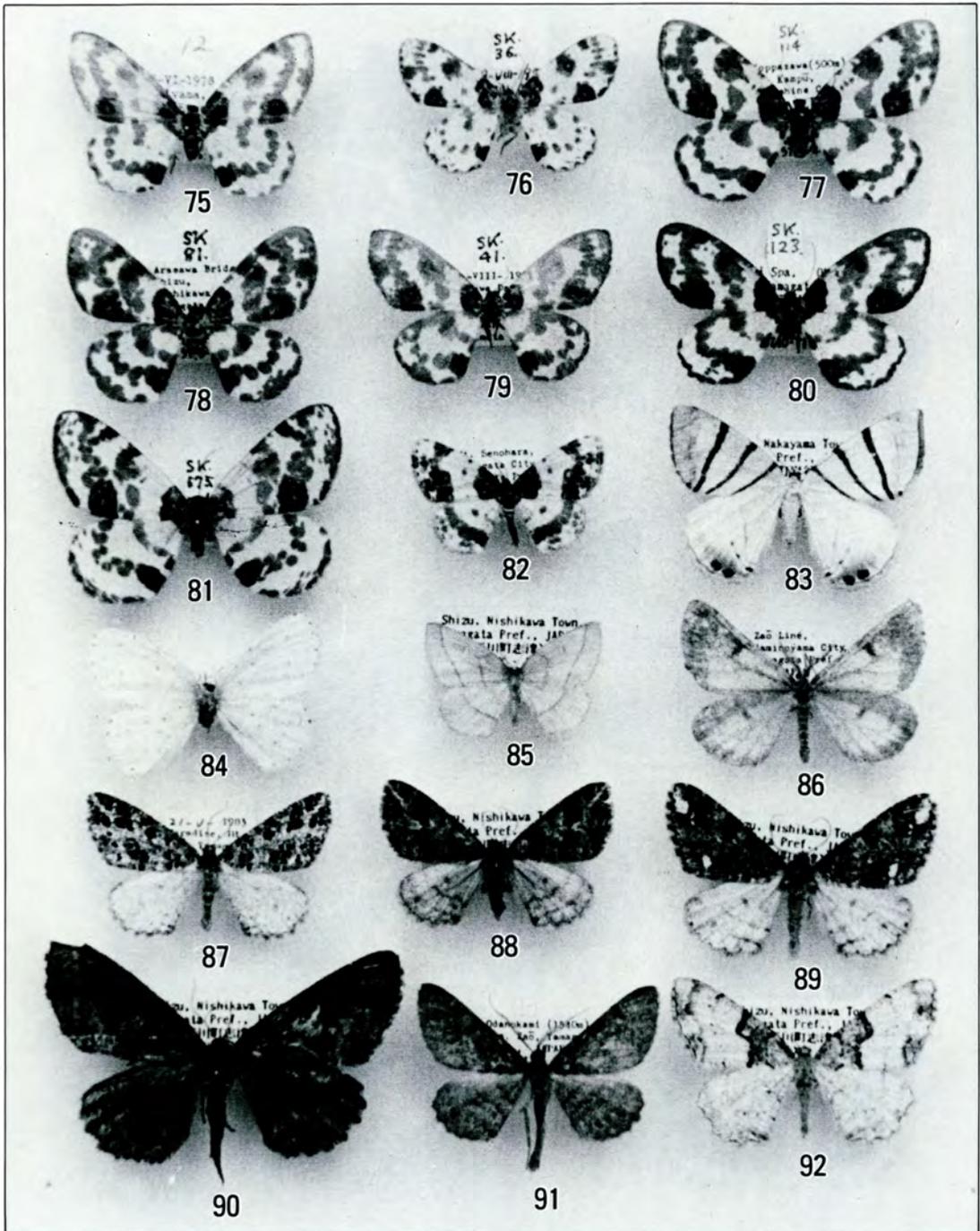
Figs. 16~36. 16. *Timandra griseata prouti* (Inoue) ベニスジヒメシヤク 17. *Timandra comptaria* Walker コベニスジヒメシヤク 18. *Timandra apicirosea* (Prout) フトベニスジヒメシヤク 19. *Timandra dichela* (Prout) ウスベニスジヒメシヤク 20. *Somatina indicataria morata* Prout ウンモンオオシロヒメシヤク 21. *Problepsis plagiata* (Butler) ウススジオオシロヒメシヤク 22. *Problepsis superans superans* (Butler) ヒトツメオオシロヒメシヤク 23. *Scopula pudicaria* (Motschulsky) クロスジシロヒメシヤク 24. *Idaea muricata minor* (Sterneck) ベニヒメシヤク 25. *Idaea foedata* (Butler) クロテントビヒメシヤク 26. *Apolocera perelegans perelegans* (Warren) ツマアカナミシヤク 27. *Trichopteryx hemana* (Butler) シタコバネナミシヤク 28. *Trichopteryx ustata* (Christoph) クロオビシロナミシヤク 29. *Esakipteryx volitans* (Butler) ウスベニスジナミシヤク 30. *Lobophora halterata ijimai* Inoue シロシタヒメナミシヤク 31. *Epilobophora obscuraria* (Leech) アトスジグロナミシヤク 32. *Otoplecta frigida* (Butler) クロフシロナミシヤク 33. *Naxidia maculata* (Butler) ゴマダラシロナミシヤク 34. *Carige scutimbata* Prout ホソバトガリナミシヤク 35. *Trichobaptia exsecuta exsecuta* (Felder & Rogenhofer) シロオビクロナミシヤク 36. *Trichodezia kindermanni leechi* Inoue シラフシロオビナミシヤク



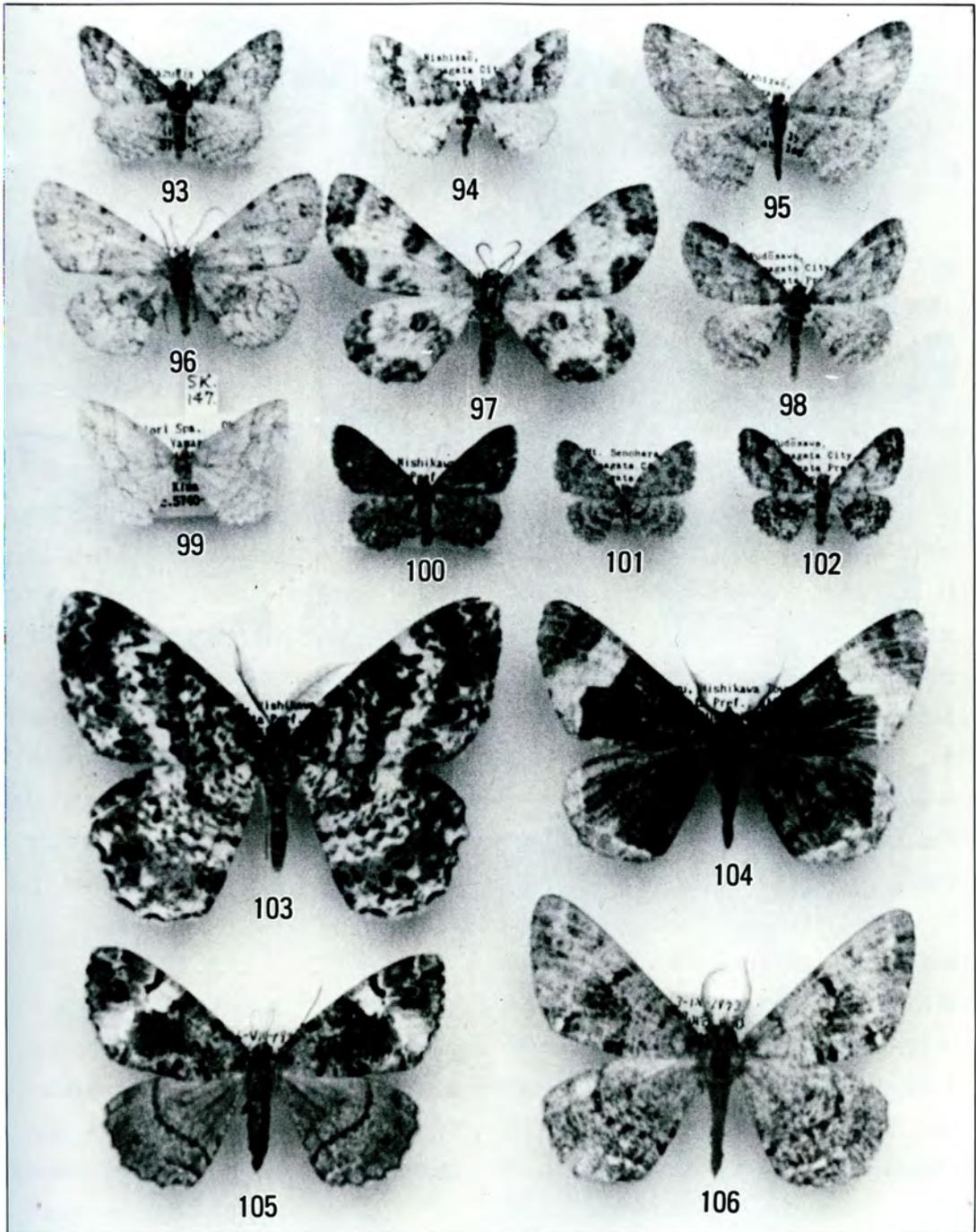
Figs. 37~54. 37. *Heterophleps fusca fusca* (Butler) ウスクモナミシヤク 38. *Heterophleps confusa confusa* (Wileman) コウスグモナミシヤク 39. *Brabriva artemidera artemidera* (Oberthür) キリバナホソナミシヤク 40. *Macrohastina azela azela* (Butler) フタオモドキナミシヤク 41. *Microcalcarifera obscura obscura* (Butler) フタモンクロナミシヤク 42. *Electrophaes corylata granulata* (Butler) キンオビナミシヤク 43. *Electrophaes recens* Inoue ヒメキンオビナミシヤク 44. *Epirrhoe supergressa supergressa* (Butler) フタシロスジナミシヤク 45. *Triphosa sericata sericata* (Butler) マエモンオオナミシヤク 46. *Rheumaptera latifasciaria* (Leech) オイワケヤエナミシヤク 47. *Rheumaptera hecate hecate* (Butler) サカハチクロナミシヤク 48. *Photoscotia atrostrigata* (Bremer) ネグロウスベニナミシヤク 49. *Photoscotia lucicolens* (Butler) オオネグロウスベニナミシヤク 50. *Calleanlype whiteleyi leechi* Inoue ツマキシロナミシヤク 51. *Eucosmabraxas placida propinqua* (Butler) キベリシロナミシヤク 52. *Eucosmabraxas evanescens evanescens* (Butler) マルモンシロナミシヤク 53. *Eulithis ledereri inurbana* (Prout) ウストビモンナミシヤク 54. *Eulithis convergenaata* (Bremer) ヨコジマナミシヤク



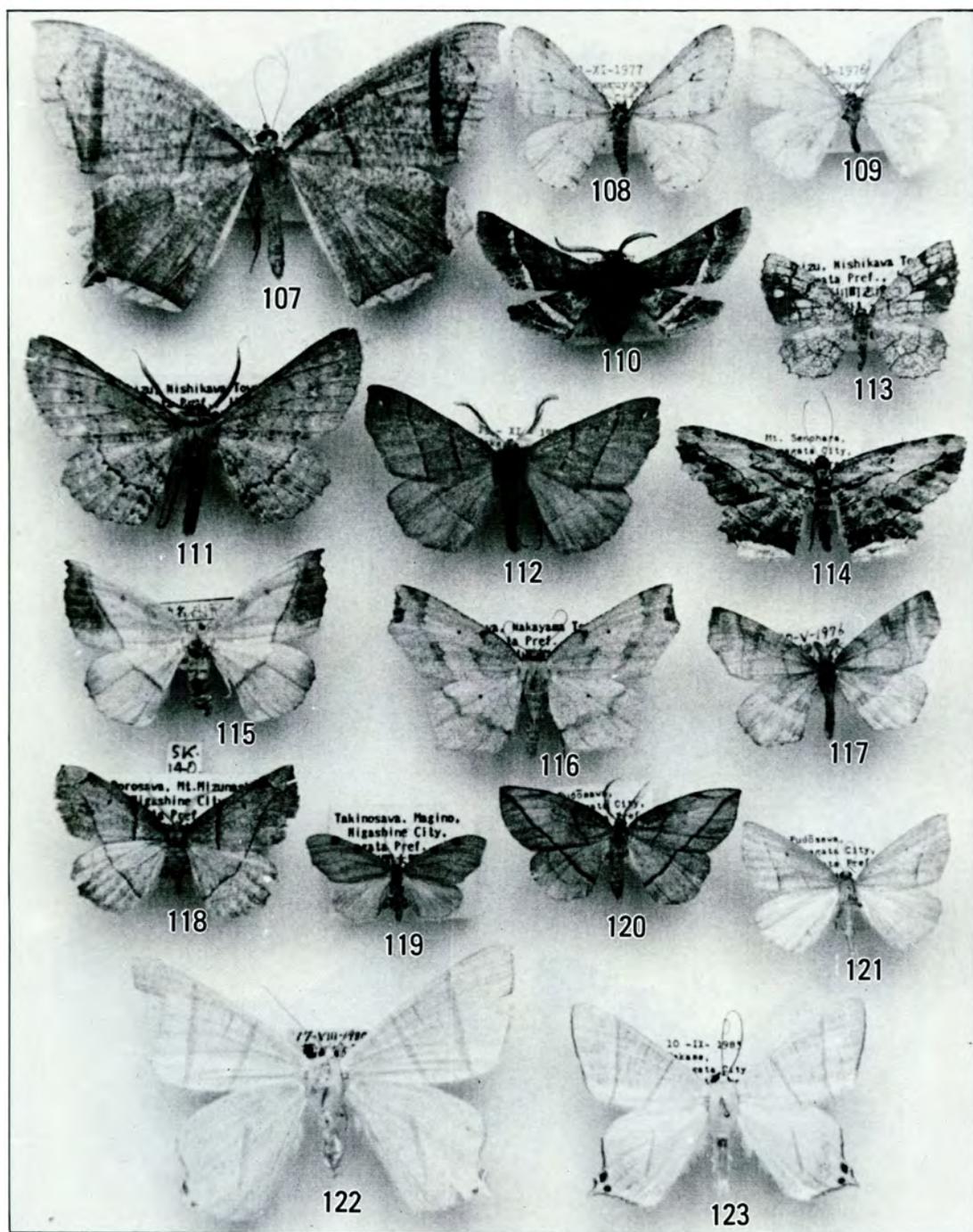
Figs. 55~74. 55. *Gandaritis fixseni* (Bremer) キマダラオオナミシヤク 56. *Gandaritis agnes agnes* (Butler) キガシラオオナミシヤク 57. *Eustroma aerosum* (Butler) ミヤマアミメナミシヤク 58. *Eustroma japonicum* Inoue キアミメナミシヤク 59. *Sibatania mactata* (Felder & Rogenhofer) ヒロードナミシヤク 60. *Plemyria rubiginata japonica* Inoue トビモンシロナミシヤク 61. *Dysstroma cinereata japonica* Heydemann フタテンナカジロナミシヤク 62. *Operophtera brumata* (Linnaeus) ナミスジフユナミシヤク 63. *Operophtera rectipostmediana* Inoue イチモジフユナミシヤク 64. *Venusia cambrica* Curtis ミヤマナミシヤク 65. *Venusia semistrigata expressa* Inoue マエモンハイイロナミシヤク 66. *Hydrelia flammeolaria* (Hufnagel) キヒメナミシヤク 67. *Pseudostegania defectata* (Christoph) キイロナミシヤク 68. *Eupithecia gigantea* Staudinger フトオビヒメナミシヤク 69. *Eupithecia jinboi* Inoue ジンボカバナミシヤク 70. *Eupithecia tripunctaria* Herrich-Schaffer シロテンカバナミシヤク 71. *Chloroclystis subcinctata* Prout ウラモンアオナミシヤク 72. *Abraxas grossulariata conspurata* Butler スグリシロエダシヤク 73, 74. *Abraxas flavisinuata* Warren スギタニシロエダシヤク



Figs. 75~92. 75. *Abraxas sylvata microtate* Wehrli キタマダラエダシャク 76, 77. *Abraxas nipponibia* Wehrli ヒメマダラエダシャク 78. *Abraxas fulvobasalis* Staudinger クロマダラエダシャク 79. *Abraxas satoi* Inoue ヘリグロマダラエダシャク 80. *Abraxas latifasciata* Warren ヒトスジマダラエダシャク 81. *Abraxas miranda miranda* Butler ユウマダラエダシャク 82. *Ligdia japonaria* Leech シロスジヒメエダシャク 83. *Myrteta angelica* Butler クロミスジシロエダシャク 84. *Myrteta punctata* (Warren) ホシスジシロエダシャク 85. *Pseudepione magnaria* (Wileman) ニッコウキエダシャク 86. *Eupalus vestalis vestalis* Staudinger ヘリグロエダシャク 87. *Arichanna tetrica* (Butler) キジマエダシャク 88. *Arichanna pryeraria* Leech プライヤエダシャク 89. *Arichanna albomaculata* Leech シロホシエダシャク 90. *Jankowskia pseudathleta* Sato キタウンモンエダシャク 91. *Alcis extenctaria moesta* (Butler) イツスジエダシャク 92. *Ramobia mediodivisa* Inoue ナカジロネグロエダシャク



Figs. 93~106. 93. *Pseuderannis lomozemias* (Prout) ウスバキエダシャク 94. *Pseuderannis amplipennis* (Inoue) ウスバシロエダシャク 95. *Hypomecis akiba* (Inoue) アキバエダシャク 96. *Ophthalmitis irrorataria* (Bremer & Grey) コヨツメエダシャク 97. *Ophthalmitis albosignaria albosignaria* (Bremer & Grey) ヨツメエダシャク 98. *Paradarisa consonaria* (Hübner) シナトビスジエダシャク 99. *Ectropis obliqua* (Prout) ウスジロエダシャク 100. *Abaciscus albipunctata* (Inoue) シロテントビスジエダシャク 101. *Aethalura nanaria* (Staudinger) チビトビスジエダシャク 102. *Diplurodes parvularia parvularia* (Leech) ハラゲチビエダシャク 103. *Elphos insueta* Butler チヤマダラエダシャク 104. *Xandrames latiferaria latiferaria* (Walker) シロスジオオエダシャク 105. *Duliophyle agitata agitata* (Butler) ヒロオビエダシャク 106. *Duliophyle majuscularia* (Leech) オオトビエダシャク



Figs. 107~123. 107. *Thinopteryx crocoptera striolata* Butler キマダラツバメエダシャク 108. *Larerrannis orthogrammaria* (Wehrli)ウスオビフユエダシャク 109. *Pachyerrannis obliquaria* (Motschulsky) クロスジフユエダシャク 110. *Apochima juglansiarica* (Graeser) オカモトトゲエダシャク 111. *Medasina nikkonis* (Butler) ニッコウエダシャク 112. *Colotois pennaria ussuriensis* Bang-Haas カバエダシャク 113. *Exangerona prattiarica* (Leech) オイワケキエダシャク 114. *Menophra harutai* (Inoue) ハルタウスクモエダシャク 115. *Auaxa cesadaria sulphurea* (Butler) キエダシャク 116. *Pareclipsis gracilis* (Butler) ツマキリウスキエダシャク 117. *Selenia adustaria* Leech ウスムラサキエダシャク 118. *Endropiodes circumflexus* Inoue ツツツツマキリエダシャク 119. *Sabaria paupera* (Butler) フタマエホシエダシャク 120. *Parepione grata* (Butler) ウラモンアカエダシャク 121. *Petrophora chlorosata* (Scopoli) シダエダシャク 122. *Ovrapteryx persica* Ménétries フトスジツバメエダシャク 123. *Ovrapteryx nivea* Butler ウスキツバメエダシャク

絵馬にみるなりわいと祭り

学芸員 野口 一 雄

1. はじめに

近年、庶民生活を物語る資料として絵馬が注目を浴びている。絵馬は、奉納者が神仏への願いや感謝の意志を伝えるものだが、そこに描かれた様々な図柄は、当時の風俗・習慣、生産の様子などを伝えてくれる。

本館は昭和59年度に県内の絵馬所在調査を実施した。調査は1年間だけのものであり、県内の社寺に奉納された夥しい絵馬の一部を収録したものにすぎないが、それぞれ特色ある絵馬が多くみられた。この成果を基に、昭和61年度、人々の生活の様子を具体的に描いた生産生業図や祭礼・年中行事等の絵馬を、特別展「絵馬にみるなりわいと祭り」で展示した。

小論は、特別展に展示した絵馬を中心に、絵馬を通して当時の人々のくらしをみつめたものである。

2. 人々のくらしと仕事

絵馬の奉納は個人の場合、家族の場合、地域の人々の場合、あるいは特定の集団の場合など様々である。また納める目的も多様である。詣りの図、学芸の図、動物の図など、それぞれに奉納者の願いが込められている。

生産生業の絵馬は、当時の、その地域の人々の仕事の様子を伝えてくれる。平野部の農村には米作りの場面を描いた絵馬が多く、養蚕地帯には養蚕や機織の絵馬が、馬産地には馬を描いた絵馬が多い。一方職人達は、技の上達を願い、家業の繁盛を祈って諸々の職業の絵馬を奉納している。

この項では、生産生業図として(1)農耕図、(2)山樵図、(3)採鉱図、(4)漁撈図、(5)養蚕図、(6)畜産図、(7)機織図、(8)諸職図を取り上げた。

(1) 農耕図絵馬

農耕図絵馬のほとんどは水田農耕図であり、畑作農耕図は一面しか確認していない。内容別に古い順に示すと次の様になる。〈別表1〉

四季農耕図は二面確認される。万延元年(1860)寒河江市・毘沙門堂奉納の〈2〉「四季農耕図」は、春の種ひたしからはじまり、種の日干し、鋤での田耕し、施肥、牛馬にマンガでの代掻、苗籠での苗運び、田植、野良での食事の準備、田の草取り、案山子や鳴子での鳥追い、秋の鎌での稲刈り、ヤセウマや馬の背に乗せての稲運び、庭先でのホネオ積み、千歯での稲抜き、箕での掬い、杵打棒での脱穀、篩にかけ唐箕での調整、さらに千石通での選別、米俵に詰めての蔵入れなど。腰切れ白や横杵、升などもみえる。米作りの工程は実に詳細に亘る。幕末、村山地方の米作りはこの様な工程を踏んだのだろう。画中には84人の人物が描かれている。絵馬が奉納された万延元年の前年安政6年(1859)は、村山地方は未曾有の大風雨、大風害、洪水等に襲われた様である。今年こそは豊作(注2)を、との奉納者の願いがあったのだろう。

河北町・稻荷神社奉納の〈15〉「四季農耕図」は、先述のものよりは簡潔な描き方になっている。しかし、毘沙門堂の絵馬にはみられない土摺白〈ドズルス〉が描かれており、時代の推移を感じさせてくれる。斗升と思われるものには弦がついている。この図で面白いのは「フネ」の存在である。

＜別表1＞ 農耕図絵馬一覧

－米作り－

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ＜1＞ 農耕図（春先） | 安政3年（1856） | 朝日町太郎・大日堂 |
| ＜2＞ 四季農耕図 | 万延元年（1860） | 寒河江市本橋・毘沙門堂 |
| ＜3＞ 農耕図（春先） | 元治2年（1865） | 天童市道満・春日神社 |
| ＜4＞ 稲刈図 | 明治15年（1882） | 余目町余目・八幡神社 |
| ＜5＞ 田植図 | 明治30年（1897） | 〃 |
| ＜6＞ 〃 | 明治30年（?） | 余目町荷瀬・皇大神社 |
| ＜7＞ 馬耕図 | 明治30年（1897） | 酒田市板戸・住吉神社 |
| ＜8＞ 農具類 | 〃 | 酒田市日吉町・日枝神社 |
| ＜9＞ 農具図 | 明治34年（1901） | 鶴岡市田川・八幡神社 |
| ＜10＞ 農耕図 | 明治35年（1902） | 酒田市浜田・皇大神社 |
| ＜11＞ 馬耕図 | 明治36年（1903） | 朝日町太郎・大日堂 |
| ＜12＞ 〃 | 明治39年（1906） | 酒田市矢流川・八幡神社 |
| ＜13＞ 〃 | 〃 | 酒田市大宮・白鳥神社 |
| ＜14＞ 〃 | 明治42年（1909） | 朝日村熊出・熊岡神社 |
| ＜15＞ 四季農耕図 | 明治末年（?） | 河北町畑中・稻荷神社 |
| ＜16＞ 〃 | 昭和13年（1938） | 中山町小塩・稻荷神社 |

－畑作－

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| ＜1＞ 薄荷栽培製法図 | 明治23年（1890） | 山形市錦町・神明神社 |
|-------------|-------------|------------|

－農政－

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| ＜1＞ 地租改正測量図 | 明治8年（1875） | 余目町福島・皇大神社 |
| ＜2＞ 〃 | 明治9年（1876） | 立川町桑田・皇大神社 |
| ＜3＞ 〃 | 明治10年（1877） | 三川町青山・青山神社 |
| ＜4＞ 本郷一村図 | 明治12年（1879） | 朝日村本郷・河内神社 |
| ＜5＞ 地租改正測量図 | 明治13年（1880） | 酒田市吉田・八幡神社 |



四季農耕図 明治末年(?) 河北町畑中・稻荷神社

フネの後にマンガを付け、中には刈り取った稲を入れ二人の男が運んでいる。当地方の田は「ヒドロ」と呼ばれた湿田だったらしい。フネは良く利用されたのだろう。それにしてもこの様なフネは他でも使用されたのだろうか。なお稲刈後に田耕しを行っているが、それはヒドロ田とも関係がありそうだ。この絵馬の奉納年は記されていないが、「明治7年 山形県管轄第四大区小六区戸籍 泉村」に、この絵馬奉納の世話人堀米嘉平治が、明治6年で10歳と記されている。彼が50歳の頃と考えると、奉納は明治末年頃と考えられよう。

農耕図の絵馬で最も古いのは安政3年（1856）朝日町・大日堂奉納の＜1＞「農耕図」である。春先の米作りの様子で、図柄には特に注目される部分もないが、画面中央の大日堂は現に存在し、朝日川の上手、堂前を流れる上堰と下堰は今もみられる。この地区は西村山地方の山間の村であり、平野部でもない所に米作りの絵馬が納められたのはどの様な願いからだったのだろう。付近に「文政田」の字名なども残っており、開田から数十年を経、ようやく安定した米の収穫が計られるようになったことを感謝したものだったのだろうか。

明治24年（1891）、飽海郡では郡会の決議で福岡県農事試験場勤務の伊佐治八郎を稲作改良実業教師として招聘した。彼は稲作改良の一つとして、乾田馬耕にも着手した。明治30年代から40年代にかけて、酒田市を中心とする社寺に納められた



四季農耕図 万延元年(1860) 寒河江市・毘沙門堂

「馬耕図」は、いずれも犁を馬に曳かせており、その村の乾田馬耕化を記念して奉納したものであったと考えられる。

明治39年(1906)酒田市・白鳥神社に奉納された<13>「馬耕図」には「馬耕が始まり15年を経た記念に納めた」旨が記されている。また「馬耕図」の絵馬からは「小鞍」や「犁」の形態を知ることができる。河野通明氏の「小鞍の民具例」を参考にすれば、形態は、明治36年(1903)朝日町・大日堂^(註4)、明治39年(1906)酒田市・八幡神社奉納の<11> <12>「馬耕図」に描かれたものは、「千木・山型双橋鞍」であり、明治30年(1897)酒田市・住吉神社、明治39年(1906)酒田市・白鳥神社、明治42年(1909)朝日村・熊岡神社に奉納されたそれぞれの<7> <13> <14>「馬耕図」には、「千木単橋鞍」が描かれている。また、毘沙門堂奉納の<2>「四季農耕図」と明治35年(1902)酒田市・皇大神社奉納の<10>「農耕図」にみられる牛馬の背にも小鞍が描かれ、それらは「山型双橋鞍」である。氏は「山型単橋鞍」が最も古いとしながらも、「すべての型がごく近年まで使われていた」と述べており、絵馬をみる限り氏の説を裏付けている。なお小鞍の地域的な特徴は、絵馬からは明確にされなかった。



馬耕図 明治39年(1906)酒田市・白鳥神社

明治30年(1897)酒田市・日枝神社に奉納された<8>「農具類」は、実物の持立犁、鋏、鎌が貼

り付けられ、明治34年(1901)鶴岡市・八幡神社奉納の<9>「農具図」には、持立犁、マンガ、鎌、平鋏、三本鋏、雁爪が描かれている。これらの絵馬を通して当時の農具を知ることができる。

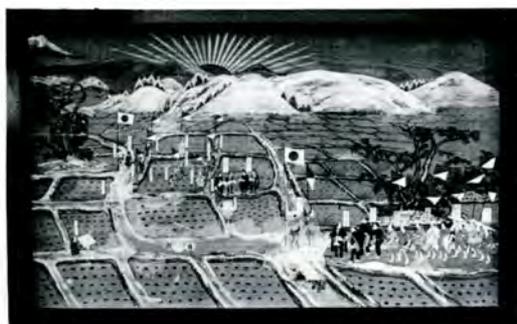
畑作農業の様子を伝えてくれる絵馬は、明治23年(1890)山形市・神明神社に奉納された「薄荷栽培製法図」だけである。図中、「産地、地形地質、現今反別及ヒ年度、薄荷畑仕立方法、培養及刈取手続、施肥料、製造法、地位及地価、収穫ノ高、耕作反別損益」等の解説がなされている。製造法については、「竈ニ大桶ヲ載セ、乾燥シタル薄荷ヲ其桶中ニ入レ、而シテ該上ニ鍋ヲ居ヘ水ヲ入レ、其水ノ暖カナルニ從ヒ薄荷油水ヲ得、而シテ之ヲ分析シ真ノ薄荷油ヲ得、是所謂焼酎ヲ製スルニ髣髴タリ」と記している。この薄荷油水を4℃に冷却すれば薄荷脳ができる。薄荷は、県内では明治10年代から生産高が急速に増大した。奉納者の一人、工藤久左衛門は久佐野屋と称し、吉野屋などと共に地元山形のハッカ商だった。薄荷脳は西川町大井沢で作られたハッカ容器に入れられ、薄荷油と共に横浜に送られたのである。



薄荷栽培製法図 明治23年(1890)山形市・神明神社

農政に関わる「地租改正測量図」は庄内地方に4面伝わる。<別表1-農政->の中、明治12年(1879)朝日村・河内神社奉納の<3>「本郷一村図」は「明治9年地租改正之際拾間壱分ニ縮ス図」で、地租改正に関わって作られた村絵図だったことが分かる。地租改正は明治6年(1873)の法制定後、同9年終了を目標に実施された。これらの絵馬はいずれも地租改正終了後に納められたもの

だろう。間竿や間縄を使っての平板測量の様子が窺える。帽子にマントを付けた洋服姿の役人と藍染の襦袢に股引姿の農民達、その風俗が対照的に描かれている。間竿と上に付けられた赤白染め分けの旗は、後の測量ポールの前身だったものと思われる。日本有数の稲作地帯庄内地方を特色付ける絵馬と云えよう。



地租改正測量図 明治13年(1880) 酒田市・八幡神社

農耕図の中、明治15年(1882)余目町・八幡神社に奉納された<4>「稲刈図」は、明治天皇が北海道からの帰路山形県を行幸され、庄内地方巡行の折、村民の稲刈を叡覧されている様子を描いたものである。絵馬には、「明治十四年仲秋 聖皇巡狩干北海道 而還来轉路於羽州 蓋於此邦未嘗聞為聖尊之行啓也 而九月二十七日休憩於本村佐藤善治 衆庶欣々拜觀如堵 於是齋藤佐藤之二氏周旋 而村民刈稻シ業備叡覧 賜金若干 何榮如之 今爰模興図此為遺愛之甘様」と記してある。また先の<7>「馬耕図」は、明治29年(1896)県の農会規則公布後、新堀村(現酒田市)に農会が



稲刈図 明治15年(1882) 余目町・八幡神社

設置されたことを記念して納められたものである。

(2) 山樵図絵馬

樵、杣、木挽、木地屋、炭焼きなど、県内には山と関わって働く人々は大勢いたが、それらの様子を描いた絵馬は少なく、わずかに西川町岩根沢・要害神社に「筏流し図」がみられる程度である。図は海味(現西川町)付近の、寒河江川の筏流しを描いている。筏を2床や3床につなぎ、筏師達が筏の前後で櫓を巧みに操っている。筏は山からマフジをとり、そのつるを少し潰して編んだと云う。川岸でカギを振っている者もみえる。筏の上に旅人らしき人物が、瑞雲に乗って現われた御幣に手を合わせている。要害神社は江戸期、湯殿山七口の一つ日月寺の大日堂だった所である。湯殿山の本地仏は大日如来であり、この御幣は湯殿山大権現なのだろう。



筏流し図 江戸期(?) 西川町・要害神社

(3) 採鉱図絵馬

県内には古くから栄えた鉱山が多い。しかし採鉱図としては、明治末年頃西川町吉川・月山神社に奉納された「砂金採り図」を数えるだけである。当地区は寒河江川に近く、寒河江川や烏川などは大正期までは採金採りが行われたと云い、図は寒河江川の採金採りの様子を描いたものだろうか。ただ、図中「としべつの川に流るゝ砂金をハあめのちからで手とる嬉しき」の歌から、北海道帯広市付近を流れる利別川での砂金採りの様子とも考えられる。かって村山地方から北海道に砂金採り

に渡った人々が大勢いたと云い、^(注5)カッチャ・カナイタ・メッケなどを使っての砂金採りは、山形の方式を真似たものとも云われる。絵馬は北海道に渡った当地方出身の人が納めたものだったのだろうか。なお、庄内地方立谷沢川での砂金採りは有名で、天保版「庄内産物集」に大関位で紹介されている。

(4) 漁撈図絵馬

山形県は、庄内地方においては酒田が西廻航路の港として栄え、最上川が貫流する内陸地方は清水や大石田、左沢などが河岸として栄えた。船衆達が納めた「船絵馬」は、庄内飽海地方を中心に多くみられ、幕末から明治期最上川の主要な川船となった小鵜飼船の絵馬も残っている。しかし漁撈図はない。酒田市本町・秋葉神社にみられる押絵の「投網図」は昭和3年(1928)御大典記念に奉納されたものだが、最上川における投網漁を伝えてくれる。

(5) 養蚕図絵馬

養蚕は江戸時代中期、置賜地方長井盆地の北部から白鷹丘陵にかけて行われるようになったと云う。白鷹町の西部は「蚕桑村」の名が示す通り養蚕の盛んな所だった。その後、村山地方、最上地方へと広がり庄内地方に及んだ。繭は農家にとって重要な換金商品であり、昭和のはじめまで県内で広く飼われていった。県内には多くの養蚕図が残っており、地域的には西村山地方や置賜地方に多くみられる。図柄としては、桑切り包丁で桑の葉を刻み蚕座の蚕に与え、蚕座を蚕架に並べている場面などが多い。明治27年(1894)寒河江市中郷・八幡神社に奉納された「養蚕図」は、給桑の他に釜煮と座繰での糸取り、糸枠への巻き取り、カセ掛けなどの整型以前の工程が描かれている。糸取りには桃割姿の少女までみられ、手工業的な雰囲気も感じられる。当地方は明治11年(1878)、安孫子兼治郎が原野敷町歩を開墾し桑・漆・桐等

を植付けたと云い、以後、養蚕も急速に伸びていったのだろう。明治11年朝日町・春日神社に奉納された「糸取り図」は、釜煮の繭から座繰で糸を取る場面である。なお、繭で字を表した「文字額」や、「蛇図」や「猫図」など養蚕安全に関わる絵馬も多い。



養蚕図 慶応3年(1867)朝日町・豊龍神社

(6) 畜産図絵馬

東北地方はかつて馬の産地として栄え、青森県南部から岩手県北部にまたがる南部地方の南部駒、福島県三春地方の三春駒、山形県最上地方の小国駒などは有名だった。

小国駒は古くから向町盆地に広く飼われていたと云う。最上町富沢・東善院(馬頭観音堂)は馬の守護神として信仰が篤く、お堂の中には夥しい数の馬を描いた絵馬が納められている。明治22年(1889)東善院に奉納された「九頭馬と馬子図」などに描かれた小国駒は、足がすらりと伸び首すじも立派な競走馬の様な姿をしている。これらは農耕馬ではなく軍馬なのだろう。最上地方も西洋の種馬の導入が図られ、軍馬需要の増大と共に図の様な馬が盛んに飼育されるようになったものと思われる。

(7) 機織図絵馬

養蚕農家や青苧を栽培する農家には地機や高機があり、自家用の着物を織ったり布にして売ることもあった。機織図は高機などでの機織の場面を描いたものが多いが、画面には師匠と思われる人

物がみられる。「針子図」などと共に女子の手習図の一つと考えられる。明治5年(1872)村山市楯岡・小松沢観音堂に奉納された「機織工程図」には、撚糸を経糸と緯糸へと調整、機織、湖付けへと、糸取り後の工程が記されており、当時の機織の順序を示すものとして興味深い。



機織工程図 明治5年(1872) 村山市・清浄院(小松沢観音)

(8) 諸職図絵馬

諸職図の種類は豊富である。

「大工仕事図」は社寺の建築に関わった者が、その完成を感謝して納めたものだろうか。幾面かの絵馬が確認される。慶応2年(1866)12月15日、大江町本郷・日光社に奉納された「大工仕事図」は、練梁と思われる人物が墨壺から墨糸を引き木材を拵えている。傍らには、鋸・手斧・木槌・曲尺などがみられる。また、明治25年(1892)3月17日、村山市楯岡・小松沢観音堂に奉納された絵馬には、曲尺を持った棟梁を前に、それぞれ手斧・鉋・鋸・のみ・鉞・墨壺を持った職人達が木材を加工している場面が描かれている。

元治2年(1865)3月19日、大江町三郷・巖島神社に奉納された「社殿屋根葺図」は、当神社と思われる屋根の上にてやはさみを持った屋根葺職人が描かれている。足場なども組まれており、他にあまり例を見ないめずらしいものである。

宝暦10年(1760)6月奉納になる、鶴岡市家中



大工図 明治25年(1892) 村山市・清浄院(小松沢観音)

新町・致道博物館に収蔵されている「進水式図」は、丸太をころに使ってベザイ船を船衆達が進水させようとしている場面である。船は完成しているが、絵馬を造船図の一つと考えた。この絵馬がどこに納められたものなのかは不明である。石井謙治氏は「船舶画としての船絵馬とその流派」の中で、船絵馬の成立を5期に分け分析している^(注7)。それによれば、「進水式図」は第一期の時代に入る。船は帆を張っていないが、船首の水押に付けられたばら下り、欄干状の垣立、帆柱をくりつける筒挟み、舳と艫の車立、船梁などが明瞭に描かれている。石井氏が述べられている、新潟県糸魚川から寺泊までの狭い範囲にしか分布していないとされるベザイ船とも似ており、図はこの地方で描かれたものとも考えられよう^(注8)。



進水式図 鶴岡市・致道博物館

明治19年(1886)旧3月15日、中山町金沢・白山神社に奉納された「菓子屋図」は風俗画として興味深い。従来の菓子税は明治18年の菓子税則の制定により、営業税と製造税が作られ前者はさらに製造営業・卸売営業・小売営業税に分けられた。絵馬の、菓子製造処清松堂の暖簾が掛けられた入

口の柱にみられる菓子小売営業の看板は、前年の法律公布により与えられた営業看板だろう。店の奥で作っている菓子は、店員が袋に詰めている烏羽玉の様だ。店内の貼紙にもその名がみられる。一方店前には札所巡りの行人が通り人力車もみえる。羽織袴に山高帽子を被り革靴を履いた人物、ザンギリ頭の車夫や書生達の姿などに文明開化の地方への普及が感じられる。



菓子屋図 明治9年(1876) 中山町・白山神社

明治21年(1888)3月17日、村山市楯岡・小松沢観音堂に奉納された「車夫図」は、地元楯岡(現村山市)の車屋水野辰助が一木社(図の一新社は誤りか)を開業した記念に納めたものと思われる。人力車は、明治2年(1869)東京府下に開業したのが始まりと云い、先の「菓子屋図」絵馬にも描かれている。人力車の地方への普及は以外と早かったのものと思われる。

明治26年(1893)6月1日、村山市楯岡・小松沢観音堂に奉納された「酒桶作り図」は、桶作り職人が鉋やセンで桶底を削り掛矢でタガを締め、六尺と呼ばれる酒桶を造っている様子が描かれている。酒桶は22~23石も入る大きなもので、材は一般的に杉が用いられた。

その他、「社殿曳き図」や「普譜図」の絵馬も幾面かみられ、「仕立屋図」絵馬なども残っている。

3. 各地の祭りと行事

鎮守の森の賑わいや、みこし行列などを描いた祭りの絵馬には、村人の生き生きとした姿がみられる。御輿や山車が繰り出したり獅子が舞い踊る様子など、賑やかだった当時の祭りを伝えている。人力車や洋傘をさした参詣者などに、ありし日の風俗を偲ぶことができる。

一方、地域の年中行事を描いた絵馬は他に例をみないものも多く、当時の民俗行事を伝える資料として貴重である。また祭礼時の、神楽舞・獅子舞・獅子踊・願人踊・田植踊などの奉納の場面を描いた絵馬は、民俗芸能の貴重な資料と云える。

この項では、祭礼図と行事・芸能図を取り上げた。

(1) 祭礼図絵馬

祭礼図で最も古いと思われるものは、明治3年(1870)正月、鶴岡市神明町・鶴岡天満宮に奉納された「祭礼行列図」である。5月25日に行われる、通称化物まつりで有名な天神祭を描いたものである。屋台の中の太鼓や三味線・笛・鼓などの囃子に合わせ、仮装して人々が踊っている。現在の祭りとはかなり様相を異にし、天神祭の変化も感じられる。

祭礼図の多くは神輿の渡御を描いたものだが、行列の順序など実際の様子を忠実に表わしており、資料的価値も高い。明治26年(1893)酒田市日吉町・日枝神社に納められた「日枝神社大祭図」は、県内の絵馬としては最大級のものである。獵師町・傳馬町などの町名もみえ、練り歩く人々の中に、町内毎に出したのだらう何台もの山車も描かれている。大正6年(1917)酒田市大宮・白鳥神社に奉納された「祭礼行列図」は女人連中の行列であり、地藏講の木札がみられることから、女子の地藏講中が納めたものと思われる。明治39年(1906)旧10月1日、天童市矢野目・月山神社に奉納された「社会行列図」は、裏面に、「維時明治三十有

九年旧八月八日、当村社祭典ニ際シ我消防手、凱旋祝賀旁豊年祝トシテ花角力及社会行列ヲ執行ス、而シ曩^さキニ三十七八年日露戦争ニ於テ我軍ハ大捷ヲ得テ凱旋スルニ至ル所以ノモノハ実ニ神威ノ保護スルニ因ラズンバアラズ、是ニ於テ歡喜ノ意ヲ表センガ為メ、我消防手三拾名外有志者拾余名、各社会ノ風俗ヲ装ヒ以テ村社ニ一同参詣ス」と奉納の理由を記し、合わせて「額代価拾円也」と製作にかかった費用まで記されている。「社会行列」と云う表現も面白く、様々な職業人が描かれ風俗史的にも興味深い資料と云えよう。



社会行列図 明治39年(1906) 天童市・月山神社

その他「奴振り行列図」など、祭礼図の絵馬は庄内地方を中心とし、大型のものが多い。

(2) 行事・芸能図絵馬

元禄16年(1703)5月、鶴岡市日枝・日枝神社に奉納された「競馬図」は、行事・芸能図としては県内最古のものである。赤毛と黒毛の馬を馳せた競馬を公家や武士、庶民達が見物している。競馬の歴史はかなり古く、宮廷では5月5日の行事



競馬図 元禄16年(1703) 鶴岡市・日枝神社

として武徳殿の庭で行っていたと云う。かつて日枝神社でも行われたものだったのであろうか。

文久3年(1863)3月16日、遊佐町遊佐町・皇大神社に奉納された「道祖神祭図」は二面で対をなしている。一面は笛の囃子に合わせ、女性2人がそれぞれ男根様の道祖神と神楽鈴を持って踊っている。もう一面は三味線に合わせ、2人の女性が舞っている。図柄からすれば「嫁叩」と称する行事とも思われる。酒田方面では近年まで嫁叩の行事があったと云い、絵馬は道祖神祭りと嫁叩の行事とが合わさったものかも知れない。



道祖神祭図 文久3年(1863) 遊佐町・皇大神社

明治20年(1887)2月、酒田市浜田・日枝神社に奉納された「松明祭図」は当地方で「マツアカシ」とか「マツ」と呼ばれる行事である。上の日枝神社(浜田)と下の日枝神社(日吉町)でそれぞれ正月10日、16日に、つつが虫を焼きその年の作柄を占ったのである。絵馬は、樹型と呼ばれる竹棹を持った里方(農民)と網型を持った浜方(漁民)3人ずつの勢子達が神社に集まった後、松勧進を出し、各家々を掛け巡りながら、蒿木を円錐状に作ったつつが虫(里方と浜方の2つ)の置いてある松の山へ赴く所を簡略に描いている。行事は、その後つつが虫に火を付け、里方・浜方のつつが虫の早く焼け落ちたのを見て、豊作・豊漁を占ったのである。行事そのものはかなり変質して来ているが現在も行われている。



松明祭図 明治20年(1887) 酒田市・日枝神社

明治22年(1889)8月、遊佐町吹浦・鳥海山大物忌神社に奉納された「火合わせ神事図」は、神社境内にある月山神社の例祭を描いたものである。祭りは旧6月14日に行われた宵祭で「御浜出の神事」とも云われた。まず神輿の浜辺への渡御があり、四方に注連縄を張り巡して祭場が作られる。神官は飛島に向かって、篝火を焚き祝詞をあげる。飛島に向うのは、島は鳥海山が分裂して出来たものであり、鳥海山と一体のものだからである。島でも同日時に風神を渡御し篝火を焚いた。また同じ篝火は鳥海山八合目でも焚かれる。里方・浜方の人々にこの篝火がみえるか否かで豊作、豊漁を占ったと云う。図中、鳥海山中でも焚かれた篝火もみえる。神事は現在も続いている。

火合わせ神事図 明治22年(1889)
遊佐町・鳥海山大物忌神社

明治13年(1880)2月、白鷹町下山・稲荷神社に奉納された「初午行事図」は、養蚕の盛んだった当地方の様子を物語ってくれる。初午は2月最初の午の日を云い、稲荷信仰と深く結び付いている。初午の行事は様々だが、養蚕地帯では蚕神を祀り養蚕安全を祈ったと云う。図は講中と思われる女人連中が歌舞飲食をやっている。その傍らに

は蚕座に鳥の羽根での掃立もみられる。昔は、当地方では良く見られた行事だったのである。

寒河江市島・御嶽小森両所神社には大正8年(1919)旧6月奉納の「雨乞成就御礼図」がみられる。竜神に神官が感謝の祝詞をあげ、蓑笠を付けた男性達がほら貝を吹き太鼓を打っている。酒を飲みかわしている人達もいる。笹竹を持つ者もいるが、当地区でも、雨乞祈願に笹竹を水に浸し練り歩いたと云い、笹竹は雨乞時のものであろうか。この年は、夏期高温多照で3月から7月までは雨が少なかった。水を得た農民達の喜びは大きく、この様な絵馬を奉納させることになったのだらう。

雨乞成就御礼図 大正8年(1919)
寒河江市・御嶽小森両所神社

獅子踊は、猪や鹿・かもしか(アオジシ)などの頭を被り一人立ちで舞い踊るものである。県内には現在九面の「獅子踊図」が確認される。この内、余目町は5面と多く、絵馬の奉納された地区には現在保存会が作られている。近年の奉納になる藤島町の絵馬を合わせ「獅子踊図」は庄内地方に多い。これらの内最も古いのは、天明7年(1787)9月19日、米沢市万世町・梓神社奉納になるものである。「梓山獅子踊」は現在も奉納されており、絵馬はその歴史の古さを物語る資料でもある。重要有形民俗文化財に指定されている中山町金沢・十八夜観音堂の「岩谷十八夜観音庶民信仰資料」の中に、享和3年(1803)7月18日と文政元年(1818)7月奉納になる「獅子踊図」がみられる。享和3年の絵馬は、獅子の頭を被り、顔から胸にかけて幕を垂れ、袴に草履を付け腹に羯鼓を下げている。傍らに南蛮頭巾を被った異国人が横笛を

吹いている。この獅子と異国人の組み合わせが異様である。謎を秘めた絵馬と云える。



獅子踊図 享和3年(1803) 中山町・岩谷十八夜観音堂

天保5年(1834)6月15日、長井市川原沢・巨四王神社に奉納された「角兵衛獅子図」は、巨四王信仰と共当地方と越後との関わりの深かったことを物語る。角兵衛獅子は新潟県内のみみられたもので越後獅子とも呼ばれた。昭和の初め頃まで、田植前や稲刈後越後替女が当地方にやって来たのも、歴史的な繋がりもあってのことだろう。

村山地方山形周辺には「願人踊図」が3面みられる。山形市蔵王半郷には現在も保存会の手で「松尾願人踊」が伝えられている。図はいずれも、舞人が梵天を付け茜布を垂れた大傘の回りを舞い踊るものである。嘉永元年(1848)8月8日、山形市高原町・龍泰寺に奉納された「植木踊図」(名称は地名に由来)をはじめ、山形市東原町・地藏院には弘化5年(1848)3月24日奉納、上



植木踊図 嘉永元年(1848) 山形市・龍泰寺

山市阿弥陀地・阿弥陀堂には安政3年(1856)7月15日奉納になるものがある。

田植踊はその年の豊作を予祝するもので、県内でも広く行われた。踊は、花笠を付けた早乙女や音頭取が囃子方に合わせて舞い踊るものである。現在確認されている「田植踊図」は、明治8年(1875)3月17日、山形市青田・馬頭観音堂奉納、明治18年(1885)3月25日、寒河江市留場・稲荷神社奉納、昭和4年(1929)4月、寒河江市日和田・八幡神社奉納になるものである。「日和田田植踊」は現在も行われている。絵馬と同じ様に、弥重郎と呼ばれる音頭取が独特の爺と婆の面を付け、早乙女と共に囃子に合わせ舞い踊るものである。



田植踊図 昭和4年(1929) 寒河江市・日和田八幡神社

二人獅子の「獅子舞図」や「神楽舞図」なども庄内地方を中心に多い。明治24年(1891)7月、藤島町古郡・池神社に奉納された「神楽舞図」は「剣の舞」の場面である。この神楽は「古郡神楽」と呼ばれ町指定無形文化財になっている。

その他、明治22年(1889)旧8月15日、天童市清池・八幡神社に奉納された「女力士図」、明治32年(1899)2月11日、河北町岩木・熊野神社に奉納された「やまと楽図」、明治33年(1900)7月17日、大石田町大石田・上原神社に奉納された「豊年踊図」など特色ある絵馬は多い。

4. 終りに

ここにみた絵馬はせいぜい3,500面程の中からであり、県内にはどれ程の絵馬が納められている

のか想像がつかない。しかし、数少ない中からの調査でもそれなりの傾向をつかむ事はできた。

農耕図絵馬は、先に述べた様に水田耕作に関わるものがほとんどで、畑作のものは一面しか確認されない。江戸期から明治期、県内陸部を中心に紅花や青苧などの商品作物がかなり栽培されたが、なぜこれらの絵馬がみられないのだろうか。畑作は米作程農民の死活に関わることがなかった為か。あるいは米作りがより強く神仏の加護を必要とした為だったからなのか。

山樵図や採鉱図、漁撈図なども少ない。県内には到る所に「山神社」がみられ、山の神は山樵や採鉱に従事する者達の信仰が篤かったと考えられるが、絵馬としての奉納はほとんどみられない。信仰心はあっても、彼らにとって「描く」行為は苦痛であり、かと云って「絵師」に委ねることも困難だった為だろうか。漁撈図がないのはなぜなのだろう。日本海を抱え、大河最上川を擁し漁業に従事する者が多かったにも関わらず、本格的な漁撈図は一面も確認されていない。殺生の様子を描いたものはできるだけ神仏には捧げない、と云う感情でも漁民の間にはあったのだろうか。

祭礼図や行事・芸能図は種類も数も多い。これらの絵馬の多くは記録として残したいとの、奉納者の意志もあったと思われる。いずれにしろ当時を知る事のできる重要な民俗資料である。

なりわいや祭りの絵馬の多くは、現在の記念写真の奉納と相通ずる所がありそうである。当時の生活の有様を絵馬に託し記念に納める。なりわいや祭りの絵馬こそ、その様な意図の下に奉納されたものが多かったと思えるのである。実に、絵馬奉納の意図はそれ程多様であり、興味尽きない歴史・民俗資料であると云えよう。

〈注1〉 調査個票は約3,000点を得たが、その内2,300点余を纏め『山形県の絵馬一

所在目録』として刊行した。

〈注2〉 『山形県災異年表』(1979年 山形地方気象台 山形県農林水産部)

〈注3〉 河北町畑中 奥山茂夫氏蔵

〈注4〉 河野通明氏は「牛の農耕鞍の分布調査」(『民具研究』 昭和60年 日本民具学会)にて、小鞍を大きく4つの形態—山型単橋鞍・山型双橋鞍・干木型単橋鞍・干木型双橋鞍—に分けて分析している。馬の小鞍も牛と同様に考えられると思い、氏の分類に当てはめてみた。

〈注5〉 『砺波没革史』(昭和55年 砺波開基80周年記念事業編さん委員会)の中村岡家系図をみると、村岡長吉は大正元年(1925)に渡道、砂金掘りのため道内を回る、と記されている。

〈注6〉 『最上町史』上巻(昭和59年)「第八節新庄藩の馬産政策と小国の馬産」

〈注7〉 『海と日本人』(昭和52年 東海大学海洋学部編)で氏は船絵馬の成立を、
第一期 延享～安永(1744～1780)
第二期 天明～享和(1781～1803)
第三期 文化～天保(1804～1843)
第四期 弘化～慶応(1844～1867)
第五期 明治～大正(1868～1925)
と分けている。

〈注8〉 「船舶画としての船絵馬とその流派」第一期の船絵馬

〈注9〉 『山形県災異年表』(1979年 山形地方気象台 山形県農林水産部)

〈注10〉 余目町南野新田・八幡神社奉納
(明治21年3月)
同 家根合・皇大神社奉納(同 22年9月)
同 吉岡・皇大神社奉納(同 31年3月)
同 古関・白山神社奉納(同 37年8月)
同 西袋・皇大神社奉納(同 41年7月)

は、相沢川の川口である松山町相沢を想定したが、水駅でない飽海駅が最上川沿いである必要はない。むしろ、村山駅と同様に、郡衙近傍が自然である。

「延喜兵部式」に記された伝馬は、ある時は駅につけたり郡につけたり統一がとれていないのに、出羽国ではすべて駅につけられている。「あたかも伝馬が駅馬の補助の如くである」⁽²⁴⁾が、それはとりもなおさず、郡衙付近の、しかも郡衙所在地と同じ郷名を付された駅は、郡衙近接の地に位置したことを裏付けるものであろう。最上、由理も該当する。

遊佐駅 飽海郡遊佐郷のうちにあった。山形県最北の駅である。飽海郡遊佐町、月光川の南岸の大字小原田に大楯の地名がある。ここに駅が置かれたとする考案がある。駅馬一〇疋を置いた標準的な駅である。

鮎方駅 秋田県象潟町付近、雄波郷域で、**由理駅**は、秋田県本荘市付近、由理郷域に置かれた。ここから秋田城までは約四〇キロ、いささか長い道程ながら、あえて河辺郡郷域の新波に白谷駅をおき迂回する必要はないであろう。庄内の平安期出羽国府(承和六・八三九年初出)由理柵(宝龜二・七八〇年初出)↓秋田城(天平宝字四・七六〇年初出)の連絡路は、日本海岸に沿うてのほぼ直線・陸路のコースでよいと思う。払田柵との連絡はまた別途考案すべきである。

△注△

(24) 新野直吉 『日本地方制度の研究』吉川弘文館。一九七四年。

「令制水駅の実施研究」『日本歴史』一九六三年。「水駅ならざる水駅」

『歴史』二六ほか。一九六四年。

(25) 坂本太郎氏は「上代駅制の研究」一九二八(昭和三)年 至文堂、

で、この出羽国の馬船併備の数駅が、概牧会に「凡そ水駅は馬を配らざる処にして、閑繁を量り、駅別に船四隻以下二隻以上を置き、船に随いて丁を配し、駅長は陸路に准じて置け。」と規定された「水駅」にあたることを指摘された。さらに、「水駅考」『日本古代史の基礎的研究』下巻 一九六四(昭和三九)年 東大出版会 で、水駅は渡し場ではなく、水路に沿うた船継ぎ場で、「令義解」「鹿牧令」で、「若し応さに水陸兼送すべきは、亦船馬並びに之れを置け」とする水陸兼送の駅も「水駅」にあたる論じた。

(26) 坂本太郎 一九二八年前掲注⁽²⁵⁾。

(27) 長井政太郎 『大石田町誌』一九四〇年。「交通文化」『最上川の船着場』一五ノ一九号 一九四〇年。

(28) 森田 悌 「古代水運に関する二、三の問題」『金沢大学教育学部紀要』人文・社会△』三四号 一九八四年。

(29) 小口雅人 「最上川延喜式内水駅補考」『弘前大学人文学部』文経論叢(人文科学編)』二一巻三号 一九八六年。

(30) 井上通泰 『上代歴史地理新考(東山道)』三省堂 一九四三年。(昭和一八年)。

(31) 蒼田慶恩 『奥羽の騎将―最上義光―(日本の武将60)』人物往来社 一九六七年。

(32) 渡部育子 「律令制下の海上交通と出羽」『日本海地域史研究』文献出版 一九八五年。

(33) 川崎浩良 『山形の歴史』一九五八年。

(34) 峯金太郎 『増訂最上郡史』最上郡教育公 一九二九年。

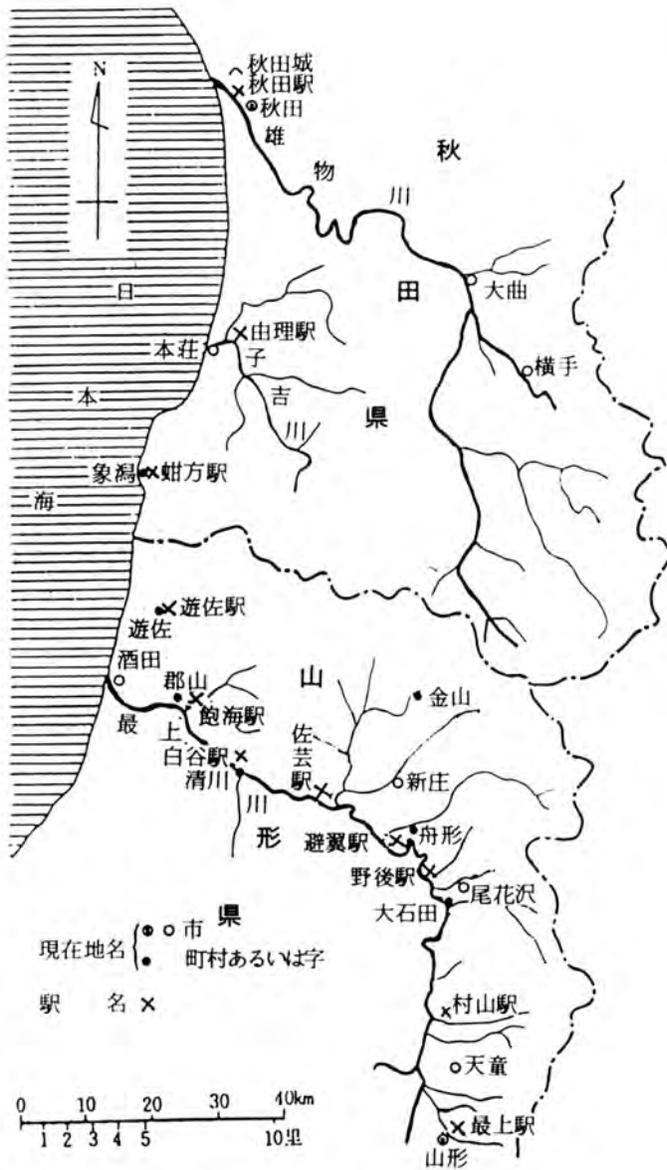


図4 『延喜式』の出羽水駅路

飽海駅 白谷で水駅は終る。最上峡を過ぎ、駅路は庄内平野をたどることが可能となるからである。『地理志料』以来の説、飽海郡平田町郡山付近とみる。新野(一九六三)

上峡の出口である清川をやはり白谷に比定したい」とした。ただ、実際は白谷駅以降、道は再び陸上となることを想えば、最上川北岸つまり現立川町清川集落から少しく下流の対岸に駅家の地を求めべきであろうか。

「この最上峡の出口である清川をやはり白谷に比定したい」とした。ただ、実際は白谷駅以降、道は再び陸上となることを想えば、最上川北岸つまり現立川町清川集落から少しく下流の対岸に駅家の地を求めべきであろうか。

接する駅を「水駅ならざる水駅」としなければ、所管の船は、渡し場用つまり水駅は渡津になってしまう。こうした矛盾を解決するには、一駅だけの水駅というのは考え難く、水駅の白谷はすくなくも隣接する一駅は水駅でなければならず、それは白谷を最上川流域とする以外にないのである。

野後—遊翼—佐芸間はほぼ均等である。この間に白谷を入れる余地はない。とすれば、野後—遊翼—佐芸間はほぼ均等の距離であり、

これに対しやや長きに過ぎる佐芸—飽海間の中間に白谷駅を想定するのが「自然」というものであろう。ここで、長井(一九四〇)説が復権する。

かつて長井(一九四〇)は、白谷を最上川沿いの駅とし、かつ立川町清川に比定した。最上川本流沿いで、立川沿いの河口にあたる。坂本(一九八)は、「延喜式の駅順を崩して、佐芸の次に白谷をおくのは少し心もとない」としながらも、その説に興味を示し、森田(一九八四と小口(一九八六)も、「この最

あろうとした。私もこの説に賛意を示したことがある²⁴⁾。しかし、村山(郡山)から野後(野尻川河口)までは平坦な陸路で特に支障はない。むしろ野川河口と野尻川河口の間には、基点・三カノ瀬・隼のいわゆる三難所がある。天正八(一五八〇)年頃、山形城主最上義光が石工に開削させてから一貫して利用されるようになったと伝える。慶長一一(一六〇六)年にも、斎藤伊予を奉行として隼の瀬その他を開削させている状況である³¹⁾。

渡部育子(一九八五)³²⁾は、この「水駅ならざる水駅」は、通常の陸上駅と連絡するために馬をもそなえていると説明するが、出羽の水駅には、後述する避翼・佐芸などの、隣接する二駅が水駅であることの確実な場合も馬があることをどう把握するのだろうか²⁹⁾。

野後駅 大石田町域にあった船をおく駅つまり水駅であった。川崎浩良(一九五八)は、大石田北方の野尻川河岸段丘に求めた³³⁾。これを検討した新野(一九六四)が、野尻川河口部の駒籠(北村山大石田町)に求めた²⁴⁾。現在までもっとも妥当な見解とされている。

避翼駅 最上郡舟形町地内、小国川の川口付近であろう。新野(一九六三)は、『三代実録』(仁和三年五月二十日条)の国府移転問題で取りあげられた、「最上郡大山郷保宝土野」が福寿野にあたるとした上で、その東縁部の長者原地内を考えた。大山郷が西村山郡河北町域であることは既に述べた。しかも、長者原は最上川岸にほど遠い。小口(一九八六)は、小国川との合流点付近の馬形(最上郡舟形町)から鳥川向(最上郡大蔵村)あたりを考案した。私は、かつて峯金太郎が唱えた、舟形町富田説³⁴⁾をまず推す。富田は江戸時代に猿羽根村であった。避翼駅の遺名かとみる。

なお、避翼駅の駅馬十二疋は、野後や佐芸との連絡に用いられることがあるだけではなしに、雄勝方面との連絡にも用いるのだろうか。

佐藝駅 船一〇隻をもつ最大の水駅である。最上川本流沿いに疑問はない。その上で小口(一九八六)は、鮭川と佐芸とは結びつけないのが無難とし、古口(最上郡戸沢村)を当てた。しかし私は、逆に鮭川の河口付近にこそ求めるべきだと考える。戸沢村の津谷を想定したい。

新野(一九六三)は、この駅を鮭川村真木付近とした。清川だしぐとよばれる西北季節風の強い期間には、大芹沢越(与蔵峠)を越えて庄内の飽海駅へ通じたらうとの考えからである。それにしては佐芸の駅馬の四疋は少な過ぎると私は考える。むしろこの駅に配された船一〇隻が、最上川の水駅中で最大数をしめすことに注目すべきである。野後駅からつぎの白谷駅までは、一貫して最上川本流に沿うていると考えるべきであろう。

白谷駅 「延喜兵部式」では、佐芸駅の次に遊佐駅がくる。この記載順には混乱があることは、早くから諸家の指摘するところである。萩岡良弼『日本地理志料』(一九六六)以来、飽海郡衙擬定地の飽海郡平田町郡山付近に飽海駅を想定してきた。遊佐駅は飽海郡遊佐町域に比定されるため、両者の先後関係は実際の駅路順と異なるからである。これを補正するに、飽海駅のみの誤入とする説、白谷駅を問題とする説のあることは先述した。私は、この白谷―飽海の両駅を佐芸―遊佐間に挿入することで疑問は氷解すると考えた。

白谷は水駅である。しかも、由理駅に次ぐとすれば、雄物川沿いにその位置を求めざるを得なくなる。同時に、単独の水駅はその隣

表5 出羽国の駅制(加藤1987, 誉田, 横山19 を改変)

| 駅 家 | 擬定地(位置) | 駅 馬 | | 伝 馬 | | 小 計 | | 隣接との合算 | | 備 考 (新野直吉説) |
|-----|-------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------------|
| | | 馬 (疋) | 船 (隻) | 馬 (疋) | 船 (隻) | 馬 (疋) | 船 (隻) | 馬 (疋) | 船 (隻) | |
| 最 上 | 山形市 | 15 | | 5 | | 20 | | 30 | | 山形市 |
| 村 山 | 東根市 | 10 | | | | 10 | | 30 | | 東根市舟戸 |
| 野 後 | 大石田町駒籠 (野尻川河口) | 10 | | 3 | 5 | 13 | 5 | 23 | | 大石田町駒籠 |
| 避 翼 | 舟形町富田 (小国川河口) | 12 | | 1 | 6 | 13 | 6 | 26 | 11 | 舟形町福寿野 |
| 佐 藝 | 戸沢村津谷 (鮭川河口) | 4 | 10 | | | 4 | 10 | 17 | 16 | 鮭川村真木 |
| 白 谷 | 立川町清川 (立谷沢川河口) | 7 | | 3 | 5 | 10 | 5 | 14 | 15 | 秋田県雄波町 |
| 鮑 海 | 平田町郡山 | 10 | | | | 10 | | 20 | | 松山町相沢 |
| 遊 佐 | 遊佐町大楯 | 10 | | | | 10 | | 20 | | 遊佐町 |
| 蚶 方 | 象潟町 | 12 | | | | 12 | | 22 | | 象潟町 |
| 由 理 | 大荘市 | 12 | | 6 | | 18 | | 20 | | 本荘市 |
| 秋 田 | 秋田市高清水 | 10 | | | | 10 | | 28 | | 秋田市 |
| | 合 計 | 112 | 10 | 18 | 16 | 130 | 26 | | | |

で記載する順序が、白谷―鮑海間でなしに佐芸―白谷間に誤入したと推測し、小口雅史(一九八六)も賛意を表した。

私は、水駅白谷について長井(一九四〇)説を勘案し、森田(一九八四)の誤入説についてはむしろ、鮑海―秋田間に挿入すべきものであったと考える(図4)。新野(一九七四)の鮑海駅位置論は動かし難いと信ずるからである。

以下、最上川流域の駅家の擬定地を考案する。
最上駅 まず、陸奥国小野駅(陸奥国柴田郡川崎町)から有耶無耶(笹谷)峠を越えての最初の最上駅は、最上郡最上郷つまり現山形市域にあったろう。各駅名は、その所在地の名をとった。実際は、その駅のおかれた郷名によっているとみられる。「地勢阻険」の峠を越えるのに、最上駅では、駅馬の数が多く、伝馬も置かれている。

村山駅 つぎは、村山駅で、村山郡衙のあった東根市郡山近辺にある。この駅は、駅馬一〇疋、東山道の平均的な駅である。盆地中部、隣接の両駅との間は平坦である。

新野(一九六四)は、この駅には駅馬しか配されていないが、実際は野後駅の船が上がることもあったろうとし、駅を、野川河口の舟戸付近で

四 出羽の令制水駅

秋田城にあった出羽国府が庄内に戻ったからであろう。雄勝・平鹿を経て整備された奈良期からの「山道駅路」⁽²⁴⁾に替って、平安期に入つて庄内・秋田へ向けて最上川沿いに主要道が整備された。いわゆる「水道駅路」⁽²⁴⁾である。

「延喜兵部式」の「諸国駅伝馬条」のうち出羽国の分はつぎの通りである。

出羽国駅馬 最上十五疋。村山。野後各十疋。避翼十二疋。佐 四疋。遊佐十疋。蚶方。由理各十二疋。白谷七疋。飽海。秋田 船十隻。各十疋。

最上五疋。野後三疋。船五隻。由理六疋。
伝馬 避翼一疋。船六隻。白谷三疋。船五隻。

船をもつ「水駅」があることは、ひとり出羽国にのみみられる。他国に例をみない特異なものである⁽²⁵⁾。

「延喜式」に規定された東山道の駅路は、「勢多を首駅として、近江を横断し、美濃・信濃・上野・下野・陸奥の国府を経て、志波城に至る。一は陸奥柴田郡より分岐して出羽に入り、国府を経て秋田城に至る」⁽²⁵⁾のが本道であった。

駅馬は、東山道のような中路では、各駅一〇疋が原則だった。二・三これ以上配置された駅が出羽国内にある。その理由については必要に応じて考えたい。

まず、出羽国内の駅順を確かめておこう。結論を先にいえば、つぎの通りと私考する。「延喜式」の記載が大略道順を示すものの、二三前

後している。(仮りに「延喜式」の記載順に駅名に番号を付す。)

- ①最上 ②村山 ③野後 ④避翼 ⑤佐芸 ⑨白谷 ⑩飽海
⑥遊佐 ⑦蚶方 ⑧由理 ⑪秋田

諸家の考案のうち主なものをあげ、私案との異同を明らかにしておく。

「地名辞書」(一九〇七) ↓ 新野直吉(一九七四)⁽²⁴⁾

①最上—②村山—〔③野後〕—④避羽—⑤佐芸—⑩飽海—⑥遊佐—

⑦蚶方—⑧由理—⑨白谷—⑪秋田。

長井政太郎「大石田町誌」(一九四〇)⁽²⁷⁾。

①最上—②村山—③野後—④避翼—⑤佐芸—⑨白谷—……—⑪秋田。

森田 悌(一九八四)⁽²⁸⁾ ↓ 小口雅史(一九八六)⁽²⁹⁾

①最上—②村山—③野後—④避翼—⑤佐芸—⑨白谷—⑥遊佐—⑦蚶方—⑧由理—⑩飽海—⑪秋田。

「延喜式」の記載順と異なる飽海駅についての「地名辞書」の解釈は、佐芸駅から遊佐駅を経て秋田城へ向かう幹線道路上で、出羽国府付近にあったためとする。井上通泰(一九四三)は、遊佐—佐芸間から出羽国府への、駅路の幹線から分かれた支道に設けられた駅と解している⁽³⁰⁾。新野直吉(一九七四)は、飽海駅が飽海郡衙の近傍との立場である。

一方、白谷駅が記載順に整合しないとする長井政太郎(一九四〇)は、水駅である白谷が、一っだけ当該箇所から逸脱したのであり、最上川本流沿いの最後の水駅であるとする。森田 悌(一九八四)は、山道駅路を水道駅路に変換した段階で、遊佐—蚶方—由理の各駅を組み込ん

二〇坪が想定される。

梁田・徳有の二郷の範囲と想定した、尾花沢・証庄盆地では、まだ条里遺構が確認されない。

ここで村山郡四郷の条里面積八〇七坪以上を四郷で除すると、二〇坪弱の平均値が得られ、各郷の遺構は現実平均して分布している様子がみられる。最上郡と同様の割り算をしてみると、一戸平均四坪強、良民成人男女一二組二四人分の口分田となる。新開の村山郡域は、最上郡に比して郷ごとに若干の戸口の少なさを反映しているのかもしれない。

村山郡でもまた、古墳の築造されなかった梁田・徳有の二郷には、条里遺構もまた未確認という相関がみられる。

山形盆地内のそれぞれの条里遺構は互に接続しており、ある郷へ帰属させた遺構が実際には二郷にまたがっているものもあるかもしれない。また確認された条里遺構も、南北および東西方向について、最大値をもって、機械的に方形として計算してあるため、実際の坪数とは必ずしも一致しないものがある。一方、遂に未確認の地域のうち、中世・近世を通じてすでに村落・市街地化し、地籍図では確認できないものもある。したがって、大よその目安の面積ではない。今後のより緻密な考察の布石として試算してみたのである。それにしても、全体として、よりまとまりのある状況が得られたと私考する⁽²⁴⁾。最上・村山郡内の郷名配置の復原作業の確かさを保証しよう。

△注▽

(20) 深谷正秋「条里の地理学的研究」『社会経済史学』六巻四号。一九三六年。

(21) 長井政太郎「山形県地名録(稿本)」一九三八年。

(22) 柏倉亮吉「村山平野の条里制遺構について」『歴史』六号。一九五三年。

「条里のあと」『古代の日本8東北』一四二―一五五頁

一九七〇年。

(23) 山形県教育委員会「山辺条里遺構発掘調査報告書(山形県埋蔵文化財調査報告書等22集)」一九七九年。

(24) 加藤 稔 一九八三年 前掲注(1)。

| | | | | | | |
|--------|--------|----|----|----|----|----|
| 秋田郡 漆川 | 出羽郡 大窪 | 大盛 | 河邊 | 井上 | 大田 | 成相 |
| 田川郡 四川 | 大盛 | 新家 | 那津 | | | |
| 河邊郡 川合 | 中川 | 色知 | 田原 | | | |
| 大泉 | 稲城 | 舟泉 | 田原 | | | |
| 雄勝郡 雄勝 | 本津 | 中村 | | | | |
| 山手郡 山川 | 大井 | 邑知 | 山本 | | | |
| 雄勝郡 雄勝 | 本津 | 中村 | | | | |
| 宮城 | 長井 | | | | | |
| 東上郡 郡下 | 山方 | 東上 | 芳賀 | | | |
| 阿賀 | 八木 | 山邊 | 鶴有 | | | |
| 村山郡 大山 | 長岡 | 村山 | 大倉 | | | |
| 梁田 | 徳有 | | | | | |
| 東郷郡 東郷 | 唐瀬 | 尾代 | 赤井 | | | |
| 耶麻郡 分會 | 津群 | 量 | | | | |
| 出羽郡 赤牛 | | | | | | |

図3 出羽国関係郡郷名 『和名抄』高山寺本から

表4 山形県内の条里遺構 (柏倉1982を利用, 一部補訂)

| 番号 | 地 点 | 実 態 | | | | 規 格 | | | 関 連 事 項 | | |
|----|------------|----------|-------|---------|-----|----------|-------------|----|---------|---------------|-----|
| | | 縦(南北)の方向 | | 推定面積(坪) | 坪間割 | 地表の地方向 | 地表の傾斜(降り勾配) | 地目 | 水 | 関係地名 | 推定郷 |
| 1 | 陣 場(山形市) | N-S | 10×10 | 100 | 長地 | 東 西 | N70W | 水田 | | 五丁, 四つぼ | 郡下郷 |
| 2 | 飯塚・橋沢(") | N-S | 13×11 | 143 | " | 東 西 | N70W | 水田 | | | 山方郷 |
| 3 | 山形西南部(山形市) | N-S | 15×17 | 255 | 長地 | 東 西 | N90W | 水田 | | | 最上郷 |
| 4 | 天童西南(天童市) | N-S | 15×9 | 135 | | | N50W | 水田 | 立谷川 | 三条 | 芳賀郷 |
| 5 | 天童東北(") | N-S | 11×8 | 88 | | | N40~50W | 水田 | 倉津川 | 南・北三丁 | |
| 6 | 成 生(") | N-S | 4×11 | 44 | | | N90W | 水田 | | | |
| 7 | 出羽・明治(山形市) | N-S | 11×16 | 176 | 長地 | 南 北 | | 水田 | | 三条, 三丁目 | 阿蘇郷 |
| 8 | 高 揃(天童市) | N-S | 7×2 | 14 | | | | | | 一ノ坪 | |
| 9 | 柳 沢(中山町) | N-S | 10×8 | 80 | 長地 | 東 西 | N90E | 水田 | 石子沢 | 三条目, 一ノ坪 | 八木郷 |
| 10 | 山 辺 南(山辺町) | N-S | 9×11 | 99 | 長地 | 南北・東西 | N90~35E | 水田 | 北の沢 | | 山辺郷 |
| 11 | 大 曾 根(山形市) | N-S | 11×5 | 55 | | | | | | | |
| 12 | 村 木 沢(") | N-S | 13×10 | 130 | | | | 水田 | | | |
| 13 | 二位田門伝(山形市) | N-S | 17×19 | 323 | 長地 | 東 西 | N90~30E | 水田 | | | 福有郷 |
| 14 | 谷 柏(") | N-S | 7×17 | 119 | " | 東西・南北 | N90~30E | 水田 | 本沢川 | | |
| 15 | 溝 延(河北町) | N4E | 18×8 | 144 | | 南 北 | S70E, S10E | 水田 | | 一ノ坪 | 大山郷 |
| 16 | 谷 地(") | N4E | 4×5 | 20 | | | S60E | 水田 | | 一ノ坪 | |
| 17 | 大 楨(村山市) | N9E | 6×6 | 36 | | | | 水田 | | | |
| 18 | 寒河江南(寒河江市) | N7E | 13×15 | 195 | 長地 | 南 北 | N0E, N20E | 水田 | | 三条 | 長岡郷 |
| 19 | (") | | | | | 東 西 | N60~90E | 水田 | | 一ノ坪 | |
| 20 | 東根温泉(東根市) | N-S | 16×12 | 192 | 長地 | 南 北 | N40W | 水田 | 白水川 | | 村山郷 |
| | | | | | 東 西 | N80W | | | | | |
| 21 | 楯 岡(村山市) | N-S | 22×10 | 220 | 長地 | 東 西 | N90W | 水田 | | 一ノ坪 | 大倉郷 |
| | | | | | 南 北 | N60WN40W | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 梁田郷 |
| | | | | | | | | | | | 徳有郷 |
| 22 | 宮 内(南陽市) | N-S | 12×10 | 126 | | | S10W | 水田 | 吉野川 | 三条院, 六丁目, 一ノ坪 | 宮城郷 |
| 23 | 市 条(八幡町) | N-S | 1×5 | 5 | | | S70W | 水田 | 荒瀬川 | 市条 | 大原郷 |

五坪強、仮りに良民成人男女のペア(二反十一反二〇歩)で除すると、一五組三〇人分の口分田となる。郡領の職田その他を無視してのことながら、妥当な数字ではあるまいか。

ついでながら、これを古墳の分布と関連させてみると、五世紀最初に最大の菅沢山二号墳が築造された地を含む福有郷内の条里面積がもっとも大きく、また古墳の確認されていない八木郷内の条里面積がもっとも小さいことも偶然ではあるまいと私考する。

⑨ つぎに、村山郡域について見てみよう。大山郷には、河北町溝延地区の一四四坪と同谷地区の二〇坪に、村山市大楨地区の三六坪を加えると、計二〇〇坪になる。

⑩ 長岡郷には、寒河江市南地区の一九五坪と面積未詳の同市醍醐地区分が含まれる。とりあえず一九五坪以上としておく。

⑪ 村山郷には、東根市東根温泉地区の一〇九二坪がある。

⑫ 大倉郷には、村山市楯岡地区の二



図2 山形県内の条里制遺構分布図
(柏倉 1953に補筆)

柏倉(一九五三)によって確認された山形盆地内の条里制遺構は計二一カ所に及ぶ。北は村山市西北部の大槓から、南は山形市西南部の谷柏にいたる。

最近では、発掘調査によって、地下に埋もれていた条里遺構が明るみに出されている。山辺町南部や東根市北郊のばあいである。²³こうした、山形盆地内で確認された条里遺構をさきあげた郡郷に對比し、それぞれの条里遺構の推定面積を試算してみる。

- ① 郡下郷には、山形市陣場地区の一〇〇坪と、同市飯塚・榎沢地区一四三坪の計二四三坪がみられる。
- ② 山方郷内の条里遺構は未確認である。山形城下町とその周辺にわたる市街化がその遺構を識別しにくくしているものか。

- ③ 最上郷には、山形市西南部の二五五坪がふくまれる。
- ④ 芳賀郷には、天童市西南地区一三五坪、同東北地区八八坪、同成生地区の四四坪の計二五七坪が見込まれる。

⑤ 阿蘇郷には、山形市出羽・明治地区の一七六坪と天童市高播地区の一四坪で、計一九〇坪となる。

⑥ 八木郷には、中山町柳沢地区の八〇坪がある。いまのところ最上郡内で最小値をしめす。旧長崎町内の遺構が未確認のためである。

⑦ 山辺郷には、山辺南地区の九九坪と山形市大曾根地区の五五坪および同市村木沢地区の一三〇坪を加えて、計二八二坪が考えられる。

⑧ 福有郷には、山形市二位田・門伝地区の三二三坪と、同市谷柏地区の一一九坪を合わせた、四四二坪がある。
いまのところ最上郡内で最大値をしめす。

最上郡内の八郷では、条里遺構の確認されていない山方郷を除外すると、いまのところ八木郷の八〇坪を最小とし、福有郷の四四二坪を最大とする条里遺構が復原されている。もしかししたら、山形市村木沢地区の一三〇坪は、福有郷に属することも考えられる。そのばあい福有郷は五七二坪となる。

郡下・最上・芳賀・阿蘇等五郷の条里面積は、二〇〇ないし三〇〇坪の範囲にある。郡全体の面積一七六一坪を七郷で除すると、二五二坪弱となる。各郷の二五〇坪前後の条里遺構の分布は、最上郡全体として調和のとれた、いわば安定した数値とみることができよう。五〇戸一郷として、一戸平均

- (11) 後藤宙外 「払田柵跡は河辺府の遺蹟」『秋田考古学会誌』二巻四号、一九三〇年。
- (12) 平川 南 「出羽国府論」『宮城県多賀城跡調査研究所』研究紀要』IV、五七〇七七頁、一九七七年。
- (13) 新野直吉 『律会古代の東北』、一九六九年ほか。
- (14) 加藤 稔・米地文夫 「城輪柵跡出土柱木のC14年代をめぐって」『山形考古』二巻四号、一九七六年。
- (15) 小野 忍 「史跡『城輪柵跡』の調査」『羽陽文化』九七号、一九七四年。
- (16) 佐藤禎宏氏のご教示による。
- (17) 柏倉亮吉・小野 忍 「城輪柵の内郭と性格について」『山形県民俗歴史論集』二、一〇一九頁。一九七八年。
- (18) 佐藤禎宏 「仁和三年条の出羽国府移転に関する覚書」『庄内考古学』一六号。一九七九年。
- (19) 山形県教育委員会 『生石2遺跡発掘調査報告書(一)』一九八六年。

三 取上・村山郷の条里遺構

山形盆地の条里遺構に初めて着目したのは深谷正秋(一九三六)である。一九三六(昭和一一)年に、日本列島の条里分布の北限は山形盆地にあるといい、山形市の東部と旧飯塚村・旧樺沢村および山辺町付近の四カ所に条里遺構の残存を推定した²⁰⁾。

そのころ、三浦新七氏を会長とする山形県郷土研究会も条里遺構の確認を目指し、その手懸りとなるべき地名を総集した。長井政太郎氏が編じた『山形県地名録(稿本)』(一九三八)がその成果としてある²¹⁾。しかし、遂に条里遺構そのものの確認には及ばなかった。

『山形県地名録』によれば、山形盆地内には、村山市名取の一ノ坪(旧西郷村)、河北町溝延の一ノ坪(旧溝延村)、同町畑中の一ノ坪(旧三泉村)、天童市成生の北三丁・南三丁(旧成生村)、同市窪野目の三条(旧蔵増村)、同市荒谷の一ノ坪(旧山寺村)、寒河江市寒河江の三条(旧寒河江町)、山形市漆山の一の坪(旧出羽村)、同市渋江の三条(旧明治村)、中山町長崎の三条目と一ノ坪(旧長崎町)、同町柳沢の三条目(旧豊田村)などの地名分布がみられる。

結果として、これらの地名は条里制に関連するものであることが確められる。山形市渋江の三条と中山町柳沢の三条目とは、正東西線上に並ぶ。そして天童市成生の三丁はそれから北へ約七キロ、条里制の尺度でいえば、ちょうど一一条分の距離である。両者の関係は、おそらく□三条と□十三条とに当るものだった。

一九五〇年代に、柏倉亮吉氏は、明治三十年代(一八九〇年前後)の地籍図から当時の畦畔・用水路を基にする推定によって、山形盆地での条里遺構を確認された²²⁾。

とはいうものの、城輪柵跡が国府の遺構と考える根拠は、考古学的にみて十分である⁽¹⁷⁾。これに関連して、九世紀後半にしばしば叙位のみられる城輪神は無視できない。かつて国府の鎮守神であった秋田高泉神とともに貞観七(八六五)年に城輪神も従五位下の神位を授けられ、元慶の乱(八七八〜八八〇)後の元慶四(八八〇)年には従五位上に列せられた。これは城輪の地主神が国府の守護神のためで、九世紀前半にすでに正六位上の神位を帯びていたわけで、城輪柵が第一期から国府機能をもった、ということは井口国府の可能性が大きいと考えられることになる。

嘉祥三(八五〇)年の大地震で、海水が国府の六里の所まで漲り、また大川(最上川か。荒瀬川・日向川との考案もある)が崩壊し、その洪水が国府の隴の一町余に迫った土地としては、城輪は日本海からも少しく離れ過ぎていて感否めない。

八幡町八森遺跡は、果して城輪Ⅰ〜Ⅱ期間の断絶時、すなわち「旧府近側高敞之地」の国衛か⁽¹⁸⁾。東西両脇殿が未確定なことが気にもなる。むしろ、井口国府は通説のように第二次出羽郡内にあり、飽海部の城輪柵こそ「旧府近側高敞之地」ではなからうか。など疑問はなお多い。昭和六〇(一九八五)年に検出された酒田市生石2遺跡⁽¹⁹⁾の正体は何か。考古学と文献学との整合の上に、出羽国府の所在を確定するにはなお若干の時間を要するようである。

〔注〕

- (3) 郵岡良弼『日本地理志料』巻二八・出羽には、「按ずるに原本に平鹿郡と作る、而して出羽郡下に又注して国府と云ふ、其の謬たる知る可し

今、拾芥抄、日本正統図、国華万葉記に依って訂す、伊呂波字類抄、

大八洲記に平鹿郡と作る者、並びに本書之を承けたる也。」と述べる。

- (4) 木下良「国府跡研究の諸問題―甲斐国府跡をめぐる―」『文化史学』二二号。(一九七七年)

- (5) 弥永貞三「大東急記念文庫『和名類聚抄』の国郡部記載について」『歴史地理』九三巻一号。(一九七七年)

例えば、山城国についてみると、『和名抄』には、

——源唱朝臣為方の時奏明す、河陽離宮を以て国府と為す。

とあり、これは『日本三代実録』貞観三(八六一)年六月七日条の

——山城国奏言す。河陽離宮は、久しく行事をせず、稍破壊に致る。請ふらくは国司の政を行ふ処と為さん。但し旧宮を廃さず、行幸之日將に掃除を加ふべし。

の記事と一致する。

- (6) 築島裕「図書察本類聚名義抄と和名類聚抄」『国語と国文学』四〇巻七号。

峰岸明「前田本色葉字類抄と和名類聚抄との関係について」『国語と国文学』四一巻一〇号。

- (7) 池辺弥「和名類聚抄」『古代の日本』第九巻・研究資料、三二三〜三二四頁、一九七一年。

- (8) 上田三平「弘田柵跡・城輪柵跡(文部省『史蹟精査報告』三)一九三八年。

- (9) 秋田県教育委員会、弘田柵跡調査事務所「弘田柵跡Ⅰ―政庁跡―一九八五年ほか。

- (10) 新野直吉「古代東北の開拓」一九六九年ほか。

和銅五(七二二)年には、『統日本紀』和銅二(七〇九)年初出の出羽柵を中核に、「陸奥国置賜・最上二郡を割いて出羽国に隸わし」めたこととで、出羽国としての形態が整う。ただしこの国の成立を、置賜・最上二郡が確実に隸した靈龜二(七二六)年とする説が行われている⁽¹⁰⁾。出羽郡の北界はもとより閉じてないものの、庄内平野を大略の範囲としたろう。『延喜式』、『和名抄』以前の承和六・七(八三九、八四〇)年に、『日本三代実録』に、田川・飽海両郡が登場する。しかし、この二郡の成立は、出羽建国の直後に遡るであろう。

和銅七(七二四)年に尾張・上野・信濃・越後の国民二〇〇戸、靈龜二(七二六)年に信濃・上野・越前・越後の百姓四〇〇戸、養老元(七一五)年に信濃・上野・越前・越後の百姓四〇〇戸、養老三(七一九)年に東海・東山・北陸の民二〇〇戸の計一二〇〇戸を出羽柵戸とした。単純計算で、「五十戸一里制」でいえば二四里に及ぶから、出羽十田川・飽海の平安期の庄内方面の一七郷二余戸の郷の基盤はすでに養老年間にはできたとみてよいからである。この段階の第二次出羽郡を以下に問題にする。

『和名抄』には、第二次(以下略す)出羽郡に属する郷には井口郷はない。井上郷がある。また、井手郷が飽海郡に見える。一方、現酒田市城輪で昭和六(一九三二)年に発見された城輪柵遺跡⁽⁸⁾は、その外郭方七町、内郭東西二四〇メートル、南北二四〇メートルの築地塀に囲まれた。五期におよぶ官衙風の建物群をもつ遺跡で、平安中期以降の出羽国府跡とされる。その創建(Ⅰ期)は、九世紀前半に遡ると想定されている⁽¹¹⁾。とすれば、井口国府は城輪柵跡とする意見は当然⁽¹²⁾で、検討に値する。

ところが、この地が出羽郡井口だとすれば、第二次出羽郡の管域は最上川の北岸、現在の飽海郡内にもわたることになる。吉田東伍説以来の通説、第二次出羽郡域最上川左岸説とは大きく齟齬してくる。とりあえず解釈はつぎのようになろうか。

一は、第二次出羽郡域を最上川の両岸にわたるとする考えである。現在まで表立ったことはないかも知れぬ。庄内人がいま飽海原と呼ぶのは、荒瀬川以北の地であるところから、現飽海郡平田町・松山町と酒田市の大半は出羽郡域の北半の第二次出羽郡域であって、当然、城輪柵もこの範囲に含まれるとする⁽¹³⁾。通説の大原・飽海・秋田・井手の四郷を荒瀬川以北に想定せざるを得ない作業が加わるが。

二は、出羽郡井口は出羽郡井上の誤記とする考えである。流布本にある「出羽 国府」の郡名下注は、第一次出羽郡の出羽柵のことではなく、第二次出羽郡内の井上郷に擬定することになる。「大日本地理志料」や『大日本地名辞書』は、この郷内に井口国府の所在を考えている。『地理志料』は、井上郷を「仁和二年紀、出羽ノ国府、在二出羽郡井口ノ地一口ノ字上ノ字、必有二一誤一、……三代実録作二井口一、(恐書 之矢耳、国郡沿革考云、国府、遺趾、在二今、田川郡広野村一)」とした。また『地名辞書』は、赤川・京田川・藤島川が最上川に注ぐ、最上川河口南部の低湿地帯をあげている。酒田市広野遺跡はじめ、平安期の集落遺跡が京田川の自然提防上にある。検討すべき課題である。

三は、出羽郡井口の出羽を厳密には誤記ながら、慣用上許される表現とする考えである。すなわち、井口の地は飽海郡なのに、庄内全体の呼称として出羽郡が使われた。ちょうど最上郡から村山郡に分かれた範囲の大山郷が、相変らず最上郡大山郷と表現されたように。

御船・鎔刀の七郷と餘戸を管する。うち、山本以下の郷戸は、実際は山本郡に分かれるべきものとする説の有力なることは先述した。しかし流布本の平鹿国府は、実際の山本郡城をも含んだ地にあってもよいことになろう。とすると、山本郡塔甲郷に属する「払田柵」遺跡が浮かび上ってくる。

払田柵遺跡は、秋田県仙北郡仙北町高梨にある。高梨は塔甲の遺名とされる。昭和五(一九三〇)年、外郭線の柵本列・南門や内郭線上の北門跡などが確認され、「不文の遺跡」ゆえに所在地名によって命名された⁽⁸⁾。戦後、昭和四九(一九七四)年以降、秋田県払田柵調査事務所の調査で、海拔五四・三メートルの長森丘陵のほぼ中央に、整然たる築地塀で囲まれた五間四面の掘立柱の正殿跡や東西脇殿、正門・南門跡など官衙風の建物群が確認されている。また若干の木簡の出土もある⁽⁹⁾。

八世紀末の奈良後期(Ⅰ期)からの城柵、官衙で、一一世紀初頭(Ⅴ期)まで機能した。昭和五三(一九七八)年には、内郭北側の「ホイド井泉」が調査され、木簡八点が出土した。一五号木簡に「□字四年」銘があり、払田柵が天平宝字四(七六〇)年に、陸奥国桃生城と同時に造営された雄勝城とする見解も出てきた。これに対して、九世紀初頭の延暦末から弘仁年代に成立したと考えられる山本郡衙説がある⁽¹⁰⁾。また、九世紀初頭の河辺府説も柵跡の発見当初からある⁽¹¹⁾。

払田柵遺跡は、九世紀前葉には出羽軍団が配置されていた重要な施設である。延暦二三(八〇四)年に国府の機能を移された河辺府だと仮定すれば、天平宝字三(七五九)年に雄勝郡から分郡した平鹿郡域(山本郡成立前)だったために、平鹿国府の名が用いられた可能性は否

定できないかもしれぬ。前述のように、流布本には山本郡の名を欠くのであるから尚更である。一五号木簡の解釈もできよう。

一方、雄勝城説はどうか。

流布本に、「雄勝 乎加知 有城謂之答合」とある。この「答合城」は、平鹿郡(後の山本郡)の「塔甲郷」にあった払田柵遺跡の名とできる点は見逃せまい。雄勝城は、正史では答合城もしくは塔甲城と呼ばれることなく、横手盆地南部の雄勝郡雄勝郷から郡名を負って北進したことは考えられないであろうか。ちょうど、出羽郡の出羽柵が秋田村高清水岡に北進した後も当分の間は出羽柵と国名を負っていたように。

いま、払田柵遺跡について、河辺府説、雄勝城説、答合(塔甲)城説、山本郡衙説のいずれが適合するか速断しかねる。しかし、平鹿国府実在を前提にするならば、秋田城から出羽国府が南遷した九世紀初頭に、払田柵が国府機能をもったと考えることは荒唐無稽ではないと思う。その時期は、仁和三(八八七)年以降ではなく、延暦年中(七八二〜八〇五)に、出羽国府が出羽郡井口に建設されるまでの短期間であったろう。平鹿(山本)郡は、出羽郡の近くとは見做しがたい。「旧府近側高敞之地」ではない。それは、元慶四(八八〇)年ならば、「遠く国府を去り、近く賊地に接する」地だった。「国府在平鹿郡」は誤りであるとの考案が出てくるのは当然であろう。ここでは、「出羽国府の複雑な変遷事情よりすれば、現段階で、早急に誤記と断定する必要はないであろう」(平川 一九七七)とするに止めよう⁽¹²⁾。

ことのついでに、出羽郡井口国府に言及しよう。

第一次出羽郡は、越後国の北端に、和銅元(七〇八)年に建てられた。

天平九(七三七)年 持節大使藤原麻呂任命され、按察使大野東人出羽に入り、多賀柵から出羽柵への内陸直路を開こうとする。

天平宝字四(七六〇)年 阿支太城初見(九部足人解)。

宝亀六(七七五)年 出羽国で不穏が続くため、鎮兵九百九十六人を増派して要害を鎮め、国府を遷さんとする。このころ(宝亀の初、

「秋田は保ち難く、河辺は治め易し」の論おこる。

宝亀十一(七八〇)年 鎮秋將軍は秋田城(出羽国府)の放棄論について「番を為して旧に依り還って保たんか」とし、政府は、鎮秋使か国司の一人を、狄俘と百姓らに移転計画の説明と意見歴問のため専当とすること、また由理柵の堅持、を指示する。

延暦廿三(八〇四)年 「秋田城建置以来卅年」にして、秋田城の国府を河辺府に遷し、秋田郡制を施行。

延暦年中(七八二〜八〇五) 出羽国府を出羽郡井口に建設。

天長七(八三〇)年 雄勝・秋田等の城と国府に戎率を配置。

承和六(八三九)年 田川郡西浜に自然隕石雨降る。「府に達するの程五十余里なり。」

嘉祥三(八五〇)年 出羽国大地震。「形勢変改し、既に窪泥と成るしかのみならず海水漲移し、府に六里の所に迫る。大川は崩壊し隄を去る一町余、両端害を受け、隄塞に力無く、堙没の期里暮に在り。」

貞観七(八六五)年 出羽国正六位上城輪神が従五位下となる。

元慶四(八八〇)年 出羽国管郡中の山北、雄勝平鹿山本の三郡は、遠く国府を去り、近く賊地に接する。

従五位下動七等城輪神が従五位上となる。

仁和三(八八七)年 国府は出羽郡井口の地に在る。最上郡大山郷保宝士野への遷建の請は聴許されず、「旧府近側高敞之地を擇びて、其旧材を用いての遷造を命ぜられる。

延長五(九二七)年 「延喜式」撰上。「出羽国行程上卅七日、下廿四日。海路五十二日。」

承平年間(九三〇年代) 「和名抄」なる。「(流布本)出羽国 国府は平鹿郡に在り。行程上り四十七日下り二十四日。…(中略)…出羽(郡)国府 …(後略)。」

『和名抄』には、三本ある。高山寺本(四〇部二六八門・二十卷本)、流布本(三二部二四九門・二十卷)および十卷本(二四部一二八門)である。その先後関係について、現在最も有力と認められるのは、高山寺本原撰、流布本へ改編、さらに十卷本への再改編説であるとい(7)。しかも、流布本の成立は、「貞観・元慶期を上限とする九世紀後半である可能性がある」(6)とされる。

上記のうち、嘉祥三、貞観七、元慶四、仁和三の各記事は、実際の地の確定ができていないにしても、いずれも、延暦年中以降、出羽国府は庄内地方の出羽郡井口の地ないし酒田市城輪近傍(飽海郡か)にあったことを示唆する。もし平鹿国府を考えるなら、九世紀前半に見える「河辺府」をとるか、あるいは嘉祥三年の大地震で著しく機能の衰えで、井口国府の「旧府近側高敞之地」への移転までの間に、平鹿郡内のある施設が利用されたとも考えざるを得ない。そのばあいでも、元慶四年(八八〇)の時点ではないことはいうまでもない。

ところで、平鹿郡は流布本では、山川・大井・邑知・山本・塔甲・

表3 出羽国(南半)の郡郷

| 番号 | 郡名 | 郷 | | 名訓 | 盆地 | 平野 | 比定(遺名)地 (*:墨書土器) | 流域 |
|----|----|------|----------|-------|---------|----------------|---------------------|------------------|
| | | 高山寺本 | 流布本 | | | | | |
| 1 | 取上 | ②?郡下 | 那可 | [なか] | 山形(南半) | 須川右岸 | 山形市中野 山形市 | 白川下流 |
| 2 | | 山方 | | やまかた | | | | |
| 3 | | ①取上 | 最上 | もがみ | | | | |
| 4 | | 芳賀 | | はが | | | | |
| 5 | | ②阿蘇 | 阿蘇 | あそ | | | | |
| 6 | | 八木 | | やぎ | | | | |
| 7 | | 山邊 | | やまのべ | | | | |
| 8 | | 福有 | | ふくあり | | | | |
| 9 | 村山 | 大山 | (福岡) | おほやま | 山形(北半) | 最上川左岸 最上川右岸 | 河北町畑中* 寒河江市長岡 | 寒河江川左岸 寒河江川右岸 |
| 10 | | 長岡 | | ながおか | | | | |
| 11 | | ○村山 | | むらやま | | | | |
| 12 | | 大倉 | | おほくら | | | | |
| 13 | | 梁田 | | はりだ | | | | |
| 14 | | 徳有 | | とくふ | | | | |
| 15 | 置賜 | ③取賜 | 置賜 | おいたみ | 米沢 | 川西町置賜山 | 犬川 | |
| 16 | | 廣瀬 | | ひろせ | | | | |
| 17 | | ①屋代 | | やしろ | | | | |
| 18 | | 赤井 | | あかい | | | | |
| 19 | | ②宮城 | | みやぎ | | | | |
| 20 | | 長井 | | ながい | | | | |
| 21 | | 餘戸 | あまるへ | 長井? | | | | |
| 22 | 鮑海 | 大原 | | おほはら | 庄内(北部) | 最上川北岸 | 平田町郡山 遊佐町大物忌神社 | 荒瀬川中流 田沢川右岸 |
| 23 | | ○鮑海 | | あくみ | | | | |
| 24 | | 屋代 | | やしろ | | | | |
| 25 | | 秋田 | | あいた | | | | |
| 26 | | 井手 | | ゐで | | | | |
| 27 | | 遊佐 | | ゆぎ | | | | |
| | | 雄波 | 曰理 餘戸 | ゆうは | 秋田県域 | | | |
| | | 由理 | | ゆり | | | | |
| 28 | 田川 | 田川 | 甘籾 | たがわ | 庄内(南部) | 鶴岡市田川 | 大山(田)川上流 | |
| 29 | | 其弥 | | きび | | | | |
| 30 | | 新屋 | | あらや | | | | |
| 31 | | 那津 | | [なか] | | | | |
| 32 | | 大泉 | | おほいづみ | | | | |
| 33 | 出羽 | ○大窪 | 餘戸 | おほくぼ | 庄内(中央部) | 最上川南岸 | 鶴岡市下清水* 余目町余目 | 藤島川 |
| 34 | | 河邊 | | かわのべ | | | | |
| 35 | | 井上 | | ゐのうえ | | | | |
| 36 | | 大田 | | おほた | | | | |
| 37 | | | | あまるへ | | | | |

| 『大日本地名辞書』の比定 | 駅 家 | 条里遺構 (表4) | 公領・荘園 | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|---|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|
| 〔那可〕：大郷・金井・漆山・長町・山家・風間等 上山～金谷・成沢等 山形市東西・滝山村 天童・成生・蔵増・寺津・山寺 長谷堂・柏倉・村木沢 五百川・大谷・左沢 山辺・大曾根・長崎 〔福岡〕：寒河江・谷地・白岩 | 最上 | 1, 2 3 4, 5, 6 7, 8 9 10, 11, 12 13, 14 | <table border="1"> <tr><td rowspan="2">}</td><td>大山庄</td></tr> <tr><td>成生庄</td></tr> <tr><td></td><td>最上郡</td></tr> <tr><td></td><td>山辺庄</td></tr> <tr><td></td><td>大曾弥庄</td></tr> </table> | } | 大山庄 | 成生庄 | | 最上郡 | | 山辺庄 | | 大曾弥庄 |
| } | 大山庄 | | | | | | | | | | | |
| | 成生庄 | | | | | | | | | | | |
| | 最上郡 | | | | | | | | | | | |
| | 山辺庄 | | | | | | | | | | | |
| | 大曾弥庄 | | | | | | | | | | | |
| 八向・舟形・南山等 尾花沢・大石田・富並の辺 東根・楯岡・大久保・白鳥 小国磐谷・東小国赤倉 〔沼田〕：新庄 真室川西北 | 村山 野後 玉野(大室) 避翼・平戈・佐藝 | 15, 16, 17 18, 19 20 21 | <table border="1"> <tr><td></td><td>村山郡</td></tr> <tr><td></td><td>寒河江庄</td></tr> <tr><td></td><td>小田嶋庄</td></tr> <tr><td rowspan="2">}</td><td>村山郡</td></tr> </table> | | 村山郡 | | 寒河江庄 | | 小田嶋庄 | } | 村山郡 | |
| | 村山郡 | | | | | | | | | | | |
| | 寒河江庄 | | | | | | | | | | | |
| | 小田嶋庄 | | | | | | | | | | | |
| } | 村山郡 | | | | | | | | | | | |
| | 赤湯以西宮内・漆山 豊田・豊原・漆川・豊川・大塚・小松等 高畠南北の諸村 鮎貝・東根・荒砥の諸村 米沢府市・小菅・田沢・窪田・糠之目・洲之島 宮(小出)四辺 小国谷か, 糠之目村か | | 22 | <table border="1"> <tr><td></td><td>置賜郡</td></tr> <tr><td></td><td>成庄</td></tr> <tr><td></td><td>昼代庄</td></tr> <tr><td rowspan="2">}</td><td>北条庄</td></tr> <tr><td>置賜郡</td></tr> </table> | | 置賜郡 | | 成庄 | | 昼代庄 | } | 北条庄 |
| | 置賜郡 | | | | | | | | | | | |
| | 成庄 | | | | | | | | | | | |
| | 昼代庄 | | | | | | | | | | | |
| } | 北条庄 | | | | | | | | | | | |
| | 置賜郡 | | | | | | | | | | | |
| 松嶺・田沢 南平田村・東平田村 吹浦村・高瀬村 中平田・北平田・鶴渡川原・酒田 近世の荒瀬郷 遊佐町・川行・梅田・南遊佐・一郷・西遊佐各村 | 飽海 (白谷)? 遊佐 | 23 | <table border="1"> <tr><td rowspan="2">}</td><td>飽海郡</td></tr> <tr><td>遊佐庄</td></tr> <tr><td rowspan="2">}</td><td>飽海郡</td></tr> <tr><td>遊佐庄</td></tr> </table> | } | 飽海郡 | 遊佐庄 | } | 飽海郡 | 遊佐庄 | | | |
| } | 飽海郡 | | | | | | | | | | | |
| | 遊佐庄 | | | | | | | | | | | |
| } | 飽海郡 | | | | | | | | | | | |
| | 遊佐庄 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 田川・湯田川・大泉・上郷・大山・加茂各村 三瀬・温海・鼠関 黒川・山添 〔那珂〕：後田～手向 鶴岡町・大宝寺・稻生・京田村 | | | <table border="1"> <tr><td rowspan="2">}</td><td>田川郡</td></tr> <tr><td>大泉庄</td></tr> </table> | } | 田川郡 | 大泉庄 | | | | | | |
| } | 田川郡 | | | | | | | | | | | |
| | 大泉庄 | | | | | | | | | | | |
| 藤島左右の平郊 狩川・清川・廻館・前田野目 広野村・新堀村・栄村・袖浦村 栄村・西郷村・東郷村 余目村・常万・八栄里 | 白谷 | | <table border="1"> <tr><td></td><td>大泉庄</td></tr> <tr><td rowspan="2">}</td><td>海辺庄</td></tr> <tr><td>大泉庄</td></tr> <tr><td></td><td>海辺庄</td></tr> </table> | | 大泉庄 | } | 海辺庄 | 大泉庄 | | 海辺庄 | | |
| | 大泉庄 | | | | | | | | | | | |
| } | 海辺庄 | | | | | | | | | | | |
| | 大泉庄 | | | | | | | | | | | |
| | 海辺庄 | | | | | | | | | | | |

△注▽

(1) 加藤 稔「古代出羽国郷名考証—置賜・最上・村山・出羽・田川・鮎海六郡について」『山形南高等学校研究紀要』二三号、五〇—四四頁。一九八二年。「第六章 古代の大石田周辺」『大石田町史』上巻、二四—三三〇頁、一九八三年。「最上川流域の古代社会と文化の推移」『地方史研究』三三卷四号、四〇—三三頁。一九八三年。

(2) 山田英雄「律会成立期の地方問題」『古代の日本』第九巻、研究資料、一一三—一二七頁。一九七一年。

二 出羽国府所在論

『和名抄』流布本巻五の国郡部の冒頭に、

— 出羽国 国府在平鹿郡行程上

四十七日下二十四日 管十一

とあり、さらに郡名記載のところに

— 出羽国府

とある。

『和名抄』の国府記載法は、国名の下に都までの行程などとともに国府所在郡を記すのが一般的である。郡名の下に「国府」と注記するものもあり、薩摩をのぞく西海道六国はこの方式である。ところが、出羽国のはあいは、国名下に「平鹿郡」と記し、郡名下には「出羽」郡のところに国府の記載がある。

国名下に記す平鹿郡は、『和名抄』の誤記であるとする説が古くからある(3)。「和名抄」には出羽の他にも山城・備前・肥後など、国府

の所在郡の記載が二カ所ある例がある。これらについて、木下 良(一九六七)は、

— 国名下の註記を郡名下の註とは別に考える必要があるようで、併記の場合、郡名下の国府が旧、国名下のそれが新と考えることができよう。

とした(4)。

とすると、出羽国府は、はじめ出羽郡内にあり、後『和名抄』作成の資料集成のころには平鹿郡内にあったということになる。その時期は、何時か。弥永貞三(一九七七)は、

— 私は山城・出羽・備前の三国の事例からみて、川本肩書法(流布本国名下注)の成立時期は貞観・元慶期を上限とする九世紀後半である可能性があるという見通しを記しておきたい。したがってそれは『和名抄』の成立以前に属し、源 順によって原撰本に記入されたと考えてさしつかえないものと思われる。後人の追補ではないのである(5)。

という。

この視点に立って、出羽国府関係の記事を整理してみる。

和銅元(七〇八)年 越後国に出羽郡が新置される。

和銅二(七〇九)年 陸奥・越後二国の蝦夷が屢々良氏を害すため、

巨勢朝臣麻呂を陸奥鎮東將軍に、佐伯宿弥石湯を征越後蝦夷將軍に起用。さらに諸国をして兵器を出羽柵に運送せしめる。

和銅五(七二二)年 出羽国を置き、最上・置賜二郡を陸奥国から割

き出羽に隸わしめる。

天平五(七三三)年 出羽柵は秋田村高清水岡に遷置される。

表2 古代出羽の郡・郷名 高山寺本と流布本記載郷名の対比

| 高山寺本 | | | | | | | 流布本 | | | | | | |
|--------|----------|----------|----|----|----|----|--------|----------------|----------------|----------|----------|----------|----------|
| 郡名 | 郷名 | | | | | | 郡名 | 郷名 | | | | | |
| 取上 | 郡下 山邊 | 山方 福有 | 取上 | 芳賀 | 阿蘇 | 八木 | 最上 | 郡可 山邊 大山 | 山方 福有 福岡 | 最上 梁田 | 芳賀 大倉 | 阿蘇 村山 | 八木 長岡 |
| 村山 | 大山 | 長岡 | 村山 | 大倉 | 梁田 | 徳有 | 村山 | 大山 | 長岡 | 村山 | 大倉 | 梁田 | 徳有 |
| 取賜 | 取賜 | 廣瀬 | 屋代 | 赤井 | 宮城 | 長井 | 置賜 | 置賜 餘戸 | 廣瀬 | 屋代 | 赤井 | 宮城 | 長井 |
| 雄勝 | 雄勝 | 本津 | 中村 | | | | 雄勝 | 雄勝 | 大津 | 中村 | 餘戸 | | |
| (記載なし) | | | | | | | 平鹿 | 山川 鎰刀 | 大井 餘戸 | 邑知 | 山本 | 塔甲 | 御船 |
| 山本 | 山川 | 大井 | 邑加 | 山本 | 御船 | 鎰刀 | (記載なし) | | | | | | |
| 鮑海 | 大原 雄波 | 鮑海 由理 | 屋代 | 秋田 | 井手 | 遊佐 | 鮑海 | 大原 雄波 | 鮑海 日理 | 屋代 餘戸 | 秋田 | 井手 | 遊佐 |
| 河邊 | 川合 荇泉 | 中山 | 邑知 | 田郡 | 大泉 | 稻城 | 河邊 | 川合 荇泉 | 中山 餘戸 | 邑知 | 田郡 | 大泉 | 稻城 |
| 田川 | 田川 | 其弥 | 新家 | 那津 | 大泉 | | 田川 | 田川 | 甘禰 | 新家 | 那津 | 大泉 | |
| 出羽 | 大窪 | 河邊 | 井上 | 大田 | | | 出羽 | 大窪 | 河邊 | 井上 | 大田 | 餘戸 | |
| 秋田 | 添川 | 率浦 | 方上 | 成相 | 高泉 | | 秋田 | 添川 | 率浦 | 方上 | 成相 | 高泉 | |

上で都に最も近い最上郡からいわゆる「山道駅路」順に並ぶ。交通路上で都から来たばあいの最初の郡は最上郡である。つぎの村山郡は最上の分郡だからであろう。置賜郡は、最上郡と並び大化直後の建郡のためだろう。雄勝郡以下は、多賀柵から秋田の出羽柵へのいわゆる山道駅路順に、かつ建郡と分郡の順という配列である。

さらに(四)(七)の郡は、旧北陸道分の延長線の部分として後半にくる。鮑海・河邊の二郡は村山郡からのいわゆる「水道駅路」順だが、同時に河邊郡は鮑海郡からの分郡の故でもあろう。この終着の秋田郡との間に、田川・出羽の二郡が入るのは、水道駅路からの脇道ということか。ただし、その順序は、鮑海郡からの近遠ではなく、かつての北陸道の延長上で南からの順になる。そして、これら鮑海・田川の二郡の出羽郡からの分郡が古いことも考慮する必要がある。最後の(七)の秋田郡は都から最も遠い郡である。地理的に不規則ないし不連続の出羽郡の郡の配列順も、一応は都からの交通路沿いの順序を基礎とした配列としてよからう。

山田英雄(一九七二)は、現在の「風土記」、「延喜(民部)式」、「和名抄」の郡記載の順序は、全国的にほとんど大差なく、出羽国については、「国中最も都に近い郡、または交通路上で都よりきたばあいの最初の郡より始まる」ものの、国内の郷は「連続しない、または不規則な」配列をしている、とした(2)。

これらの郡のうち、南半の現山形県域に属する郷の大略の位置については、二・三の機会に考案したことがある。簡便に表化しておく(表3)。

これを『和名抄』『高山寺本』巻七で見ると、平鹿郡を脱し一〇郡となつてゐる。また『和名抄』『流布本』巻五には一一郡あるのに、同書巻七には一〇郡しかあげてない。山本郡の名を逸しているのである。高山寺本と流布本巻七の相違を明らかにするために、両者の郡郷名記載の対比表をつくってみる(表2)。

高山寺本の山本郡内の六つの郷名は、流布本の平鹿郡の郷名と一致する。流布本の平鹿郡に塔甲郷と餘戸が加わる。高山寺本の山本郡内

の郷、流布本の平鹿郡内の郷はそれぞれ二分されて、平鹿郡もしくは山本郡に属すべきものである。吉田東伍『大日本地名辞書』(一九〇一〇七年、以下『地名辞書』と記す)は、平鹿郡に山川・大井・邑加の三郷を、山本郡に山本・塔甲・御船・鎰刀の四郷と餘戸を編入すべきだとしてゐる。

さて、平安期出羽国一一郡の記載順は、つぎのようになるうか(十で表示したのは分郡である。なお、以下、取↓最、邊↓辺とする。)

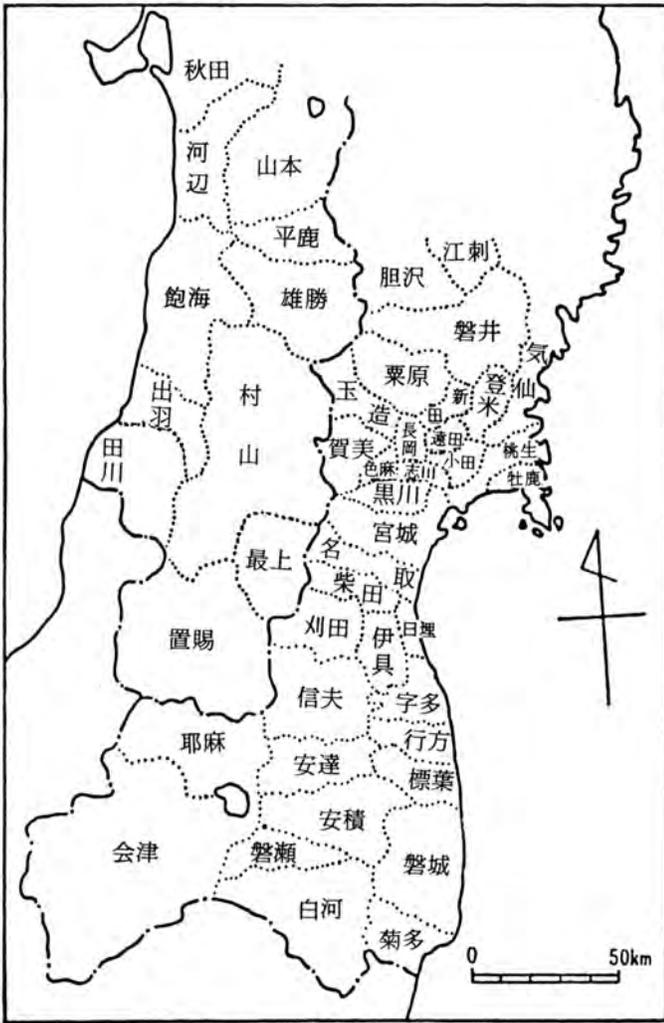


図1 東北の郡

- (一) 最上十村山郡
 - (二) 置賜郡
 - (三) 雄勝十平鹿十山本郡
 - (四) 鮑海十河辺郡
 - (五) 田川郡
 - (六) 出羽郡
 - (七) 秋田郡
 - (八) (三)の郡は、内陸盆地別を範囲とし、(四) (七)の郡は海岸平野をその範囲とする。
 - (九) (一) (四) (六)の郡が、「出羽十田川十「鮑海十河辺」郡」かもしくは「出羽十「鮑海十河辺」十田川郡」の順になつてないのは、鮑海郡と田川郡の成立が、文献上初出の承和六(七(八三九〜四〇)年よりもはるか以前、おそらく出羽建国直後だからと推測する。
- そして、(一) (二)の郡の順序は、交通路

古代出羽国に関する二、三の問題

はしがき

源順 みなもとのしげゆき

(九二一〜九八三)は、延長第四公主すなわち醍醐天皇第四皇女勤子内親王(九〇四〜九三八)の命をうけて、『和名類聚抄』(以下『和名抄』という)を選述した。承平年中(九三二〜九三八)の編とされる。『和名抄』は、九世紀末の国郡制の実態を知ることのできる文献である。二・三の機会に、現在最古の写本と目される「高山寺本」(現天理図書館蔵。『古簡集影』所収)によって、出羽国郡郷について考察したことがある⁽¹⁾。これに関して若干の補訂を行なうのが本稿の目的である。

一 平安期の出羽国の郡

和銅五(七二二)年に成立した出羽国は、最上川流域を基盤とし、次第に雄物川流域をその領域に組み込んでいった。九世紀後半に、東山道出羽国管下にあった郡は、『延喜式』(九二七年奏進)巻二民部上によると、つぎの十一郡である。

- 最上 モカミ 村山 ムラヤマ 置賜 オキタム 雄勝 オウカチ 平鹿 ヒラカ 山本 ヤマモト 飽海 アケミ 河邊 カワノヘ 田川 タカワ 出羽 イデハ
- 秋田 アキタ

それぞれの郡の文献上の初見を一覧表にしてみる(表1)(図1)。

表1 古代出羽国の郡名と初出一覧

| 年号 | 西暦 | 郡名 | 備考 | 典拠 |
|-----------|-----|------------|-----|--------------------|
| 持統天皇3 | 689 | 優嗜曇郡(置賜郡か) | 陸奥国 | 紀3, 正月丙辰。 |
| 和銅元 | 708 | 出羽郡 | 越後国 | 統紀, 9月丙戌。建郡。 |
| " 5 | 712 | 最上郡 | 陸奥国 | 統紀, 10月朔。 |
| " 5 | " | 置賜郡 | " | 統紀, 10月朔。 |
| (このころ以前か) | | 裳上郡(最上郡) | " | 平城京出土木簡。 |
| 天平5 | 733 | 雄勝郡 | 出羽国 | 統紀, 12月26日。建郡。 |
| 天平宝字3 | 759 | 平鹿郡 | " | 統紀, 9月26日。雄勝から分郡。 |
| 延暦23 | 804 | 秋田郡 | " | 後紀, 11月22日。城制から郡制。 |
| 承和6 | 839 | 田川郡 | " | 統後紀, 10月乙丙。 |
| " 7 | 840 | 飽海郡 | " | 統後紀, 7月己亥。 |
| " 10 | 843 | 河邊郡 | " | 統後記, 12月1日。 |
| 貞観12 | 870 | 山本郡 | " | 三実, 12月8日。 |
| 仁和2 | 886 | 村山郡 | " | 三実, 11月11日。最上から分郡。 |

加藤 稔

主な参考文献

- 『山形県史』第二巻
山形県 昭和60
- 『山形県史』(古代・中世史料)
山形県 昭和54
- 『山形市史』上巻(原始・古代・中世編)
山形市 昭和48
- 『山形市史』中巻(近世編)
山形市 昭和46
- 『山形市史』(史料編1 最上氏関係資料)
山形市 昭和48
- 『天童市史』上巻(原始・古代・中世編)
天童市 昭和56
- 『天童市史編集資料』1号・2号
天童市 昭和50
- 『天童市史編集資料』7号
天童市 昭和52
- 『高掬郷土史』
高掬村 昭和30
- 『山辺町郷土概史』
山辺町 昭和45
- 『大日本地名辞書』
吉田東伍著 富山房 明治39
- 『角川日本地名大辞典』(山形県)
角川書店 昭和56
- 『山形県内に於ける古城址の研究』
山形県中央図書館 昭和16
- 『最上四十八館の研究』
丸山茂著 歴史図書館 昭和53
- 『出羽諸城の研究』
沼館愛三編 伊吉書院 昭和55
- 『最上時代山形城下絵図』
高橋信敬著 誌趣会 昭和49
- 『日本城郭大系』(山形・宮城・福島編)
新人物往来社 昭和56
- 『日本の古城』
藤崎定久著 新人物往来社 昭和52

研究により、村落単位の小領主層の歴史が明らかにされつつあることは喜ばしいかぎりである。

本稿は、主として最上氏、伊達氏関係資料及び地元の社寺記録をもとに、高揃城の興亡について、最上一族の分封にはじまる高揃館の築成から、最上氏の改易による廃城にいたるまでの過程を、通説及び地元伝承に対する疑問に、筆者の見解を加え通史的に考察した。なお、廃城後の城跡の状況についても、高揃城の一つの記録として、秋元館林藩の陣屋を中心に若干考察してみた。

最上氏が最上・村山郡にその支配権力を伸ばすため、二代直家の庶子を各地に分封したが、四男義直の分封地のみが、各最上氏系図で異なっている。参考のため義直関係部分を抜すいで掲載した。

「高揃」と「高揃」との混同について、高揃義直の末裔といわれる高揃遠江守に関しては、時間的な制約から、山辺町正福寺の記録（山辺町郷土概史）所収）を引用しただけにとどまり、今後さらに調査の上、検討する必要があると思う。

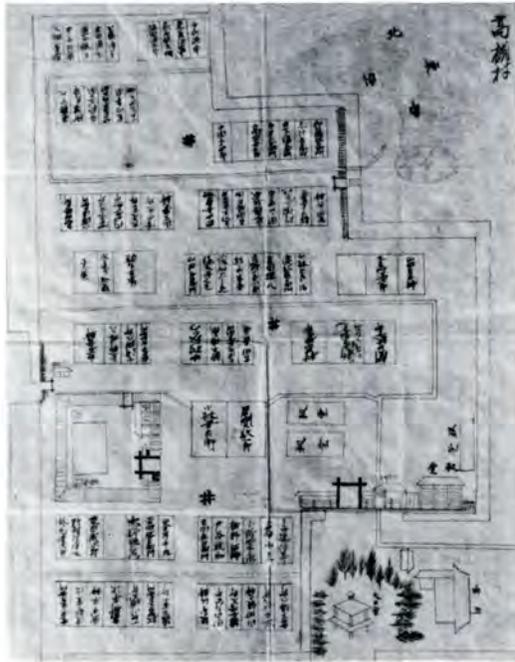
高揃城が方形館から本格的な城郭に整備された時期を考える上で、一般的に願行寺所蔵の『願正御坊縁起』が引用される。この縁起は後世の天和元年（一六八一）に作成されたもので、記録の中には若干年代的な錯誤もあるが、最上義光が最上川の舟運を開いた記録など、中世後期から近世初期にかけて、周辺社会の動静を窺い知ることのできる史料でもある。ただ天文から天正十二年天童城落城までの高揃城主を、『高揃郷土史』は願行書文書を根拠として中山市郎としているが、本文でも述べたように、山寺日枝神社棟札及び天正二年の最上一族の内紛時の高揃氏の動きからして、最上義守または中野氏に近い一

族ではなかったのかと考えられる。

天正十四年最上義光が、山寺立石寺に「高揃小僧丸」の施主名で油田料を寄進した寄進状からして、最上一族内紛のとき、一時義光が高揃城に幽閉された説があるが、天正十七年谷地白鳥家遺臣の青木氏に発給した安堵状にも、「谷地小僧丸」と義光が署名しており、義光の高揃城幽閉説を裏付ける根本史料も発見されていないので、本稿では取り上げなかった。

現在高揃城の遺構は、畑や宅地となり痕跡を止めないまでに変ぼうし、方形の集落と町並みだけが小城下町の面影を残しているにすぎない。昭和二十二年筆者が二の堀の実測を実施した当時は、四方の堀に水がたたえられ、昔をしのぶ城跡の面影があった。堀は地区の共有財産であったので、一か所だけでも城跡公園のような形で保存し、後世に継承していく必要があったが、生活様式の変化から汚水が流れこみ、地区民の健康上の問題からすべての堀が埋立られてしまったことは残念である。

最後に、本稿を草するについて、願行寺住職菅生芸宣氏からは、『願正御坊縁起』にかかわる御教示と写真撮影の機会を与えていただき、仙台市立博物館からは、伊達家関係資料の調査と写真撮影を許していただいた。記して深く感謝の意を表したい。また、県立博物館尾形興典学芸員からは、写真資料の整備等において多大のお骨折りをいただき、厚くお礼を申し上げます。



高擯陣屋敷の絵図

ておったが、下級藩士の住んだ七軒長屋の一百分は、七帖半、四帖半、三帖の三間のみであった。

廃城後の堀跡は、二の堀を除いて苗代や埋立られて畑地化した。二の堀は、前記天保九年（一八三八）の『高擯村明細指出帳』にあるように、水田の用水池として利用され、村持財産として管理してきた。さらに、嘉永七年（一八五四）『南高擯村名主御用書留帳』（天童市高

佐藤兵三右エ門氏所蔵「天童市史編集資料（第七号）所収）には、

覚

高擯詰メ

一人足三百人

内持具 百人 鎌耆丁ツ、

南高擯村

百人 鍛耆丁ツ、
百人 下もっこ五十棒とも
(中略)

右は両御陣屋敷外御堀掃除被仰出候間、前割賦之通村々人足持具持参組頭老人相添来ル廿二日明ヶ六ツ時当着ニ相成候様、御取斗御差出可被成候。尤格別之雨天ニモ相成候ハ、翌廿三日差越可申候。此段御承知差支無之御差出可被成候。以上

七月十四日

漆山

大庄屋

と、漆山陣屋と高擯御屋敷廻り外堀の堀濠いと掃除をするため、南高擯村をはじめ南・北蔵増村・本楯村に約四〇〇人の人足を割当したことが記録されている。

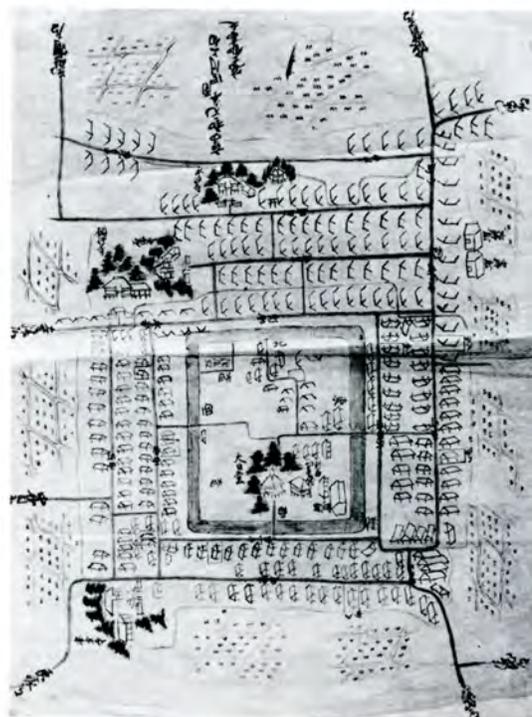
旧高擯城二の堀跡は、このように村の人々によって大切に管理され、明治以後も大字高擯有財産として引き継がれてきたが、戦後の急速な経済成長にともない住民の生活様式も変化し、地区民の健康上の問題、土地改良事業等により用水池の機能も失ったので、昭和三十四年堀に隣接する人々へ譲渡され、あるいは公共施設等に利用されて、今日ではすべての堀跡は埋立られ畑や宅地となってしまった。

五、おわりに

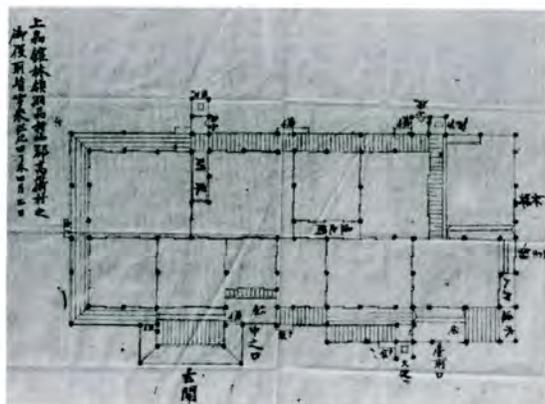
従来、村山地方におけるこの時代の歴史は、斯波（最上）氏、大江（寒河江）氏、天童氏などの有力な領主を中心に語られ、庶族や村落の主であった国人（地侍）衆などの弱小の領主層については、まだよく解明されていない。しかし、近年各市町村史編さん事業や地方史

ち並び、北西の角に高畠織田藩のものと思われる陣屋が見える。

その後弘化三年（一八四五）二の丸跡西方に、秋元藩の陣屋と家中屋敷が置かれたが、このことについて若干詳しく考察してみたい。秋元藩は武州川越から六万石で山形に転封され、明和四年（一七六七）から弘化二年（一八四五）上州館林に転封するまで七十八年間四代にわたって山形城に在城したが、館林転封後も四万六千石余を羽州領として引き続き支配することになった。弘化三年（一八四五）これらの飛地領を支配するため、漆山と高揃に陣屋を設置し、漆山陣屋では公事裁判業務、高揃陣屋では貢租収納業務を行った。しかし業務が二分しているため、領内の村々からその統合を望む声がおこり、嘉永二年（一八四九）羽州街道に接し諸事便利な点から漆山に統一され、設置されてからわ



享和元年（1801）の村絵図



高揃陣屋御役所間取図

ずか四年で高揃陣屋は廃止された。高揃陣屋御役所は、江戸末期に作成された高揃陣屋敷図（山形市漆山片桐健吉氏所蔵）によると、皇太神社北側の表門をくぐり西に進んだ所に、板塀に囲まれ東に面して建てられていた。その規模は、高揃陣屋御役所間取図（筆者所蔵）によると、梁間五間半、桁

木造平屋建で、部屋数は一五帖二間、一〇帖二間、八帖三間、六帖、四帖半各一間あって、北西の角に一二帖程度の訴所があった。この建物は、陣屋廃止後は藩士の子弟や領内の好学の士のための郷学校（御屋敷学問所）として利用された。

また秋元藩は、陣屋廃止後、高揃の地は米産地で本領の館林より米価が安く、家臣を養うために条件が良いとの理由から、二の丸跡の西半分に家中屋敷を建て、無役の藩士を移住させた。これらの家中衆は家族を含めて三百人前後で、明治維新の廃藩置県になるまで居住した。この家中屋敷の建物は、二軒長屋から八軒長屋まで一六棟あって、当時の平面図（天童市高揃細谷亀一氏所蔵）によると、上級藩士の二軒長屋は、一百分で十帖、八帖、七帖、六帖、四帖半、三帖の六間からなっ

(四) 最上氏の改易と高擡城

最上氏は義光の時代に飛躍的に伸びたものの、降伏した一族や国人衆らはそのまま地方領主となり領国体制が未熟で、義光という偉大な人物によって辛うじて統一が保たれていたが、慶長十九年(一六一四)義光の死とともに、最上氏内部に派閥抗争が表面化してきた。

義光の後は、家親が宗家を継いだのが元和三年(一六一七)変死し、家親の子家信(義俊)が家督を相続した。しかし山野辺義忠(家信の叔父)を藩主にしようとする一派との抗争が激しくなり、江戸幕府の外様大名取潰し策に口実を与え、元和八年(一六二二)東北の雄藩であった最上氏は改易されて、三河と近江の両国の内わずか一万石(後に五千石)の大名として転封させられた。

江戸幕府は、山形城を本多上野介正純、永井右近直勝の兩人に命じて直接接收したが、最上領内の諸城は、周辺の有力大名に命じて接收させた。高擡城は『伊達家文書』によれば、

脇々城被相渡覚之事

一、上之山ノ城

米沢衆

但、上山兵部居城也知行三万石

一、長谷堂ノ城

同

但、坂紀伊守居城也、兵部親也

一、山野辺ノ城

同

但、山野へ右衛門殿居城 壹万七千石

一、八沢

同

右御内人知行

一、高玉之城

同

齋藤伊予守居城 知行五千石
右以上五ヶ所

とあって、米沢上杉藩が接收を担当している。

改易の後最上領内の各城主は、追放もしくは水戸藩、長州藩等の諸大名に預けられたが、当時高擡城主であった齋藤伊予守については記録が無く、その消息や行末は全く不明である。

(五) 廢城後の高擡城跡

高擡城は最上氏の改易とともに接收破棄され、その翌年の元和九年(一六二二)に実施された検地帳で、本丸の状況を見ると、中畑は二筆三畝一四歩、当荒畑は一筆六反一畝二〇歩で、この合計面積は六反五畝四歩であった。また、二の丸である「ほりの内」の状況は、上畑は六筆五反七畝四歩、中畑は一二筆一町二畝一七歩、下畑は三筆一反二畝一八歩、荒地は三筆二反三畝二九歩で、この合計面積は一町九反六畝八歩であった。最上氏改易の翌年でこのように、全て畑地と荒地化している状態について、『天童市史(上巻)』では、「高擡城はそれ以前から城の機能を失っていたのではないかと考察している。この本丸・二の丸の畑地の名請人に、右馬助・出雲・将監・縫殿助などの家臣と思われる名も見えることから、おそらく前記したように最後の城主である齋藤伊予守は、山形城勤番となり山形の下屋敷に居住し、高擡城は名目上の知行地で、城内はすでに城の機能を失い、家臣たちにより畑地として耕作されていたものと考えられる。

江戸後期になると、享保元年(一八〇一)の村絵図(天童市高擡佐藤兵三右工門氏所蔵)によると、本丸・二の丸跡に二〇戸ばかりの人家が立

(三) 高揃城下の形成

現今の高揃の道路や町割をみると、城を中心にそれを囲むように東西及び南北に道路が整備され、東・南・西の一番外側と城の北方に町屋が設けられ方形に形づくられている。しかも道路は軍路上見通しがないような種々の工夫がなされ、図3のとおりT字路が一九か所、鍵形路が三か所、喰違路が八か所、屈曲路が五か所もあり、四方の見通しがきく十字路は見られないのである。

寺院の配置についても軍路上十分考慮され、灰塚口に安楽寺、寺津口に願行寺・石佛寺、蔵増口に永願寺・太子堂（現在の河上神社）、を



図3 高揃城下の寺院の配置と街路

配置し、城の東北方鬼門に当たる場所には、元和検地帳で見ると四反六畝一二歩の城下最大の境内地をもつ長源院があつて、城下に通じる街道入口を防備し、城の枢要地には大日堂（現在の皇太神社）があつた。

元和検地帳で城下町の構成をみると、別表のとおりで、すでに今日と同じ町並みが存在し、屋敷数は二八三軒を数え、その大部分が城外であつた新町・十日町・東町・西町・南町に集中している。これら住民の日常生活品その他の需給にこたえるため市日商

業もおこり、十日町では毎日十日市が立ったようである。また同検地帳の名請人の中に、越中・丹波・縫殿助・主殿・掃部助・右馬助・主計・大学・若狭・将監・右京・蔵人・左馬助等の武士名が見え、最上氏改易後も高揃城の旧家臣たちは、そのまま帰農土着したため、後々まで小城下町の形態をとどめることになつたのであろう。

元和9年(1623)高揃の屋敷数

| 町名 | 屋敷数 | 町名 | 屋敷数 |
|--------|-----|---------|-----|
| いんしゅてん | 4 | 西 た て | 16 |
| 新 町 | 56 | ひ が し 町 | 49 |
| 十 日 町 | 55 | 西 町 | 40 |
| 水 ノ て | 14 | 南 町 | 39 |
| 北のほりはた | 10 | 計 | 283 |

備考 「元和九年東山道出羽国最上之郡清池郷高揃村御縄帳」による屋敷数



⑤ 新町 T 字路



⑥ 六軒町「門地跡」



⑦ 樋ノ口喰違い路



⑧ 南町屈曲路



⑨ 西橋（西口）喰違い路



⑩ 西橋（北口）喰違い路



① ニの堀跡（昭和40年代）



② 西橋堀跡（昭和54年）

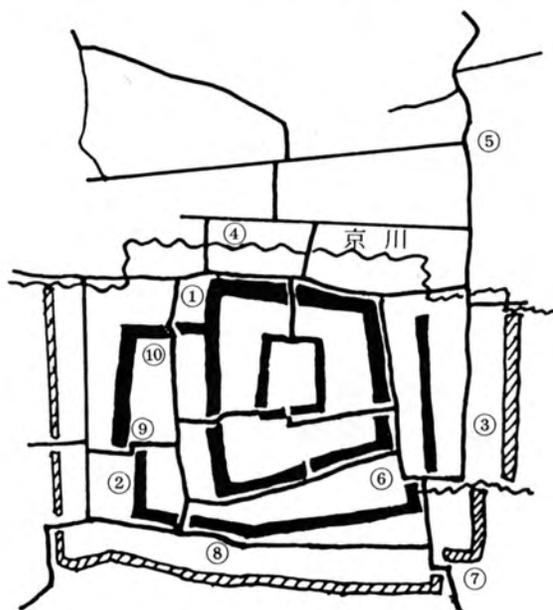


図2 高揃城域概念図

（図中の番号と写真の番号は対応する）



③ 四の堀跡（昭和54年）



④ 京川の現況

| | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| 長四拾三間 | 壹ヶ所 | 長七拾八間 | 壹ヶ所 |
| 横六間三尺 | | 横 拾間 | |
| 長三拾間 | 壹ヶ所 | 長八拾貳間 | 壹ヶ所 |
| 横拾貳間 | | 横 九間 | |
| 長七拾壹間 | 壹ヶ所 | | |
| 横六間三尺 | | | |

とあって、宅地に埋立てられた分や道路部分を除いて、二の堀の延長は四二六間あった。文政八年（一八二五）からは堀の両縁り九尺通りが泥揚地として御繩御免となり、古堀とともに村の責任のもとに管理され、堀水は二〇町歩ほどの水田の用水に利用されていた。虎口は東西南北の四ヶ所にあつて、東側の楯之内公民館附近が大手口で、西楯に隣接する西口が搦手口であつたと考えられる。城壁は石垣を用いた形跡はなくすべて土居作りで、土塁は消滅して不明だが、昭和二十二年に測定した調査結果では、堀の水面から二の丸の地表面まで北・東面は三〇四尺、南・西面は五〇六尺の高さがあり、堀の深さは一定ではないが三尺程度であつた。

二の丸の西側は一つの曲輪になつて西楯と呼ばれておつた。おそらくこの曲輪一帯に高楯城の中級家臣が住んでいたのであろう。西楯から城外への出入口は北・西・南の三ヶ所があり、特に北口と西口は堀が大きくずれており、現在ではカーブになっているが当時は喰違いの出入口であつたことが推定される。西側の堀跡は近年まで苗代として使用され、その規模は長さがおよそ七五間、幅が七間程度ある。

三の丸は、二の丸の東側と南側の六軒町・中小路一帯で、近年までの苗代位置や明治七年の地籍図等から推定して、城外である東町と南

町の間に幅七間程度の堀があつたと考えられ、城外への出入口は北と東にあつて、東口は喰違いの堀を利用して巧妙に作られている。この東口を入つた一帯に「門地跡」という古い地名があり、地藏堂のほか中世後期の板碑が二基残っている。記録や伝承がないので不明であるが、元和検地帳に名が残っていないことから、おそらく中世後期まで寺院があつて高楯城が拡張されたとき、他に移転または廃寺になつたのではないかと思われる。二の丸の北側は堀のあつた形跡はないが、北方の京川をもって堀の代用にしたと考えられる。なお二の堀の北東角に、退路のための切石が堀底に敷かれておつた。

この西楯及び三の丸の外側にさらに四の堀があつた形跡がある。現在は埋立てられてその痕跡は若干しか残っていないが、昭和二十年代まで高楯の集落の東・南・西の三方を囲むように、幅六〇七間程度で相当の深さをもつ苗代が連続しており、地元の伝承では堀跡といわれている。城下町全体をこのように郭内に組みこむ惣構の例は、小田原などで代表されるように戦国期に多くみられる。おそらく南方の伊達氏、山形最上氏の侵攻に備えて構築したものとも考えられるが、まだ疑問の余地があり、発掘調査等により遺構の確認など今後の調査研究をまたなければならぬ。

図1 高揃城遺構図

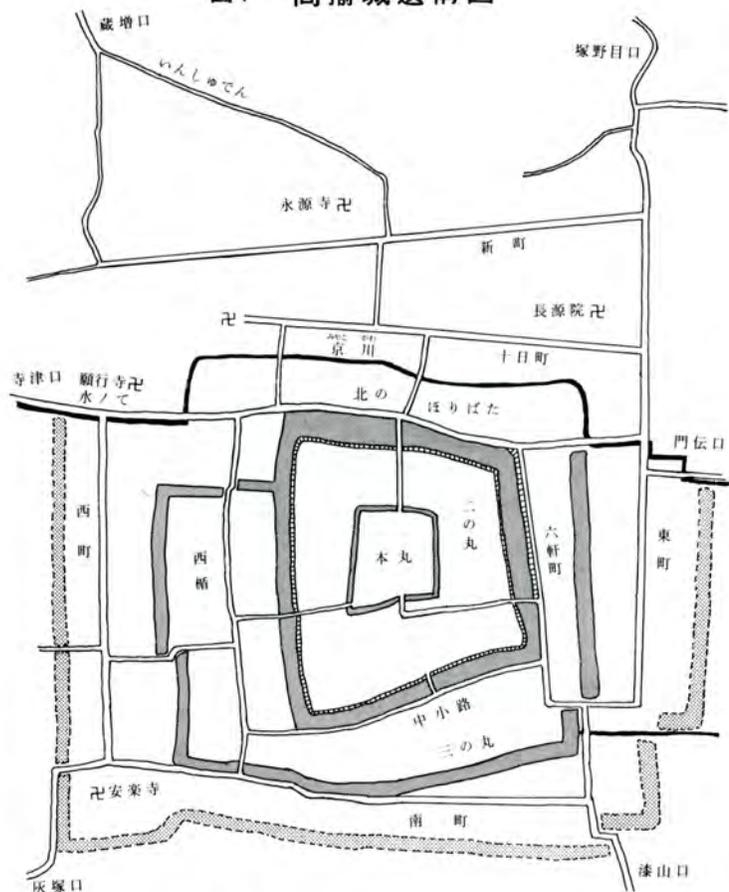


表2 高揃城の規模 (単位:間)

| 名称 | 規模 | 東 | 西 | 南 | 北 | 摘要 |
|-----|----|-------|-----|-----|-------|-----------------|
| 本丸 | 規模 | 50 | 53 | 45 | 40 | 推定 |
| | 堀幅 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 二の丸 | 規模 | 121 | 169 | 125 | 111 | 実測と明治7年の地籍図による。 |
| | 堀幅 | 8~10 | 7~9 | 6~8 | 10~14 | |
| 三の丸 | 規模 | 168 | 175 | 198 | | 明治7年の地籍図による。 |
| | 堀幅 | 約6~10 | | | | |
| 四の丸 | 規模 | 230 | 265 | 300 | | 推定 |
| | 堀幅 | 約7~10 | | | | |

二四筆で合計して一町九反六畝八歩の面積があり、検地棹のいらなかったと思われる荒地等を含めると、およそ七、五〇〇坪の広さがあったと推測される。四面の長さは 表2「高揃城の規模」のとおりで、南北にやや長い梯形をしている。堀の幅は六間から広い部分で一四間あって、この二の堀の規模について天保九年(一八三八)の『高揃村明細指出帳』(『天童市史編集資料』第2号所収)によれば、

一、古掘七ヶ所 是ハ古館跡、館主斎藤伊予ト申伝候、此掘跡文政八酉年御検地之節、掘之両縁リ九尺通為泥揚地下御縄御免ニ相成、但西浦式拾丁歩程之用水ニ罷成候

内
 長五拾間
 横 六間
 七ヶ所
 長七拾式間
 横七間三尺
 七ヶ所

基本はすでにこの時期に完成し、元和元年(一六一五)江戸幕府が一国一城令を発し、領内に散在する支城の破棄を命じていることから、最上氏時代には格別の整備が行われなかったのではないかと考えられる。高楯城はこのように室町後期の縄張りを基本に、本丸を中心に三重の堀をもつ輪郭式の城郭として整備されている。この形式の城は近郷では、山形城をはじめ蔵増城、長瀬城、寒河江城、溝延城等に見られ、自然の天険を利用されない城としては、防備上理想的な形式といえよう。

元和九年(一六二二)最上改易後に、鳥居忠政が二十四万石を領して福島県平より山形に入部し、領内の総検地を実施した。高楯城の本丸跡について、そのときの検地帳(東山道出羽国最上之郡清池郷高楯村御繩帳)によれば、

| | | |
|-----|-------|------|
| 六間 | 本丸 | 東口 |
| 十四間 | 中畑 | 右馬助 |
| 世七間 | 同 | |
| 五十間 | 当荒畑 | ぬしなし |
| | (後)下々 | |
| 四間 | 本丸 | 十日町 |
| 五間 | 中畑 | 右馬助 |
| | 廿歩 | |
| | (後)荒 | |

とあって、「本丸」跡の地は主に荒畑となり、その合計面積は六反五畝四歩である。この元和検地では、六尺五寸(一・九七m)平方をもって一步(一坪)とし、三〇〇歩一反の制をとっているもので、今日の尺貫法に換算するとおよそ二、二九〇坪の広さがあった。本丸の位置は、

明和四年(一七六七)の村絵図や明治七年の地籍図(筆者所蔵)及び昭和初期までの苗代、泥揚地等から推測して、楯之内のほぼ中央部にあって、およそ東西四五間、南北五〇間の規模で、その周囲には幅一間程度の堀がめぐらされていたと考えられる。虎口は確認できないが江戸時代の道路位置から想定して、南・西・北の三か所にあったと思われる。

本丸に相当する部分を、同時代の村山盆地に散在する城郭と比較すると、表1(『山形市史』(原始・古代・中世編)所収)でも知られるとおり大同小異で、みな山形城の本丸とほぼ同じくらいの面積をもっていた。このうち平城の場合、正平年間(一三四六〜一三六九)から応永年間(一三九四〜一四二七)にかけて築かれた居館(方形館)が、その後の本丸として使用された例が多いといわれ、当初の最上氏の居館

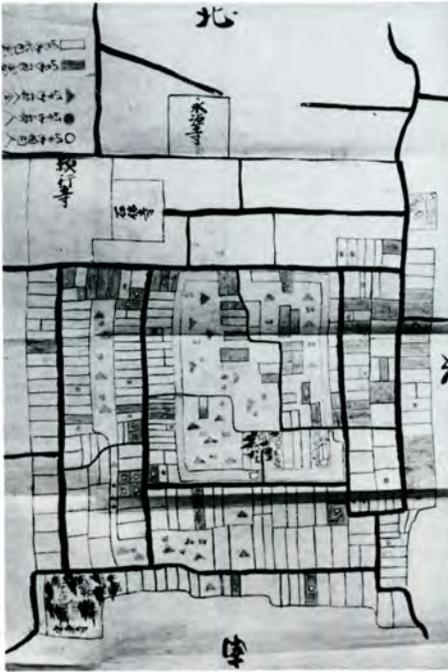
表1 村山盆地の城郭の規模

| 城名 | 本丸 | | 二の丸 | |
|-----|------|------|------|------|
| | 東西 | 南北 | 東西 | 南北 |
| 山上 | 78間 | 73間 | 243間 | 261間 |
| 長谷 | 60" | 80" | | |
| 山堂 | 45" | 55" | 172" | 282" |
| 山辺 | 40" | 56" | 116" | 180" |
| 長崎 | 60" | 45" | 250" | 150" |
| 本館 | 100" | 80" | | |
| 寒河江 | 60" | 85" | | |
| 蔵増 | 100" | 120" | | |
| 長瀬 | 47" | 70" | | |
| 東根 | 47" | 70" | 120" | 180" |
| 溝延 | 43" | 20" | 120" | 100" |
| 谷地 | 60" | 85" | 60" | 132" |

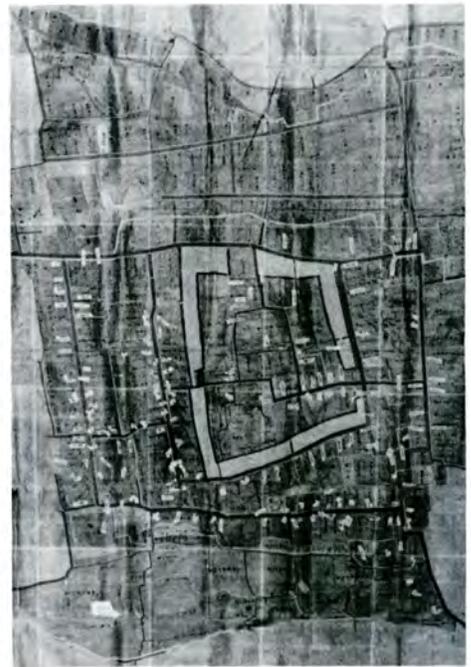
は、他の庶族や国人衆の居館と大差がなかったであろう。二の丸は、本丸部分を除いた字楯之内全域で、元和検地帳では「ほり内」となっており、屋敷は一筆もなく畑と荒地になっている。筆数は

交替の一時期、高揃城主になったとも考えられないこともないが、詳雲寺文書以外に記録がないので断言できない。

高揃城主としての宮崎内蔵丞の事蹟については不明であるが、斎藤伊予守は、山形城の蔵米の買却や最上川の開きく工事等の文書にしばしば名を連ね、『最上氏分限帳』（武田本）等に「大閣より預りの人」とあることからして、おそらく単なる武将ではなく理財に長じた行政官的な人物で、義光が豊臣秀吉に懇請して家臣としたのではないかと考えられる。また、最上氏時代の山形城下絵図によると、伊予守の屋敷は現在の宮町慈光寺の南にあって、元和八年（一六二二）最上氏改易の際、江戸表の藩主家信から城地接収の幕府の上使に山形城を相渡すよう伊予守外三名に宛てた書状などもあり、高揃城よりはむしろ山形城に勤番することが多く、伊予守の知行高が『最上源五郎様時代分限帳』では高五千五百石とあるが、高揃城接収時の記録である『伊達家文書』



明和4年(1767)南高揃村絵図



明治7年高揃の地籍図

（仙台市立博物館所蔵）には五千石とあることからして、五百石は山形城における役料ではなかったかと考えられる。

次に高揃城の軍役であるが、最上氏時代の軍役の基準は、高千石で馬上二騎、鉄炮五挺、弓一張、鎗十二本の割合となっており、改易時の高揃城の石高は五千石で、これから推定すると馬上十騎、鉄炮二十五挺、弓五張、鎗六十本と戦闘要員は百人で、扶持方小人衆などを入れるとおよそ百五十人程度の家臣がおったものと考えられる。

（二）高揃城の縄張り

高揃城は第三節でも記したように、東・南・西の三面を非常に重視して構築している。これは明らかに永正の乱における山形・伊達軍に對して、さらに、最上一族内紛に際して山形最上義光軍の侵攻に備えて、遂次整備補強されていった結果であり、今日遺存している城跡の



高楯城跡の記念碑

とある。これによると東根氏と留守政景は懇意の間柄であったようで、東根が天童と一味して義光に敵対する以上、これを退治せざるを得ない事情を述べ、事前に了解をとりつけようとしていた。この書状の中で「去年の春以来、天童においては毎日城を整備補強し、その上高楯と称する地を攻略しようという風評が現実となってきた」と記しておることから、天正九年（一五八一）にはすでに高楯は最上義光の支配下におかれていたことが察知される。（この稿菅田慶恩氏のご教示による）

このように高楯城は、天童城落城の前に、最上義光の支配下に入っただが、『最上義光分限帳』等を見ても高楯氏の子孫が義光の家臣団にくみこまれた形跡はない。おそらく最上一族の内紛のとき反義光の急先鋒であったため、義光の武力討伐により断絶したのではないかと考えられる。

最上義光は天童城攻略の後、谷地の白鳥氏及び寒河江氏を討滅し、次第に版図を拡大していき、庄内や秋田県の一部まで進出したが、すでに豊臣秀吉の天下となり、天正十九年（一五九二）の奥羽仕置の結果二十四万石の知行地が与えられた。最上氏が飛躍的に伸びたのは、慶長五年（一六〇〇）直江山城守との長谷堂の戦

などで、上杉軍の関ヶ原への出撃を阻止した功により五十七万石の大名になってからである。

四、最上氏時代の高楯城

(一) 城主の変遷と軍役

関ヶ原戦の戦功により、最上氏が東北の雄藩となった時代の高楯城主は、『最上義光分限帳』

高楯

八騎 鉄炮 二十挺

一、高四千石

弓四張 鎗 四十八本

宮崎内蔵丞

とあり、また、最上氏が改易になる直前の最上家信（義俊）時代（元和三〜八年）の城主は、『最上源五郎様時代分限帳』（国立史料館所蔵

「宝幢寺文書」によると、

一、五千五百石 高楯

斎藤伊予

とあり、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原戦後から元和八年（一六二二）最上氏が改易になるまで約二十年間、宮崎内蔵丞が四千石で、続いて斎藤伊予守が五千五百石で居城したことが知られる。

分限帳以外の記録としては、村山市湯野沢の祥雲寺文書に、最上義光の弟楯岡甲斐守光直の楯岡入部の事項として「元和四年戊午年高玉より楯岡江入部 義守公ノ息男壱万六千石也」と記している。また、光直が慶長十三年（一六〇八）十月兄義光の寿命長遠と武運長久のため山寺立石寺に奉納した鰐口の願主銘に「願主山形甲斐守源光直敬白」とあって、「楯岡甲斐守」を名乗っておらず、慶長十三年当時は山形城に在城していることが明白で、また「最上義光分限帳」は慶長の末ごろ作成されたと推定されることから、宮崎内蔵丞と斎藤伊予守との

あるのは、最上川の河東・河西の一族、国人衆を指し、この和睦決裂後も「鉾楯年久シ」とあるように義光と一族等との抗争がその後も続いた。

この内紛の際高櫛氏の動きは活発で、反義光派の急先鋒の立場にあつて、常に輝宗と密接な連絡を保ち、輝宗本陣の新宿（現高島町二井宿）に出向き和議について進言（談合）するなど、重要な役割を果たしていることから、最上一族のなかでも最上義守に近い一族ではなかったのかと窺われる。ただ、前記の『記録』で、高櫛氏だけが「高楡某」と記され、名が記されていないのが遺憾である。同記録は元禄十六年

（一七〇三） 仙台藩主

伊達綱村の時代に完成したものであるが、おそらく高櫛氏は天童攻略以前に義光によって討伐され断絶したため、『性山公治家記録』を作成する当時は、その系譜が不明だったのではないかとも考えられる。

（四） 最上義光の

領国統一

天正二年（一五七四）
最上一族の内紛の後、

山形城主の義光と一族・国人衆らの抗争は、義光の領国化の強行に反抗してしばらく続いたが、反抗した一族に対する義光の憎悪の念は意外なほど強く、天正三年（一五七五）弟の中野義時を義光調伏の祈禱を行なったという口実で殺害したのをはじめ、武力でもって一族・国人衆らを討滅し河東の支配体制を固め、河西を除き最大の強敵は天童頼久のみとなった。

天童氏は最上庶族ではなく、室町幕府からも里見氏の家系をひく最上氏と対等の家柄として取り扱われた名門で、延沢・飯田・尾花沢・楯岡・長瀬・六田・成生等のいわゆる「最上八楯」の旗頭として、これらの諸豪と強固な党的結束をかため難攻不落の天童城に拠つて、義光の進攻を阻んでおつたが、義光の巧妙な策謀によって最上八楯の結束も乱れ、また重臣にも内応者が出てついに落城した。天童城の落城の年は、天正五年説と天正十二年説があつて明確でないが、近時は十二年説が有力となっている。

当時高櫛城の動向は不明であるが、天正九年（一五八二）と推定される義光が伊達政宗の叔父である留守政景にあてた書状（『砂金文書』水沢市砂金嘉門氏所蔵）に、

（前略）前々より東根へ御懇切候の間、旨趣申し理り候、如何様の子細有つて、我々閑致し候と思し召される可く候、去年春中以来、天童に於て日々城拵仕り、其ノ上高櫛と号する地懸捕可く内評現形せしめ候の間、即ち口惜の段申候のところ、東根頼息代別して奉公仕り候、其筋目引替え天童へ一味を致す事、是非無き次第に候、これに依つて此の庄に於ては、彼の面も退治す可きの旨、逼塞せしめ候、我々邪を以て此の如くニは聊もこれ無く候（後略）



天童城跡遠景

粹して掲載し、義光と最上一族の抗争の過程をみてみたい。なお、便宜上『伊達輝宗日記』（以下『日記』と略す）と『性山公治家記録』

（以下『記録』と略す）を併記して記載する。

『日記』八日、天き上々、もん九かへし候、中野・てんとう・高櫛

・^(蔵増)くらす・さかえ・左沢・白岩・本間さまの助・くさか

りしやうけん、此かたへ状指越候、にしねよりいしもた^(石母田)

・大くほ^(窪)・中崎左衛門被参候、中山の事つゝて湯豊参候、

同届候

『記録』八日壬午、中野・高櫛・蔵増・寒河江・左沢・白岩等の城主、

及ヒ本間左馬助・天童家士草刈将監等ニ御書ヲ以テ、昨

日最上表御出陣ノ由示下サル

このように天正二年五月八日輝宗の最上表出陣が、最上一族や国人衆に通報された。これらの諸将が、当時反義光派の首領であったように、十二日長崎某が、十五日には山辺右衛門も義守方となり、伊達の大軍が中山口と畑谷口から最上領に侵入してきた。義光方は領内を包囲され全く不利に見えたが、六月二日輝宗の陣営のあった新地（現上山市石曽根内）に夜襲をかけ、鉄砲を発して激しく攻め善戦している。

その後輝宗は一時米沢に帰城し戦局は膠着状態に入っていたが、七月十七日寒河江氏が再び義光方に帰参したことが報ぜられ、二十五日輝宗は再び新宿（現高島町二井宿）に出馬した。

『日記』廿六日、天き上々、ひるよりかたち、八比まで小中新地より

御参候、中野・たかたま・てんとう・くらすへ状か、せ

候、就出馬

『記録』廿五日丁酉、新宿へ御出馬、中野氏淳・高櫛某・天童和泉守

頼貞・蔵増安房頼貞等へ御書ヲ以テ、御出馬ノ由ヲ仰下サル

同時に中野・高櫛・天童・蔵増城主方に輝宗の最上表再出陣が通報された。しかし、反義光派の最上一族や国人衆らは、それぞれの思惑で参戦しており、足並みが揃っていなかったのか、やがて和解の気運が出て、八月一日高櫛城主が和議について輝宗に進言している。

『日記』一日、天きひるより雨、かたちにて候、元宗たてへ御こへ候、

たかたまちうについてたんこう

『記録』八月癸酉小朔日癸卯、公ト義光御和睦可然ノ趣、高櫛某内々

言上スル旨アリ、因テ御内談アリ

この高櫛城主の進言もむなしく、戦局は一進一退の状態であったが、谷地城主白鳥長久がこの最上の内紛の調停に動きだし、最後まで和睦に同調しなかった反義光派の中心である天童頼貞も、十一月十九日ついに和睦に同調した。ところが、同二十四日に白鳥長久より、義光と一族・国人衆の間の和睦が決裂し、再び蜂起するとの書状が輝宗に届き、さらに十二月十日に高城主と天童頼貞からも、次の内容の書状が届けられた。

『記録』十日 辰、高櫛某・天童和泉守ヨリ飛脚ヲ以テ、某等義光ト

和睦ノ義ニ付テ不快ノ事アリ、再乱ニ及ヘシト言上ス

此後義光ト東根・西根筋ノ輩和睦ノ義終ニ不済、鉾楯年

久シト云フ（後略）

反義光派の最上一族や国人衆は、対等の立場で和睦しようとしたが、義光は和睦を降伏とみなし、主従関係を強要したため、この和睦は最終段階において決裂したのである。『記録』に「東根・西根筋ノ輩」と

しからば『願正御坊縁起』にみえる中山市郎はどのような武将であったのか、在地領主はいずれも自己の住する郷・村を姓とするのが通例で、「山寺日枝神社棟札」にみえる「高擗殿」と同一人物とはどうい考えられないのである。おそらく永正の乱のときは、高擗城は天童の支城で、高擗城に援軍を派遣した領主のなかに、天童・成生とともに反伊達派の急先鋒で、寒河江の大江氏とも親密な関係にあった長崎城主の中山朝勝も含まれており、その一族の中山市郎という武将が、各地から派遣された連合軍の主将として、しばらく高擗城に在城しておったと考えられ、城下の人々は、落城時の恐怖もあって、中山市郎が高擗城主であったと久しく語り継がれたのであろう。

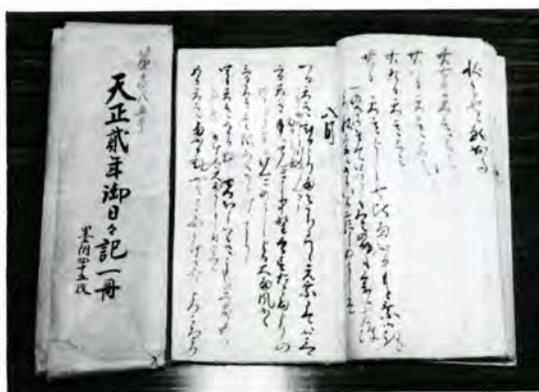
(三) 最上一族の内紛と高擗城

永正十七年(一五二〇)の永正の乱後、天文三年(一五三四)山寺立石寺の山王権現再建の棟札に「高擗殿 壹貫文」と奇進者名に連らねる程度で、最上義守、義光父子の抗争が激化する天正二年(一五七四)まで、高擗城の動静は史料等に現れずまったく不明である。

永禄年間(一五五八〜一五七〇)の末ごろから、最上氏惣領家の山形城主の家督相続をめぐる、最上義守と義光、義時の父子兄弟の対立が生じたが、宿老氏家伊予守の必死の諫言(いんげん)により和解し、元龜二年(一五七二)義守が禅門に入り隠退し、義光が最上家の家督を継ぎ、弟義時が中野城主となった。

しかし、天正二年(一五七四)に入ると、義光の支配体制に不満を

持つ一族・国人衆が、山形城の家督に野心をもつ中野義時を擁して各地に蜂起し、父義守も義時に組したほか、義守の女婿伊達輝宗も加勢して最上一族の内紛が再燃した。この最上一族の内紛の理由として、菅田慶恩氏は『山形県史一卷』で「義光が一族・国人衆に対する統制をつよめ領国化を強行した」ためとされている。当時義光の支配領域は山形城を中心とするその周辺部分に限られ、一族や国人衆の支配する領域まで支配権が及ばなかったようである。天童をはじめ一族や国人衆はおのの領主権を保持し、群雄分立の状況にあったと考えられる。義光が戦国大名として、封建的主従関係を基礎とした支配体制を確立していくためには、一族や国人衆に対する支配権と家中統制など大名領国化が不可欠で、在地領主層が自己の権益を守ろうとする考えとは相



伊達輝宗日記

容れないものがあり、伊達氏の支援を得て、山形盆地の大半の一族・国人衆を巻き込んだ最上一族の抗争として発展していた。

この最上一族の内紛と戦闘の状況は『伊達輝宗日記』(仙台市立博物館所蔵)及び『性山公治家記録』に詳しく記載されている。特にこの内紛時の高擗氏の動静を知るためには好史料なので、高擗氏の関係する部分を抜

師願正の年忌当りに高野山へ納骨の途中、加賀国で真宗本願寺派の僧寺井坊慶了と会い、寺井坊に高揃の真宗布教を要請した。寺井坊は了承して高揃に下り、居ること三年、その間に道場・庫裡などを整備した後、一時能登に帰国し、甥の教証を連れて再び高揃に來た。そのとき持参したという蓮如筆の六字名号および阿弥陀知來画像が願行寺に所蔵されているが、その裏面に墨書で、

大谷本願寺釈証如

天文三年甲午六月十四日

方便法身尊像

出羽国最上郡村山郷

高楡村専称寺什物

願主 釈 慶了

と記されている。また、寺井坊の甥の教証が四代を継承し、高揃城主中山市郎の口添えで山辺の高楡遠江守の女を室として迎えた。天文六年（一五三七）教証の代に、本願寺証如から雛形御影を下附され、寺



願行寺の方便法身尊像

号を「専称寺」と称し、寺院としての形態と格式がととのえられたのである。

これらの記録をもとに、反願正の入門、願正の死去、反願正の納骨、阿弥陀如来画像の裏書、雛形御影の下附などの時期から考察して、反願正が膝に負傷した合戦は天文以前であり、永正の乱のときではなかったのかと考えられる。このように推定した場合、『願正御坊縁起』でみるかぎり、永正末から天文の初めにかけての高揃城主は、天童氏旗下の中山市郎であったことになる。

しかし、永正の乱で山寺立石寺衆徒らが伊達軍に組みしたことを深く恨み、大永元年（一五二二）天童頼長は成生十郎らと謀議して、山寺を襲い立石寺を焼打したが、天文三年（一五三四）その焼跡に、山形城主最上義守が施主となって、山王権現を再建したときの棟札（『山寺日枝神社天文三年棟札』）には、

大威徳院

山形殿

天文三甲午

院主貳貫文

中野殿貳貫文

出羽国最上郡

別当拾貫文

東根殿貳貫文

宝珠山立石寺

高楡殿貳貫文

林鐘廿九日

小勸進貳貫文

六十六部聖

願主日向住有西

（以下省略）

とあって、高揃氏は最上義守の実父中野義清や東根氏とともに、山王権現の再建に寄進している。この標札からみて、前記の寺井坊が高揃に下って来たころには、すでに天童氏の旗下からはなれ、伊達氏の干渉などにより、最上氏の血縁もしくは親密な関係にあった一族が、高揃氏を名乗って自立していたことが察知されるのである。

・安彦薩摩・同内匠助・鈴木讃岐也、後五年而還去を許す云々
 (原漢文)

とあって、高擧城が攻め破られ、郷目右京進ら七人が捕らえられ、五年後に許されて寒河江に帰されたが、高擧城の守備に当たっていたのは寒河江大江氏等の援軍であったようである。また、高擧城は平城で、防備といっても三重の水堀のみで、周囲は田圃であったため、一旦破られたときの退却は困難となり、これら大江の援軍も捕虜とならざるを得なかったと思う。

この永正の乱で、高擧城に寒河江大江氏等の援軍が派遣されてたことについて、『山形県史(一巻)』では、「このうち高屋氏は大江氏の庶族であろう。その他は不明だが寒河江荘などの国人衆らしい。(中略)



龍池山願行寺

これら寒河江庶族や寒河江荘などの国人衆らが、最上庶族の居城高擧城にこもって伊達軍に反抗していたのである。ここに旧来の血縁関係などをこえた新しい地域的結合を見ることができると記している。おそらく各郷村の支配者である国人衆たちは、苦勞して培ってきた自己の權益が、伊達氏によって脅かされるという危機感から、相互に党

的結合を固め、主戦場と予想される天童・高擧に援軍を派遣したものと思う。

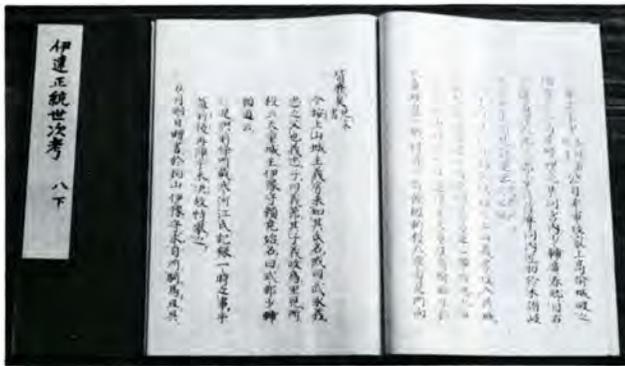
ところで、この当時の高擧城主については、『山形県史』及び『天童市史』には「最上庶族の居城」とあり、地元の伝承では「天童旗旗下の中山市郎」といわれている。地元の伝承は前記の『願正御坊縁起』によるもので、同縁起は後世の天和元年(一六八二)に、願行寺第七世良頓が、高擧専称寺が山形に移された後、本寺ともいふべき願行寺が衰運に傾いているのを嘆き、その本末を明らかにしようとの意図のもとに作成されたもので、根本史料として採用するのは適切ではないが、同縁起にもとづき当時の高擧城主について検討してみたい。

本願寺蓮如の高弟願正が、文明七年(一四七五)高擧に道場を建立して布教活動をおったが、永正三年(一五〇六)願正が死去した後、道場も荒廃してしばらく後継者が絶えておった。そのころ『願正御坊縁起』によれば、

其コロハ天童ノ旗下ニテ高瑜古城ノ主ヲ中山市郎トイフ、山形ト天童ト領内ヲ諍ヒ合戦スルコト年久シ、塚目孫右衛門ハ検断職ノ奉公人、アル時ノ軍ニ膝ニ手負不行歩トナル、市郎殿孫右衛門ヲ召テ、汝ハ不行歩ナリ、悴ヲ奉公ニ出シ隠居セヨ、願正ノ弟子トナル者ナレバ願正屋敷ヲトラスル也ト云々

と、武士であつて願正の弟子でもあつた塚野目の佐藤孫右衛門長久が、当時の高擧城主中山市郎にすすめられて、師願正のあとを継いだ。孫右衛門は、山形天童の戦の折り膝に傷を受け、歩行が不自由だからだをそらして歩くので、「反願正」とよばれたという。

反願正が二代を継承した後、『願正御坊縁起』によると、反願正が



伊達正統世次考

二回にわたり、最上川の流域に沿って寒河江に軍を進める抗争があり、最上衆にとっては大きな脅威となっていた。天童氏はこれらの情勢に対応して、文明七年（一四七五）に高擗城を築城した後も、遂次城の拡充と整備を怠らなかつたと思われ、『皇太神社縁起』に「城郭を築かんとし、濠を掘らしめしに偶然一石像を得たり」とあるは、おそらく明応二年（一四九三）に二の堀の拡張整備を進めているさなかに、同社の御神体である石像を発見したのではないかと考えられる。

次に、この当時の高擗城の縄張りと城下の形成については、第四節で一括して考察するが、同時代の山形城・長瀬城・蔵増城・中野城等と同じように、これまで使用してきた居館（方形館）を本丸とした輪郭式の平城で、伊達氏あるいは山形最上氏の侵攻を意識して、東・南・西の三面を重視した縄張りで、城を中心に四方に町割や街路が整備され、永源寺・石佛寺・安楽寺などの各寺院が、現在地に移転再建し、今日の高擗の町並みの基本が、この時代に完成したものと考えられる。

(二) 永正の乱と高擗城

文明年間に天童城の支城と

して高擗城が築城されてから、永正の末ごろまで約四十年高擗城の動向は、史料・記録に現われなくまいった不明である。

永正十一年（一五一四）南奥羽に一大勢力を扶植しておいた伊達植宗が、北進の野望を実行にうつし、樋下口と小滝口から大軍を進め、上山城と長谷堂城を攻略し、山形城主最上義定は一時中野城に退避しなければならぬほどの脅威にさらされた。この合戦は、義守に植宗の妹を娶らせることで一時和議したが、一子をもうけないうち義定が永正十七年（一五二〇）死去したので、最上宗家に対する伊達氏の内政干渉が強まり、それに反発して天童氏をはじめとする最上衆が、いっせいに蜂起して伊達植宗に反抗した。この永正の乱の状況は、伊達氏の正史である『伊達正統世次考』に、

夏四月、公自から兵を率いて羽州上ノ山義房の其城に攻め入り、或は斬殺或は退散、遂に以て之を抜く、義房の逆心によること顕形也、九日公馬を山形にうつし、廿七日陣を天童及び高楡に進む、晦日天童城辺に於て一戦首百余級を得、大衆を斬殺す、是より向所皆靡
 候（原漢文）

と見え、永正十七年四月伊達植宗自ら兵を進め、上山城を陥落させて山形城に入城し、二十七日天童、高楡の二城を攻め、三十日天童城附近で、高擗などの反伊達軍が百余人も討死する激しい合戦が行なわれた。また、近郷の住民が多数斬殺され、最上は伊達の強力な軍事力により制圧されたのである。

また、この戦のときの記録と推定される同文書に、

永正年中公自ら軍を率い最上高楡城を攻めて之を破る、虜七人を捕える、高屋修理亮某・同宮内少輔 春・郷目右京進・富沢太郎三郎



皇 太 神 社

七五) 本願寺蓮如の高弟願正が、師と別れた天童周辺で布教活動をしているところ、天童城の支城として高櫛城が築城中で、その城下経営の一環として天童氏より寺地を賜り、念仏道場を建立して留住したことが察知され、道場を建立した場所は、高櫛城下の西楯南隅といわれている。

に地を占め、一字を造営し尊像を奉安し大日尊と併称し、百世の鎮守と崇拝せうる云々

とあって、明応二年(一四九三)に天童城主頼直の隠居城として、高櫛城が築かれたことが窺われるが、同縁起の作成年代は不明で、しかも明応二年(一四九三)は、源(天童)頼直の没後六六年を経過した時期

で、年代的にも符合しなく、その信憑性が疑われる。

しかし、この時期は、天援三年(一二三八〇)南奥羽

この時代は、応仁の乱がおこり、全国いたるところで諸豪族が抗争し、また、山形最上氏の権威と惣領制も衰微し、各地に分封した一族や国人衆の分立・独立の傾向が強まってきた時期で、おそらく天童氏もこのころ高櫛に支城を築き、領内の防備を固めたのであろう。

また、高櫛城の築城にかかわる記録として、天童市高櫛に鎮座する『皇太神社縁起』(『高櫛郷土史』所収)によれば、

後土郷天童明応二年癸丑、天童城主源頼直隠居城郭を築かんとし、濠を掘らしめしに偶然一石像を得たり、頼直熟検し畏くも天照皇太神即ち大日靈貴命の尊像を得たりとなし、欣然祝して曰く、城を構へんとし先づ此の奇あり、応さにはれ吾城の不朽永存の端なるべしと、直ちに郭内荒廢極まりなき社名不詳の一小社あるを毀却し、是

の伊達氏が、長井氏を滅して置賜全土を領有し、さらに北進して最上地方をも攻略しようとする野望を抱き、文明十一年(一四七九)及びその翌年の



高櫛城二の掘跡(昭和20年代)

その家臣伊達伯耆守を伊達城に置いた。^(注2)

③永正十七年(一五二〇)の乱のとき、反抗した天童・高擯・寒河江等を監視するための伊達軍駐留基地であった。^(注3)

などの諸説があるが、いずれも確証がなく不明である。

この諸説のうち、③については、最上宗家の継嗣問題からんで、伊達氏と最上一族や国人衆が対立し、後記するように高擯城が破られ、この伊達ノ城附近で百余人も討死する激戦があったことは事実で、伊達ノ城にあった曹溪山永源寺が大永年間(一五二一〜二七)に高擯の地に移転再建していることから、おそらくこの乱のとき兵火に焼かれたとも考えられ、この永正の乱の合戦は根強く郷民の間に伝承され、伊達ノ城の字名も伊達の大軍が駐留したことから由来しているといわれている。確かに伊達ノ城の占める地域は、旧羽州街道と山寺を結ぶ交通上の要衝にあって、伊達軍に反抗した天童・高擯、さらにはこれを声援した寒河江の大江氏等を監視するには格好の地点で、伊達軍が方形の城塁を築き、しばらく駐留したことが窺われるが、これを裏付ける史料はなく、今後の調査研究が期待される。

▲注1▼ 『高擯郷土史』 五三頁

▲注2▼ 川崎浩良著『山形の歴史』 上巻 一四九頁

▲注3▼ 郷土史家高橋俊一氏の説

三、戦国争乱期の高擯城

(一) 高擯城の築城と城下の形成

高擯城が方形館から、本格的な城郭として整備された時期については、これを裏付ける根本史料はないが、天童市高擯の願行寺に所蔵さ

れている『願正郷坊縁起』の元祖願正御坊の項に、

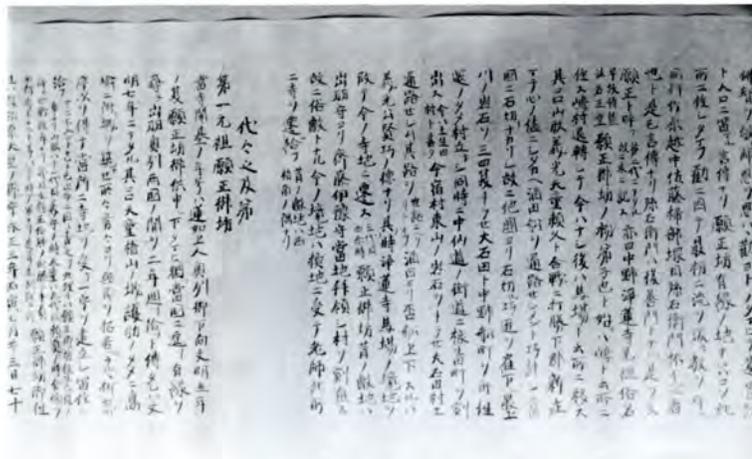
寺開基ノ年号ハ、蓮如上人奥州郷下向、文明五年ノ夏、願正坊御供申シ下タマヒ、獨リ當國に逗リ有縁ヲ尋ネ、出羽奥州兩國ノ間ヲ二年廻リ給フト傳タレハ、文明七年ニアタル、其コロ天童楯山ノ城護助ノタメニ、高擯ニ附ケ城ヲ築カセ、所々旁々ヨリ衆民ヲ招居ヘラル、折節、序次ヲ得テ 所ニ寺地ヲ受ケ一字ヲ建立シ留住シ給フ

(以下省略)

とあり、文明七年(一四七五)天童城の支城として高擯城が築城されたことが窺われるのである。

願行寺はもと専称寺と称し、室町後期の最上郡内における真宗教団の中心的な寺院で、慶長元年(一五九六)最上義光

により山形に移された後は、龍池山願行寺と寺号を改めた寺院である。前記『願正御坊縁起』によれば、文明七年(一四



願正御坊縁起(部分)

等も有今畑地に相成居候処、天保三年右畑地より三足鼎湯釜掘出し其器尚存在す、村吏工藤磯治所持候事

とあり、八幡義家云々は肯定されない。この附近一帯は古代の芳賀郷のあったところで、最上三鳥居（山形県指定文化財）の一つである「清池の石鳥居」をはじめ、鎌倉から室町期にかけて宗教文化を中心に寺



清池の石鳥居

院跡や板碑等が多く遺存されており、当時の羽州街道に沿って集落が発達し、中世の方形城館跡があったことは事実である。

しかし、義直が高擗に入部したころは、斯波（最上）氏が文中二年（一三七三）寒河江の大江氏（後に寒河江氏と称した）を降し、北畠天童丸とも和睦した後で、義直の高擗入部の目的は、外様領主となった寒河江氏

の監視を兼ね、主として領内の治安維持と鄉村支配にあったと考えられる。また、この時代に川東一帯に分封された最上庶族の鄉村支配の拠点は、水田稲作と関係が深い地点に、鎌倉時代の武士館を原型とする方形の館を築き、それをとりまく水濠を水田に利用する兵農一致の形態がとられていたようである。義直が高擗館を築館したと比定される字楯ノ城附近は、「高楡」と呼ばれた地名の由来や伝承もなく、ま

た、立谷川扇状地の扇央に位し、砂礫層のため水田稲作には適しておらず、むしろ古くから立谷川扇状地扇端の湧水を利用しての水田稲作や村落が発達しておった現在の高擗が、天童山城、成生館、寺津館等との連携や、鄉村支配のための統治拠点に適しておったと考えられる。

山形盆地に散在した最上一族や国人衆の居城は、一般に応永年間（一三九四～一四二八）ごろ方形館が築かれ、文明年間（一四六九～一四八六）ごろそれを核として、城郭に改造されたと伝えるものが多いといわれ、おそらく高擗城も天童城の支城として、文明七年（一四七五）義直時代の館跡を中心に、輪郭式の城郭に整備されたために、当時の方形館の痕跡が後世に残されなかったのではないかと考えられる。

このように義直が「高楡」に入部して方形館を築館した位置は、当時その一帯でもひととき大きな流れである北方の京川みやがわと南方の左堰（俗に樋口川）の中間北方に位置し、微高地で縄文中期の西楯遺跡（仮称）のある現在の天童市大字高擗字楯之内中央部附近ではなかったかと想定される。高擗館の規模等については不明であるが、おそらく当時の方形館の形態及び廃城後の元和九年（一六二二）の検地帳に記載されている高擗城本丸跡の面積（三筆合計六反五畝四歩）からみて、一辺の長さが約五〇間程度で一重の水堀をめぐらした方形の館ではなかったかと思われる。

ところで『角川日本地名大辞典』で、義直が高擗館を築館した場所といわれる楯之城（伊達ノ城）については、

①北畠天童丸に随行してきた南朝方の伊達一族の居館と、その荘園（伊達ノ庄）があった。（注）

②斯波兼頼の末弟義宗を、成生荘地頭里見義景の養子に入れた際、

現在地に移り宝永年間（一七〇四〜一七一）に正法寺と改称したもので、いずれも義直が開基若しくは葬られた形跡はない。

なお、最上家系図以外の記録として、『山形県寺院大総覧』（山形県寺院総覧編纂委員会編）によれば、天童市高楯の曹溪山永源寺（曹洞宗）の開基は、二代山形城主斯波直家の四男高楯義直で、その法名は「永源寺殿儀山常雄大居士」とある。永源寺の創立は永正年間（一五〇四〜一五二二）に、本寺である山形市法祥寺第五世白円耕叟が天童市清池東方に堂宇を建立し延命山永源寺と称したのがはじまりで、大永年間（一五二二〜一五二八）に現在地に移転したと寺伝にあるが、白円耕叟は永正年間ごろの人で、義直が高楯に入部した時期と約百年の隔たりがあり、義直の開基とはとうてい考えられない。

義直の高楯入部後の動静については明確な史料はないが、前記「最上家系」（光明寺本）に「高楯殿或蔵増殿、此子孫小国日向守光基、同子親景、義俊改易之時肥前鍋嶋家預之、子孫在今」とあり、また、「最上家系図」（宝幢寺本）に「高楯殿、倉増殿とも云」とある。おそらく天童氏



曹溪山永源寺

が成生館から天童城に移った後に、支配する郷村に変動があり、高楯館から倉津（蔵増）館に移ったと考えられ、その子孫は代々倉津安房守を名乗り、最上義光時代は小国城（現最上町向町）八千石の城主となり、最上氏改易に際し肥前鍋島藩に預けられた。

(三) 創始期の高楯館

斯波（最上）氏が領国支配権を確立するため、一族を各地に分封し、二代直家の四男義直が「高楯」に配置されたことは前記のとおりで、領内郷村を支配するため高楯に館が築かれたことが考えられる。しかし、その築館した位置については明確でなく、『角川日本地名大辞典』（山形県）には「応永年間、最上氏初代斯波兼頼の四男義直が当地に分封され楯を築いたが、当時の楯は羽州街道の東方の字楯ノ内付近にあり、五〇間程度の方形をしていたと推定される。」とあり、また、丸山茂氏の『最上四十八館の研究』によれば、山形城の先哨戦として、天童頼直、または寺津氏等と密接な連絡のもとに、寒河江の大江氏や北畠天童丸を初め、東根の小田島氏等の南朝党に対する警備のため、当時の羽州街道の東一帯の地―伊達城（俗に楯の城） 附近に築かれたとある。

『角川日本地名大辞典』の「最上氏初代斯波兼頼の四男義直」は、「最上氏二代直家の四男義直」、また、「字楯ノ内」は「字楯ノ城」の誤りであるが、高楯館の築館の場所といわれる字楯ノ城附近は、明治九年の芳賀村戸長書上地誌に、

一、古城居村より八丁余辰の方で字楯ノ城と唱ひ候処、地元八幡太郎義家奥州征討の砦に築立候場所と申伝候、尤回形の土手堀



高櫛城（本丸）跡

「たかたま」と呼ばれておったことは明白である。また、宝幢寺本・常念寺本に義直の分封地が「高櫛」と記されているのは、宝幢寺などが最上氏系図を作成した当時、すでに櫛の字が櫛の字に当てられて使われており、菊地蛮岳旧蔵本の「高玉」は明らかに櫛の字の当て字で格別問題はない。しかし、「最上家譜」ほか二本の系図に「高櫛」と記された背景について若干検討を加えてみたい。

一般的に高櫛というのは、丘陵や台地に占地する城館跡に多い。高櫛城は一メートル程度の微高地にあるが、立谷川扇状地扇端の一・五キロメートルほど西方の平地に立地し、高櫛というイメージはない。おそらく系図に「高櫛」と記された背景には、高櫛城（現山辺町山辺）との混同が考えられる。高櫛城は山辺城と芦沢堰を境として、その北方の丘陵上に、宝徳元年（一四四九） 武田信安が築城したと伝えられる

輪郭式の城で、その後高櫛遠江守正福が城主となり、「最上分限帳」

（山形市史料編1最上氏関係史料所収）によれば二千五百石を知行していた。山辺町の高櫛山正福寺は、正福が天正十七年（一五八九）に開基した寺であるが、同寺の記録によれば、正福は最上氏二代右京大夫直家の四男義直の

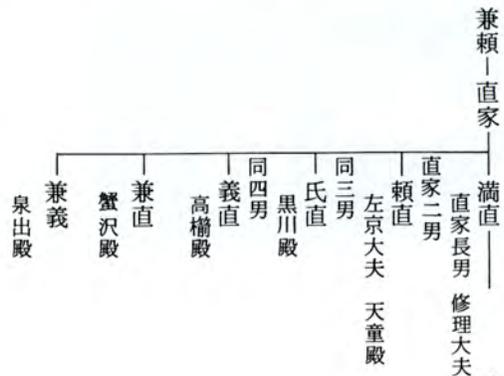
末裔とある。正福は元和元年（一六一五）大阪夏の陣に従軍して、行年五十七歳で戦死し、その子高櫛遠江守は、最上氏改易の際、最上家信（義俊）に従って近江国大森に赴き、代々大森最上家に重臣として仕えた。

義直の分封地が「高櫛」となっている系図は、「最上家譜」及び「最上家系図」の二本のほか、「最上氏系図」に、「高櫛 今の呈譜高櫛と号す」とある。「最上家譜」及び「最上氏系図」は、寛政年間（一七八九～一八〇二）に先に編さんされた「寛永諸家譜」の全面的な改撰にもなっており、大森最上家が作成したもので、「光明寺本」は、慶安元年（一六四八） 光明寺が大森最上家に伝わる系図を借受けて書写したものである。「最上家譜」等に義直の分封地が「高櫛」とあるのは、寛政年間江戸幕府に大森最上家の家譜を提出する際、重臣の高櫛氏が「高櫛」と「高櫛」を混同して、書き上げたためではないかと考えられる。

次に、義直の事蹟としては、前記の菊地蛮岳旧蔵「最上家系図」の添書に「正法寺殿」とある。また、同氏旧蔵の「最上・天童・東根氏系譜」は、四男義直と五男兼直の添書が入り替わっているが、これは明らかに誤りで、「正法寺殿」は義直の添書とみてよい。この系図から推察して、義直が正法寺を開基若しくは同寺に葬られたことが考えられる。しかし、村山地方で「正法寺」と称する寺院は、天童市矢野目の如来山正法寺と中山町長崎の金剛山正法寺の二寺があり、如来山正法寺は、曹洞宗で元禄十年（一六九七）の創立、開基は妙佐信尼といわれ、本寺は山形市法祥寺である。また金剛山正法寺は、嘉慶二年（一三八八）の開基で、もと長慶寺と称し中山町岡にあったが、後に

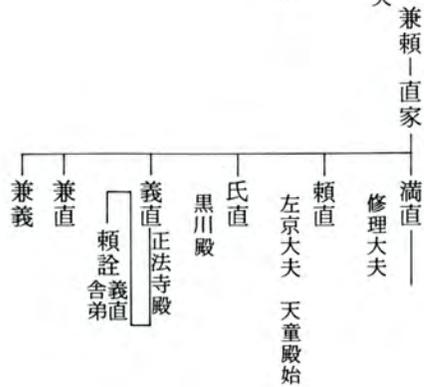
⑦最上家系図

(山形市三日町常念寺所蔵)



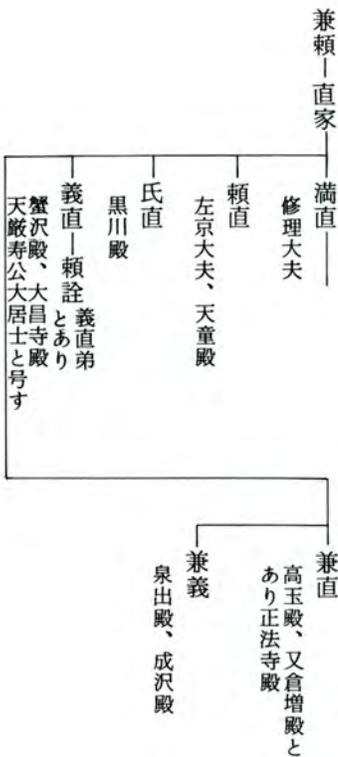
⑧最上家系図

(菊地蛭岳旧蔵)



⑨最上・天童・東根氏系譜

(菊地蛭岳旧蔵)



以上九本の最上氏系図をみれば、直家の五子のうち四男義直を除いた庶子の分封地は、各系図ともほぼ一致しているが、義直については多様で整合性がない。これらの系図は、江戸幕府の命によって作成されたものや、光明寺・宝幢寺などの寺院が後世に書写したもので、大正時代に書写した菊地蛭岳旧蔵のものを除いて、すべて江戸時代に作成されたものである。後記の永正の乱の記録である『伊達正統世次考』（仙台市立博物館所蔵）や、最上一族内紛の際の伊達家の記録である『性山公治家記録』（『伊達史料集』（下）所収）に「高榎」と記され、また、天正十四年（一五八六）最上義光が山寺立石寺に油田として、重澄の郷（天童市萩野戸地内）の内二貫八百五十文の畑地を、「高榎小僧丸」の施主名で寄進した寄進状（山形市山寺立石寺所蔵）からみても、最上氏系図が作成される以前から、「高榎」の地名があり、



最上義光（高榎小僧丸）寄進状（山寺立石寺所蔵）

『性山公治家記録』（『伊達史料集』（下）所収）に「高榎」と記され、また、天正十四年（一五八六）最上義光が山寺立石寺に油田として、重澄の郷（天童市萩野戸地内）の内二貫八百五十文の畑地を、「高榎小僧丸」の施主名で寄進した寄進状（山形市山寺立石寺所蔵）からみても、最上氏系図が作成される以前から、「高榎」の地名があり、

の分封地や事蹟等について検討してみたい。

① 寛永諸家譜（最上氏）

（国立公文書館所蔵）

兼頼—直家
満直
修理大夫
頼直
右京大夫天童と号す

② 最上家譜

（東大史料編さん所架蔵影写本）

兼頼—直家
満直
修理大夫
頼直
天童右京大夫
氏直
号黒川殿
義直
高楯
兼直
号蟹沢殿
兼義
号鳴沢殿泉出

③ 最上氏系図

（『寛政重修諸家譜』所収）

兼頼—直家
満直
修理大夫
頼直

④ 最上家系

（山形市七日町光明寺所蔵）

兼頼—直家
満直
修理大夫
頼直
伊予守右京大夫
称天童殿
氏直
黒川殿
子孫今号芦川

右京大夫家臣となり
天童と称す
之より以下庶子にして、
家号を異にするのは、
皆宗家の領国に住し、
其地名を家号に用ふ

⑤ 兼頼公系譜

（山形市七日町光明寺所蔵）

兼頼—直家
満直
修理大夫
頼直
右京大夫 天童殿初
氏直
黒川殿
義直
高楯殿
兼直
蟹沢殿
兼義
泉出殿

⑥ 最上家系図

（宝幢寺本）

兼頼—直家
満直
修理大夫
頼直
左京大夫 天童殿
天童の初に
義頼二男
氏直
黒川殿 兼頼二男
義直
高楯殿 倉増殿とも云
同三男
同四男
兼直
蟹沢殿
同五男
兼義
泉出殿

氏直
黒川と称す
義直
高楯今の呈譜
高楯と号す
兼直
蟹沢と号す
兼義
泉出と号す

義直
高楯殿、或蔵増殿
此子孫小国日向守光基、
同子親景、義俊改易、
之時肥前鍋嶋家預之、
子孫在今
兼直
蟹澤殿
兼義
泉出殿、或鳴澤殿

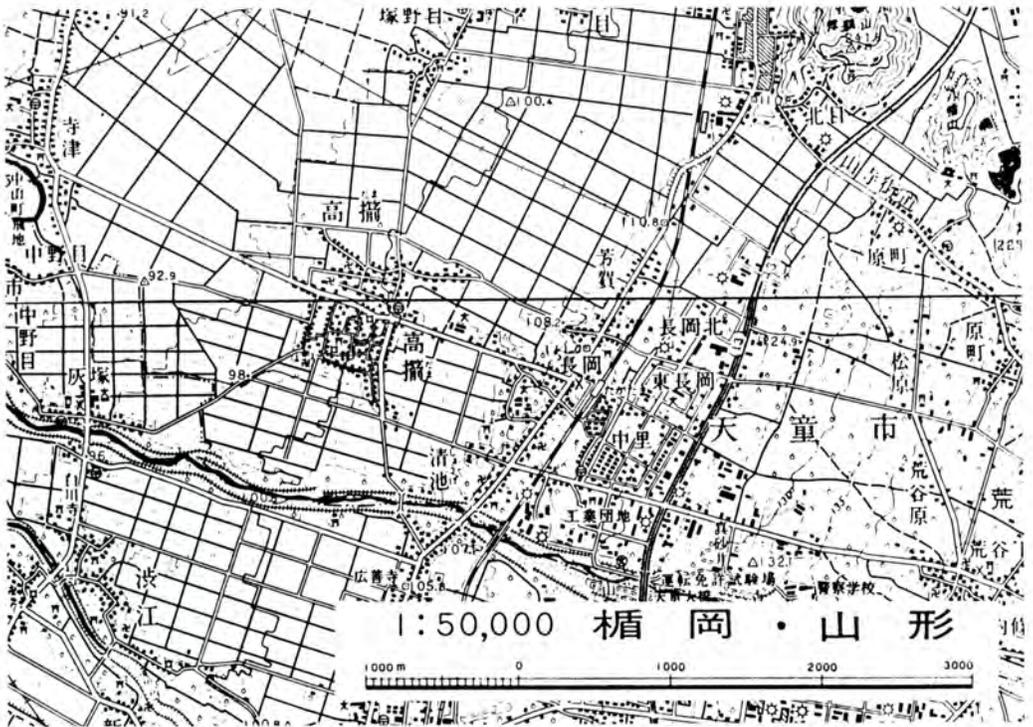


図1 高掬位置図

直家四男の義直が、高掬に封ぜられた時期については、事蹟や史料が一切残されていないので不明であるが、弟兼直の蟹沢館における事蹟として、応永年間に君船山大昌寺（現在の守源寺）の開基となり、応永三十四年（一四二七）死去し、法名を「大昌寺殿天敵寿公大居士」と号して大昌寺に葬られていることから、五男兼直が蟹沢に封じられた時期は応永年間の初めと推定され、四男義直もほぼそのころ高掬に入部にして、支配する御村名を苗字とし、高掬義直と称したと考えられる。

(二) 最上氏系図と高掬義直

高掬義直の分封地は、前述のとおり「高掬」というのが、今日の地方史研究ではほぼ一致した見解であるが、各種の最上氏系図（山形市史料編1最上氏関係史料所収）の添書によれば、義直の分封地について、「高掬」が三本、「高楯」が二本、「高櫛」が二本、「高玉」が一本で、必ずしも同一ではない。

わが国は古来より家柄や由緒を誇る風潮があり、多くの系図や家譜の中には、粉飾や創作して作成されたものが少なくないといわれ、それをそのまま史料として利用することは極めて危険であるが、系図の創作は、藤原・源・平・橘等の氏族の流れに無理して組み入れるなど、主として系図の初期の部分に多くみられ、その以後は、家督継承など格別の混乱が無いかぎり創作は少ないといわれ、特に史料が少ない中世の史的研究にとっては、貴重な史料となるものである。高掬義直の事蹟や史料は皆無に等しく、この最上氏系図が唯一の史料となるため、各系図の高掬義直に関係する部分を抜粋して掲載し、混同する義直

さらに、高擡城の遺構は、戦後の急速な社会情勢の変化にともない、堀跡などは埋立られて畑や宅地化され消滅寸前にあるので、この機会に江戸時代の村絵図、明治七年の地籍図及び昭和二十二年に調査した二の堀の実測図等をもとに、高擡城の縄張りと城下の形成についても考察してみたい。

高擡城の興亡

なお、今日の「高擡」の地名は、地理学的にはタマは田間のことで湿地を意味し、高擡は低湿地中の微高地にある集落であったので「タカダマ」と呼ばれたという説がある。また、吉田東伍博士の『大日本地名辞典』に、「榆を擡に誤る（中略）榆は、和名ニレなり、而も、東北の方言、ニレをタモ、またタマと呼ぶ、故に此に榆字を用いたり」とある。おそらく古代から高擡の地は、立谷川扇状地扇端の自然湧水が幾条にも流れ、その岸边には湿地を好み高木となる「ヤチタモ」が繁り、稲作を営む村落は「高榆たかたま」と呼ばれておったと考えられる。本稿では、室町から江戸初期にかけての古文書等には、「高榆」または「高擡」と記されているが、引用史料等特別の場合を除き、現在地名の「高擡」の文字を用いることとする。

二、高擡館の築成

(一) 最上氏一族の分封

元弘三年（一一三三）鎌倉幕府が滅亡し、一時後醍醐天皇による建武新政が実現したが、まもなく足利尊氏の北朝擁立によって、全国いたるところで守護・地頭・諸豪族が南北両朝に分れ抗争するようになる。山形盆地周辺でも、南朝方としては、源頼朝を助け鎌倉幕府創設の功臣である大江広元の子孫で、寒河江を中心に川西一帯に勢力を伸

しておった大江氏をはじめ、鈴川山家館の山家信彦、天童城の北畠天童丸、東根の小田島長義等が、北朝方としては、谷地の中条氏、成生庄の里見氏等があった。

この南北両朝の抗争が相次ぐ出羽国の北朝勢力の拡大を図るため、正平十一年（一一五六）八月足利一族で奥州管領（探題）斯波家兼の二男斯波義頼が、羽州探題（出羽大将）として山形に入部してきた。義頼は山形城を根拠地として、最上氏（斯波氏は後に最上氏と称した）二代直家の二男頼直を成生の里見氏（後に天童氏と称した）の養子に入れ、山家氏とは姻戚関係を結び和議し、さらに文中二年（一一七三）大江氏を降した後は、北畠天童丸とも和睦したようである。着々と山形盆地にその勢力を扶植していった。

最上氏略系図



これらの領国の支配権を固めるため、最上氏二代直家は、頼直・氏直・義直・兼直・兼義等の庶子を、天童・黒川・高榆（現天童市高擡）・蟹沢（現東根市蟹沢）・泉出（現山形市成沢）に封じ、三代満家も満基・満頼・満国等の庶子を中野（現山形市中野）・大窪（現村山市大久保）・楯岡にそれぞれ配置した。

高擡城の興亡

— 戦国争乱期を中心として —



高擡集落の航空写真（昭和51年）

一、はじめに

山形盆地のほぼ中央部、立谷川扇状地扇端西方に、方形に町割りされ、今なお小城下町のおもかげを残す高擡の集落がある。この高擡の集落は、街道に沿った宿場町や耕地の周辺に自然発生的に発達したものでなく、中世後期から近世初期にかけて、高擡城の城下町として計画的に形成された集落である。

高擡城は、応永年間（一三九四～一四二八）最上氏二代直家の四男義直の創始といわれ、以来元和八年（一六三二）江戸幕府によって最上氏が改易され、高擡城も接收廃城なるまで約二百年間存続した。しかし、義直が分封された高擡の位置についての疑問、最上氏系図における義直の分封地の不整合及び戦国争乱期における高擡城の動向については、斯波兼頼の山形入部から最上氏の領国支配の過程のなかで、断片的に敬見される程度で、まだよく説明されていない。本稿では、高擡城に関する史料の制約もあるが、最上氏・伊達氏関係史料及び地元の社寺記録等により、最上氏系図の不整合、創始期の高擡館の位置、地元で伝承する戦国争乱期の高擡城主、最上一族内紛時の高擡城の動向などを中心に、高擡館の築館から最上氏改易による廃城にいたるまでの、高擡城の興亡にかかわる諸問題について検討してみたい。

副館長 萩野和夫

昭和62年3月20日 印刷

昭和62年3月30日 発行

山形県立博物館研究報告 第8号

編集・発行者 山形県立博物館 ©

山形市霞城町1-8

TEL・(0236) 45-1111

印刷所 アベ印刷株式会社

